

第5章 自然科学分析

第1節 自然科学分析の目的と概要

1 SN01・SR01の古環境復元

北野遺跡0区で検出した水田SN01とSR01の古環境復元を目的として、2003年の発掘調査時にパリノ・サーヴェイ株式会社に分析を委託した。分析内容は、堆積層の観察、軟X線分析、放射性炭素年代測定、花粉分析、植物珪酸体分析である。

堆積層の観察では、人間活動以前からSN01廃絶までの状況が明らかにされた。SN01は畦畔が確認されたことにより水田として調査された遺構である。SN01畦畔が検出された層には土壤発達が確認されたが、この層相に人為的な營力が関与しているかは不明であった。また、この層からイネ属植物珪酸体は検出されず、花粉化石や珪藻化石もほとんど認められなかった。植物珪酸体組成からSN01が水田である点を検証するのは難しいという結果になったが、一方で畦畔や発達した土壤層の存在からSN01が水田である蓋然性は高い。

SR01 河道2堆積層には花粉化石が良好に残存している可能性が考えられたため、周辺環境復元の材料を得るため花粉分析を実施した。その結果、縄文時代晩期後半(突帯文II b期)～弥生時代前期前半(前期I c期)の遺跡周辺には、暖温帶林が成立し、開けた草地もあったと推定された。今後も周辺地域での花粉分析を継続して行うことで、平野内における植生の変化などに言及できるものと考える。

晩期後半(突帯文II b期)の縄文土器が出土したSR01河道2下層からは、木材(イヌガヤ)が出土した。SR01河道2の年代を特定する材料を得るため、この木材を対象とする放射性炭素年代測定を実施した。得られた測定値は、 3940 ± 130 BPと、同層から出土した遺物の年代と齟齬がある。流路開削の上限が縄文時代後期にさかのぼる、または、河道4に含まれる木材をSR01河道2が巻き上げた、などの可能性が考えられるが、本報告書では共伴土器を重視して、SR02河道2の年代を縄文時代晩期後半としておく。

2 焼成土塊・弥生土器の胎土分析

北野遺跡SD24(弥生時代前期後半)からは、焼成された粘土が94点出土しており(SD05、SD07からも3点出土)、本報告書では焼成土塊と呼称している。焼成土塊は、単なる塊状のもの、板状の粘土を折り曲げて重ねたもの、一部に平坦面をもつもの、一部に窪みをもつものなど、形状に複数のバリエーションがある。サイズは、大きなもので約7.0×6.0×2.5cm、小さなものは約1.0cm×1.0cm×0.5cmである。これらの焼成は必ずしも良好ではなく、黒斑を有するものが目立つ(註1)。焼成土塊は器形が明確な弥生土器や土製品とは異なり、機能としての目的が明瞭な道具とはいえない。こうしたもののが広く流通するとは考えにくいため、焼成土塊は遠方から持ち込まれたのではなく、SD24やSD05、SD07の近傍で製作された可能性がある。肉眼観察によれば、焼成土塊の胎土は共伴する前期の弥生土器のそれと類似する。こうした点から、焼成土塊は土器製作時の粘土の残余が土器とともに焼成されたものと考えた。焼成土塊を土器製作と結びつけるためには、胎土の類似性が問題になる。そこで、SD24から出土した焼成土塊と弥生土器を対象に胎土分析を実施した。

分析の結果、焼成土塊試料1 (565)・2 (566)・3 (567)と弥生土器試料4 (559)・5 (560)・6 (561)・7 (562)・8 (563)・9 (564)では、いずれも石英・長石の中粒シルト～細粒砂が目立ち、試料2以外の8点には深成岩の細粒砂～細礫の深成岩が認められた。すなわち、焼成土塊と弥生土器の胎土は近いといえる。

3 サヌカイト製石器の蛍光X線分析

香川県内で用いられる弥生時代のサヌカイト製石器は、主に金山産と考えられているが、蛍光X線分析が行われた事例は限られる（第3表）。北野遺跡出土のサヌカイト製石器も金山産と推測されるが、自然面の産状や、剥離面にみられる斑晶の量に若干の差がある。こうした点を踏まえて、弥生時代前期後半のSD24出土のサヌカイト製石器30点について蛍光X線分析を実施した。

分析の結果、試料13 (580)・14 (581)・19 (586)・26 (593)の4点を除く26点が金山（金山東、金山東南、金山南）と判定された。13 (580)は蓮光寺、国分寺、14 (581)は国分寺、蓮光寺、19 (586)は法印谷、来峰第1群、26 (593)は岩屋第2、白峰である。金山以外の4点のうち、自然面が残る13 (580)・14 (581)・26 (593)の自然面には小さな気泡が少量あり、筋が認められないという特徴を共有する。ただし、いずれも自然面の残存面積が多くではなく、金山と判定された試料1 (569)の自然面の特徴も試料13 (580)・14 (581)・26 (593)に近いため、現状では金山と、国分寺や蓮光寺といった国分台周辺地域とを肉眼で鑑別できるとはいえない。今後、自然面の残る資料を中心に分析データを蓄積して検討する必要があるだろう。

註1 同様の特徴をもつ焼成土塊は、弥生時代前期後半～中期初頭の鶴部・川田遺跡（香川県さぬき市）でも出土している。財團法人香川県埋蔵文化財調査センター編（2001）の遺物番号3501～3525を参照。

参考文献

- 香川県埋蔵文化財センター編 2005「香川県埋蔵文化財センター年報 平成15年度」香川県埋蔵文化財センター、pp.17-25
- 財團法人香川県埋蔵文化財調査センター編 2001「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第10冊 鶴部・川田遺跡」
- 香川県教育委員会ほか
- 株式会社パレオ ラボ 2017「本村中遺跡出土サヌカイト製石器の産地推定」香川県埋蔵文化財センター編「県道紫雲山線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 本村中遺跡」香川県教育委員会、pp.133-136
- 竹原弘展 2012「西末則遺跡出土サヌカイトの産地推定」香川県埋蔵文化財センター編「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊 西末則遺跡Ⅲ」香川県教育委員会、pp.218-221
- 竹原弘展・藤根 久 2016「十川東・平田遺跡出土サヌカイトの産地推定」香川県埋蔵文化財センター編「県道高松長尾大内線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」十川東・平田遺跡、香川県埋蔵文化財センター、pp.106-108
- 竹原弘展 2017「北岸南遺跡出土サヌカイト製石器の産地推定」香川県埋蔵文化財センター編「国道438号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊 北岸南遺跡」香川県教育委員会、pp.69-71
- 有限公司遺物資料研究会 2014「川津六反地遺跡出土サヌカイト製造物の産地分析」香川県埋蔵文化財センター編「国道438号道路改良工事・県道富野宇多津線道路改良工事・城山川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川津六反地遺跡 川津昭和遺跡」香川県教育委員会、pp.224-240
- 渡辺正巳 2018a「サヌカイト製造物の産地同定」香川県埋蔵文化財センター編「香川県立丸亀陸上競技場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 平池南遺跡」香川県教育委員会、pp.219-221
- 渡辺正巳 2018b「淡佐遺跡出土サヌカイト製造物の産地同定」香川県埋蔵文化財センター編「香川県警察本部機動隊舎建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」香川県教育委員会
- 薬科哲男 1997「四国横断自動車道建設関連遺跡出土のサヌカイト製造物の石材産地分析」財團法人香川県埋蔵文化財調査センター編「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第27冊 三条黒島遺跡 川西北七条Ⅰ遺跡」香川県教育委員会ほか、pp.281-291
- 薬科哲男 1998「サヌカイト製石器石材産地推定分析 龍川五条遺跡出土のサヌカイト製造物の石材産地分析」財團法人香川県埋蔵文化財調査センター編「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第29冊 龍川五条遺跡Ⅱ 飯野東分山崎南遺跡」香川県教育委員会ほか、pp.263-277
- 薬科哲男 2001「中間西井坪遺跡出土石器、石片の原材産地分析」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第37冊 中間西井坪遺跡Ⅲ」香川県教育委員会ほか、pp.29-56

薬科哲男 2004 「林・坊城遺跡、中森遺跡出土サスカイト製造物の原材料地分析」財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第53冊 中森遺跡Ⅰ・林・坊城遺跡Ⅱ・東山崎・水田遺跡Ⅱ』香川県教育委員会ほか、pp.254-268

遺跡	報告書 刊行年	時期	点数	分析者	金山	金山また ははま山	白峰	園分台	園分台 北側斜面 分合所 ふなせき	園分台 南側斜面 ふなせき	霞ヶ浦 ・山	霞ヶ浦 ・山	霞ヶ浦外 不明	文献
三ヶ島島	1997 田石器	30 遺物削男	2	6	1	10	3	39	18	10	7	1	3	篠井 1997
中臣御井坪	2001 田石器	30 遺物削男	5	4	201	59	1							篠井 2004
中臣御井坪	2004 田石器	22 遺物削男	3		18									竹原・藤原 2016
中臣御井坪	2016 田石器・櫛文	6 バレオ・ラボ	14	4		3	2	1						ハイオ・ラボ 2017
中臣御井坪	2017 櫛文削男	8 バレオ・ラボ	6		2									有田社遺物
中臣御井坪	2017 櫛文削男	13 遺物材料研究所	5	2	2									竹原 2014
荒川六反地	2014 荒川文	8 バレオ・ラボ	1			2	2							
荒川西河内	2012 荒川免削	8 バレオ・ラボ	1			1	1							
荒川免削	2018 荒川免削	30 文化財監修コン サルタン	21	9										清辻 2018
木戸木・お城	2004 荒川免削	15 遺物削男						15						篠井 2004
木戸木・お城	1996 生前削	35 遺物削男												篠井 1996
木戸木・お城	2020 生前削	30 遺物削男												(本管)
木戸木・お城	2020 生前削	30 遺物削男												清辻 2018b
木戸木・お城	2018 生前削	8 遺物削正己						1						
木戸木・お城	2018 生前削	12 遺物削正己						1						
木戸木・お城	2018 生前削	12 遺物削正己						1						

分析結果で2か所の可能性が示される場合には、確率の高い、または記述が先の产地でカウントした。

第3表 香川県内サヌカイト製石器产地分析一覧

第2節 SN01・SR01の古環境復元

はじめに

今回の分析は、畦畔が検出された遺構面の自然科学的な調査・検証と調査地及びその周辺の古環境復元が目的である。畦畔検出面の調査・分析にあたっては、植物珪酸体、珪藻分析と軟X線分析を行った。調査地及びその周辺の古環境復元については、花粉及び植物珪酸体分析と放射性炭素年代測定を実施した。さらに今回は、これらの分析結果についてより精度の高い解析を行うために、現地調査を実施し、遺構面の埋没状況や堆積物の累重状況についても併せて記載を行った。

1 層序

北野遺跡において現地調査を実施し、調査区を構成する堆積層断面の観察及び記載を行った。記載にあたっては、堆積層の粒度組成や堆積構造などに着目して、調査区内において9か所の柱状図を作製した。第93図に、記載を行った柱状図及びその対比結果などを示す。

以下に、確認された堆積層の特徴について述べていく。なお、各層において認められる層相から推定される堆積環境については、Miall (1992・1996) の河成堆積相コードや松田 (1999・2000)、人為的な擾乱堆積物の層相については、松田・パリノ・サーヴェイ (1996) の記載を参考とする。

1層：現在の盛土。

2層：盛土以前の耕作土。

3層：流路の中心部にあたるLoc.2・3付近では、灰白色を呈しトラフ型斜交層理・葉理をなす極粗粒砂～細礫が累重する。Loc.1、Loc.4～6では、Loc.2・3に堆積した砂礫層と同時異相をなす灰白色を呈し水平葉理ないし塊状をなすシルト混じり中粒砂～粗粒砂が累重する。以上のような3層における層相の分布から、Loc.2・3は、流路の滌筋付近を充填した堆積物と判断される。また、Loc.1及びLoc.4～6は、洪水時に流路からオーバーフローして流路側縁や河岸に累重した堆積物であると推定される。本層は、SR01の東側に位置するLoc.4～6付近で弥生時代前期の遺構検出面となった被覆層Bに、西側で水田跡を埋没させている被覆層Aに対応する。

4層：褐灰色を呈し塊状をなす砂質シルト。本層準からは水田畦畔が検出されている。本層は、耕土A及びCに対応する。Loc.1での軟X線写真的観察から、本層は明瞭に2層準に分かれることが明らかになった。

5層：流路の中心部のLoc.3では、灰白色を呈しトラフ型斜交層理・葉理をなす極粗粒砂～細礫が累重する。Loc.3は、上位に累重する3層によって上半部が大きく侵食されている。SR01内の西半部では、Loc.3の砂礫層と同時異相をなす灰白色を呈し水平葉理ないし塊状をなすシルト混じり中粒砂～粗粒砂が分布している。以上のような5層内における層相の分布から、Loc.3は流路の滌筋付近を充填した堆積物、Loc.4～6は流路縁～河岸付近で堆積したことが推定される。

6層：褐灰色を呈し塊状をなすシルト混じり中粒砂。Loc.4付近において、5層と7層に挟在するようにして存在している。

7層：流路の中心部のLoc.3では、灰白色を呈しトラフ型斜交層理・葉理をなす極粗粒砂～細礫が累

重する。西側に向かって粒径を減じていき、Loc.4では、灰白色を呈し水平葉理をなす中粒砂～極粗粒砂が堆積している。これらの層相変化から、Loc.3は流路の滲筋付近を充填した堆積物、Loc.4は流路縁で堆積したことが推定される。

8層：黒褐色を呈し弱い水平葉理をなすシルト混じり粗粒砂～極粗粒砂。堆積物中には、有機物を多く含んでいる。Loc.4～5にかけて分布する。層相から、流路縁付近の静水域の堆積環境下で形成されたことが推定される。

9層：灰白色を呈しトラフ型斜交層理・葉理をなす極粗粒砂～細礫。SR01の西側に位置する。

Loc.4・5付近に分布する。本層は、SR01の東肩を構成しており、10層、11～12層を侵食して形成されている。層相から、流路充填堆積物であると判断される。本層から検出された材のC14年代値は、 3940 ± 130 BPを示した。

10層：褐灰色を呈し塊状をなす砂質粘土質シルト。層相から、古土壤であると判断される。本層は、11～13層の最上部に形成されている。本層は、Loc.1での軟X線写真ではサンプル3中部に対応する。

11層：灰黄色を呈し塊状をなす細礫混じり粗粒砂～極粗粒砂。SR01の東側のみに分布する。層相から、氾濫堆積物であると判断される。本層は、Loc.1での軟X線写真ではサンプル3下部に対応する。

12層：暗灰色～黒褐色を呈し塊状をなす砂質粘土質シルト。SR01の西岸及び、東岸の中心部付近に厚く分布する。層相から、腐植が蓄積していくような安定した堆積環境下の静水域において形成された堆積物であることが推定される。

13層：灰白色を呈しトラフ型斜交層理・葉理をなす極粗粒砂～細礫。調査区の基盤を形成している堆積層である。層相から、流路充填堆積物であると判断される。

以上、発掘調査によって堆積層から検出された考古遺物やそれに挟在する遺構の相対年代及び抗材のC14年代値から、3～7層は弥生時代前期頃、8～9層は縄文時代後期に形成されたと判断される。また、堆積物の累重状況から、10層以下の堆積層は、縄文時代後期以前に形成されたと推定される。

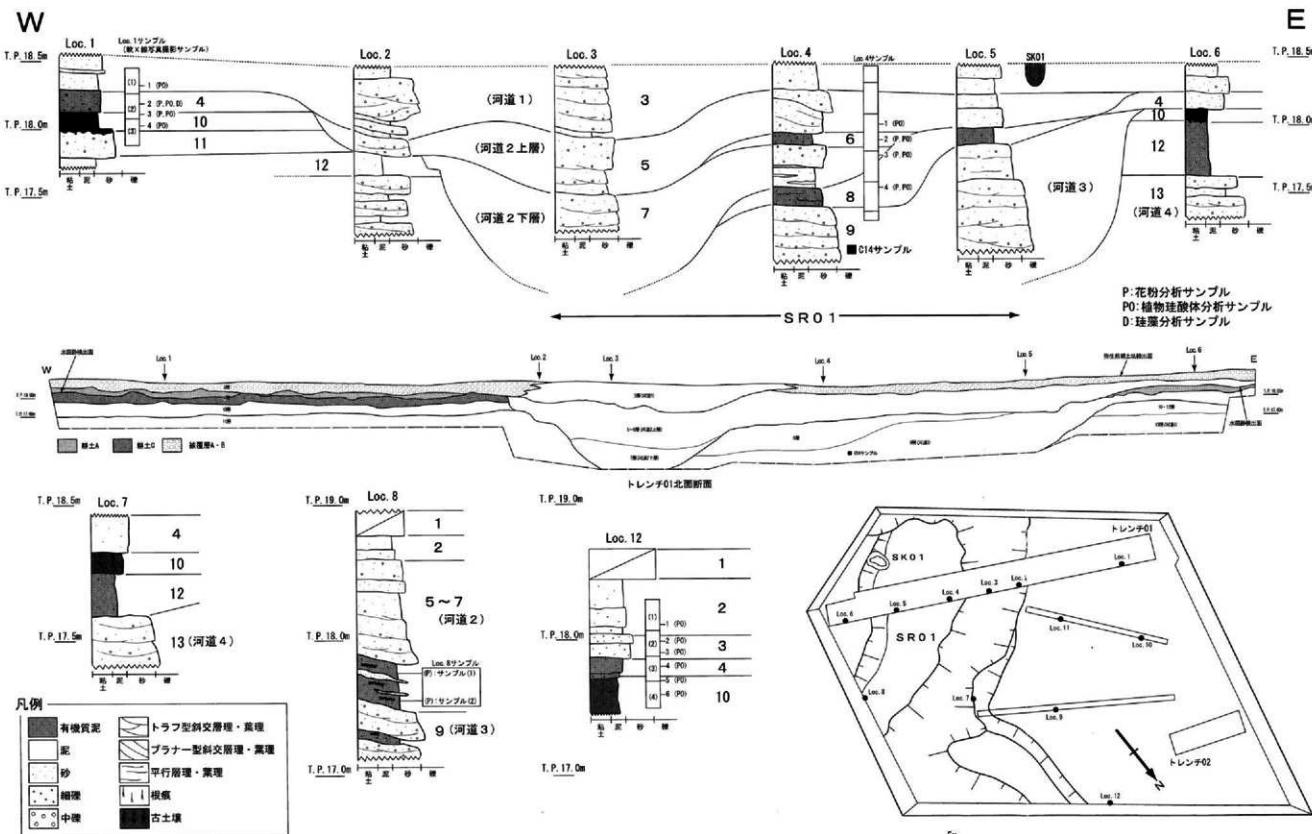
2 試料

試料は、Loc.1、Loc.4、Loc.8～12で採取した。Loc.1では、3層、4層、10層、11層まで柱状試料3点（サンプル1～3）を採取した。これら3点の試料から軟X線分析試料を整形・採取した。また、微化石分析試料を4点（上位より試料1～4）を抽出した。微化石分析試料については、4点全点について植物珪酸体分析を、試料2・3について花粉分析を、試料2について珪藻分析を実施する。

Loc.4では、3層、5層～9層までを柱状試料6点（サンプル1～6）を採取した。このうち、5層～8層までの各層1点ずつ微化石分析試料計4点（試料1～4）を抽出した。これら4点全点について植物珪酸体分析を、また試料1を除く3点について花粉分析を実施する。また、9層で得られた木材について放射性炭素年代測定を実施する。

Loc.8では、5～7層、すなわち河道2の埋積物の下部にみられた腐植土層の上部と下部から2点の試料を採取し、これについて花粉分析を実施する。

Loc.9～11では、各地点とも4層の上部と下部から2点（上位より試料1・2）を採取した。これら全点について植物珪酸体分析を実施する。また、Loc.9から採取した2点については、花粉分析も併せ



第93図 資料採取地点の層序と微化石分析位置

て実施する。

Loc.12では、3・4層及び10層に対比される層準の柱状試料4点（サンプル1～4）を採取した。これら4点の試料から軟X線分析試料を整形・採取した。また、微化石分析試料を6点（上位より試料1～6）を抽出した。微化石分析試料については、6点全点について植物珪酸体分析を実施する。

以上、各分析項目の分析点数は、軟X線分析が7点、放射性炭素年代測定が1点、珪藻分析が1点、花粉分析9点、植物珪酸体分析が19点である。第93図に分析試料採取位置を示す。

なお、畦畔検出層準の分析試料は、Loc.1の2・3、Loc.9～11、Loc.12の4に相当する。畦畔検出層準は、耕土A～Cに区分されている。この耕土分類のうち、Loc.1の2・3、Loc.9～11が耕土C、Loc.12の4が耕土Aに相当する。Loc.12では、耕土Aのみが存在する。Loc.1、Loc.9～11では、耕土Aの直下に耕土Cが存在している。Loc.1、Loc.9～11では耕土Aを取り除いた耕土C上面及びそれに相当する層準で分析試料の採集を行っている。

3 分析方法

（1）軟X線分析

土層断面より採取したブロック状の試料から、幅7cm、長さ20cm、厚さ1cmの板状の試料をプラスチックケース内に分離、成型して軟X線写真の撮影を行った。撮影はニッテツ・ファインプロダクツ釜石文化財保存処理センターの協力を得た。

（2）放射性炭素年代測定

前処理として、木材は水でよく洗浄して表面の異物を取り除く。乾燥、粉碎後水酸化ナトリウム溶液で煮沸する。室温まで冷却した後、水酸化ナトリウム溶液を傾斜法で除去する。この作業を除去した水酸化ナトリウム溶液の色が薄い褐色になるまで繰返す。次に塩酸を加えて煮沸する。室温まで冷却した後、傾斜法により除去する。十分、水で洗浄した後、乾燥して蒸し焼き（無酸素状態で400℃に加熱）にする。蒸し焼きにした試料は純酸素中で燃焼して二酸化炭素を発生させる。発生した二酸化炭素は捕集後、純粋な炭酸カルシウムとして回収する。ただし、試料が少量（試料表上で試料少量と記載がある試料）の場合は水酸化ナトリウム溶液による処理を省略する。

先の前処理で得られた炭酸カルシウムから真空状態で二酸化炭素、アセチレン、ベンゼンの順に合成する。最終的に得られた合成ベンゼン3ml（足りない場合は、市販の特級ベンゼンを足して3mlとする）にシンチレイターを含むベンゼン2mlを加えたものを測定試料とする。

測定は、1回の測定時間50分間を20回繰り返し計1,000分間行う。未知試料の他に、値が知られているスタンダード試料と自然計数を測定するブランク試料と一緒に測定する。放射性炭素の半減期としてLIBBYの半減期5,570年を使用する。また、株式会社加速器分析研究所の協力を得て、 $\delta^{13}\text{C}$ を測定する。 $\delta^{13}\text{C}$ の値は、加速器を用いて試料炭素中の ^{13}C 濃度（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）を測定し、標準試料PDB（白亜紀のペレムナイト類の化石）の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差（‰：パーミル）で表したものである。なお、木材については、その樹種も併せて調べる。

（3）珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、

珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸 600倍あるいは 1000 倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に 200 個体以上、同定・計数する。種の同定は、原口ほか（1998）、Krammer（1992）、Krammer and Lange-Bertalot（1986, 1988, 1991a, 1991b）、Witkowski et al.（2000）などを参照する。

同定結果は、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種はその内容を示す。堆積環境の解析は、海水～汽水生種については小杉（1988）、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については Asai and Watanabe（1995）の環境指標種を参考とする。

（4）花粉分析

試料を湿重で約 10g 秤量し、水酸化カリウム処理、篩別、重液分離（臭化亜鉛、比重 2.3）、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理（無水酢酸：濃硫酸 = 9 : 1）の順に物理・化学的な処理を施して花粉・胞子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数を行う。

結果は同定・計数結果の一覧表及び主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の各種類の出現率は木本花粉が木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子が総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした百分率で算出する。なお、図表中で複数の種類をハイフン（-）で結んだものは種類間の区別が困難なものを示す。

（5）植物珪酸体分析

試料を湿重約 5g 秤量し、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W、250kHz、1 分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡しやすい濃度に希釈して、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入し、プレパラートを作製する。これを 400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）及び葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出される種類とその個数の一覧表と植物珪酸体群集の層位分布図で表示する。各種類の出現率は、短細胞珪酸体・機動細胞珪酸体とも各珪酸体ごとに、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。

4 結果

（1）軟 X 線分析

第 94・95 図で示した軟 X 線写真は、ポジ写真の色調を反転しており、堆積物の密度が大きい部分がより白く、小さい部分がより黒く表現されている。堆積物の記載にあっては、堆積層の累重や土壤・堆積構造に着目し、撮影試料の目視及びスキャナーによってコンピューター上に取り込んだ軟 X 線写真

の画像から観察を行った。軟X線写真については、コンピューター上に取り込んだ画像を中心に観察を行った。画像については、階調や明るさ、コントラストの調整などの簡単な補正を実施しながら観察を行った。

軟X線写真については、土壤の基本的構造である粒団（ベッド）や粗孔隙ないし間隙（写真で黒く表現されている部分）の形状や分布に着目して堆積物の微細な堆積構造の記載を行った。記載に当たっては、『土壤薄片記載ハンドブック』（久馬・八木訳監修 1989）を参考とした。

粗孔隙と間隙の用語については、成岡はか（2000）に従い、粗孔隙が土の乾燥収縮、植物根の腐朽跡あるいは地中動物の通行跡などに相当し、面状や管状などの構造単位の特定が可能な亀裂や管状孔隙に、間隙が粗孔隙を含むすべての隙間にに対して使用している。軟X線写真撮影サンプルは、Loc.1とLoc.12から採取を行った（第93図）。採取したサンプルは、サンプル1～7までの7点である。以下に、各サンプルについての肉眼及び軟X線写真の観察結果について述べていく。

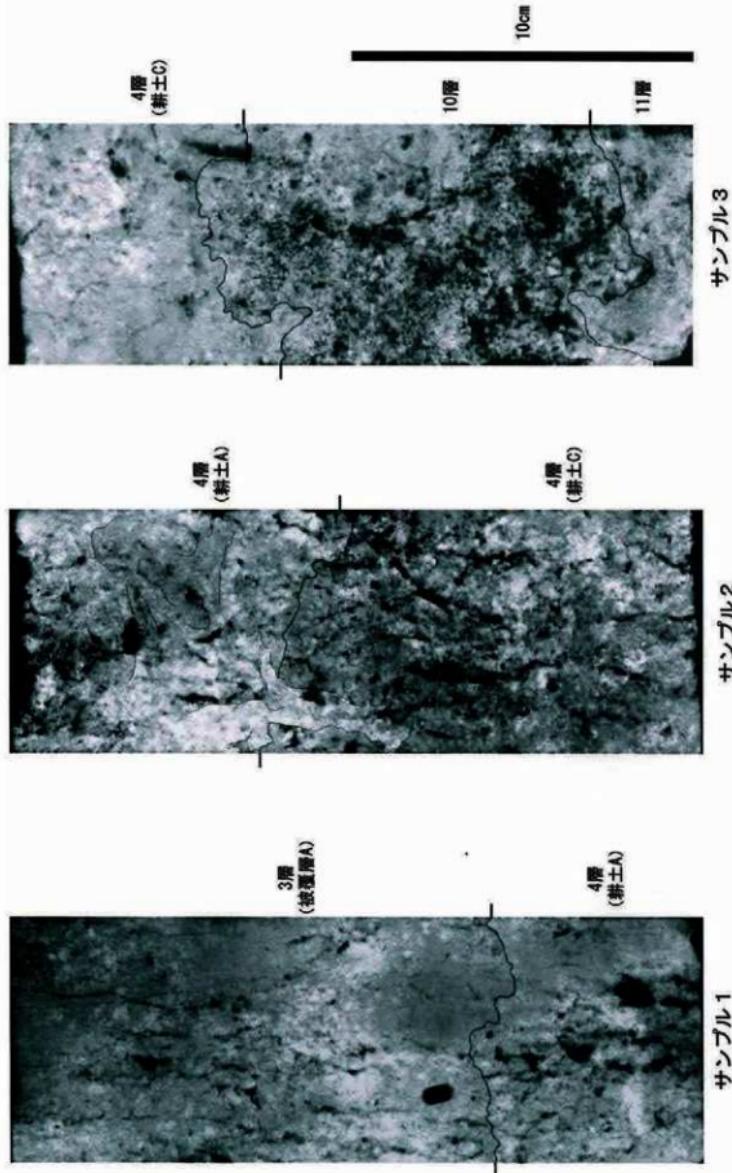
a) Loc.1 サンプル

軟X線写真観察からは、5層準の堆積層を確認することができた。これらの層準は、サンプル1上部が3層（被覆層A）、サンプル1下部～サンプル2上部が4層（耕土A）、サンプル2下部～サンプル3上部が4層（耕土C）、サンプル3中部が10層、サンプル3下部が11層に対比される。

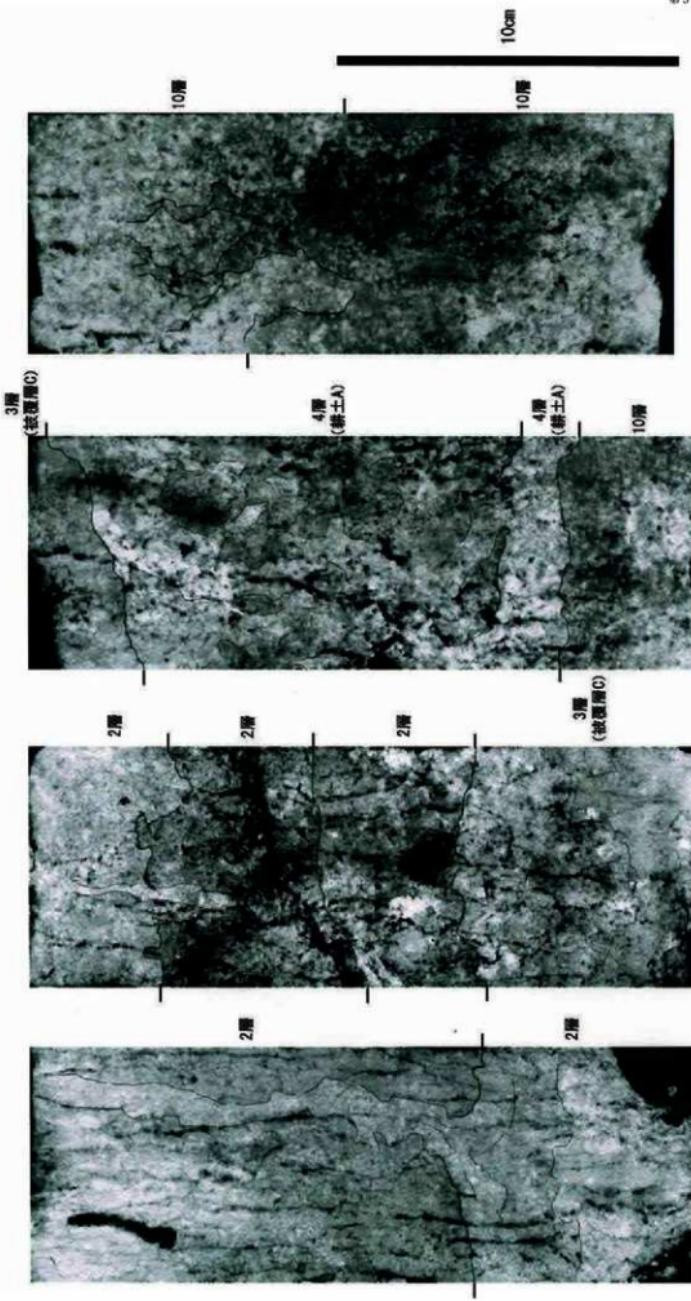
サンプル1は、2層準に区分される。上部の層準は、黒褐色を呈する砂質シルトによって構成されている。本層準では、サンプルのさらに上位から形成された連続性の良い幅0.5mm程度の直線的な粗孔隙が顕著に観察される。最下部付近には、直径3mm程度を測る塊状の白色粒の集合体が帶状に分布していることが認められる。サンプルの肉眼観察から、これらは酸化鉄の集合体であることが推定される。下部の層準は、上部の層準に比べ泥を多く含む黒褐色砂質シルトからなる。これらの層準では、孔隙に閉まれた直径5mm程度の塊状をなす粒団が形成されていることが確認される。粒団間の接合性は、比較的良い。本層準では、上部に比べ孔隙量が少なく、全体的に白っぽい色調を呈していることが特徴である。下部の層準で認められる粗孔隙は、幅1～1.2mmを測る。これらの粗孔隙は、上部の層準のものに比べ、連続性が極めて悪い。遺構検出面上で検出された畦畔は、サンプル1で確認された下部の層準の直上から形成されている。粒団の発達が認められることから、本層準には、土壤化作用が及んでいることが考えられる。サンプル1の上部の層準は、層相から洪水堆積物を起源としていることが推定される。これらの堆積物には、下部を侵食した痕跡が認められず、土壤化が認められる下部の層準を覆うようにして形成している。このことから、サンプル1の下部の層準では、土壤発達が行われた時期の地表面に近い部分が侵食されず、残存している可能性が高いことが推定される。

サンプル2は、2層準に区分される。上部の層準は、サンプル1の下部から連続する堆積物である。粗孔隙は、上位の層準とよく似た形態を示す。しかし、粒団の発達は、上位に比べ不良である。上部と下部の層準の層界は、サンプルの中央付近に明瞭に認められる。下部の層準は、黒褐色を呈する砂質粘土質シルトによって構成される。本層準では、直径2～3mm程度を測る塊状をなす粒団が発達しているとともに、上部の層準に比べ孔隙量が多い特徴が認められる。上部との境界付近には、幅2～3mm程度の粗孔隙が密集して分布している。本層準では、直線状の粗孔隙が上部に比べ多く分布している。このような形狀の粗孔隙は、植物の根痕に由来するものと思われる。これらの特徴から、サンプル2の下部の層準には、上位の層準同様に土壤化作用が及んでいると考えられる。

サンプル3は、3層準に区分される。上部の層準は、サンプル2の下部から連続する堆積物である。



第94図 L.O.C. 田舎畔検出層準の不規則サンプルの軟X線写真



第95図 Loc. 1水田畦畔検出層準の不擾乱サンプルの軟X線写真

粒團の発達状況は、上位の層準と変化はない。しかし、粗孔隙や孔隙の発達は、上位に比べ不良である。中部の層準は、褐色を呈す極粗粒砂～細粒の細縫によって構成されている。上位の層準との層界は、波状であるとともに漸移的である。下部の層準は、褐色を呈す粗粒砂によって構成される。中部と下部の層準は、層序対比図の11層に対比される河川堆積物である。

b) Loc.12 サンプル

軟X線写真観察からは、9層準の堆積層を確認することができた。これらの層準は、サンプル1及びサンプル2中部が被覆層Cの上部に累重した2層に対比される層準、サンプル2下部～サンプル3最上部が被覆層C、サンプル3中部が耕土A、サンプル3下部～サンプル4が10層に相当する層準に対比される。

サンプル1は、2層準に区分される。上部の層準は、暗褐色を呈す砂質シルトで構成される。下部の層準は、上部より砂がちな暗褐色砂質シルトからなる。本サンプルでは、さらに上位層準で形成されたと考えられる幅5mm程度の直線状の粗孔隙の発達が顕著である。下部の層準からは、砂脈と推定される脈状の堆積物の吹き上がりが観察される。

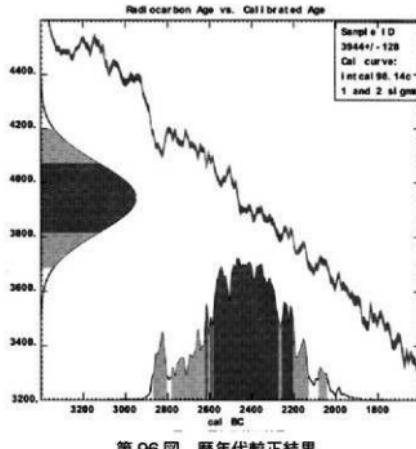
サンプル2は、3層準に区分される。上部の層準は、サンプル1下部から連続する堆積物である。本サンプルの中央部付近には、暗褐色をなす粗粒砂や砂質シルトからなる層準が存在している。これらの層準では、粒團が発達しており、葉理などの堆積構造は観察されない。下部の層準は、暗褐色の砂質シルトで構成されている。層準の最上部には、直径8～10mm程度の粒團の発達が顕著である。

サンプル3は、4層準に区分される。最上部の層準は、サンプル2下部から連続する堆積物である。サンプル中部～下部は、黒褐色をなす砂質シルトと粘土質シルトに区分される。粘土質シルト層は、下部の層準に相当する。砂質シルト層は、中部の層準に相当する。砂質シルト層と粘土質シルト層の境界部には、極粗粒砂～細縫を含む砂質シルト層の薄層が存在している。砂質シルト層では、粒團の発達が顕著であり、根痕状の構造がよく観察される。また、層準には、10～15mm程度の偽礫（ブロック土）が散在しているように観察される。軟X線写真の層相からは、他の層準に比べ非常に擾乱されているような印象を受ける。肉眼観察では、砂とシルトや粘土が混ざった層相であることがうかがえる。

サンプル4は、2層準に区分される。上部の層準は、サンプル3下部から連続する堆積物である。黒褐色を呈する粘土質シルトからなるこの層準では、根痕状の構造が顕著である。

(2) 放射性炭素年代測定

結果を第96図に示す。測定年代値は、 3940 ± 130 BPである。測定サンプルの樹種は、イヌガヤと同定された。イヌガヤは岩手県以南の本州・四国・九州・西表島



第96図 歴年代較正結果

から屋久島まで分布する常緑の小高木であり、暖帯から温帯下部の山地の林下に生える。後述する流路充填堆積物の花粉化石群集には本種を含むイヌガヤ科が確認されており、当時の調査地点周辺の植生を構成する要素であったと考えられる。

なお、放射性炭素年代は、測定法自体が持つ誤差や測定の前提条件である大気中の¹⁴Cの濃度が過去において一定でなかったことから、年輪などから測定されたいわゆる暦年代とは一致しない。そのため、年輪年代による暦年代既知の年輪の材について放射性炭素年代測定を実施することにより、暦年代と放射性炭素年代を両軸とする補正曲線が作られている(Stuiver,M. et al.,1993など)。そこで、補

遺構	地点	資料名	層位	種類測定年代	$\delta^{13}C$ (0/00)	同位体 補正年代	Lab-No.	
SR01	Loc. 4	流路底	杭	9層	木本 (イヌガヤ)	3960 ± 130	3940 ± 130	PAL-1073

第4表 放射性炭素年代測定結果

注1)年代値：1950年を基点とした値

注2)半滅期：LIBBYの半滅期 5568年を使用

注3)誤差：標準偏差 (ONE SIGMA) に相当する年代

注4) $\delta^{13}C$ ：試料炭素の¹³C/¹²C Y原子比を加速器で測定し、PDBの値を基準とし、それからのずれを計算したもの。

注5)PAL-パリノ・サーヴェイ株式会社 ($\delta^{13}C$ は株式会社加速器分析研究所で測定)

遺構	地点	資料名	層位	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)		Code No.
SR01	Loc.4	流路底	9層	3944 ± 128BP	cal BC 2,619	cal BC 2,610	PAL-1073
					cal BC 2,597	cal BC 2,591	
					cal BC 2,583	cal BC 2,273	
					cal BC 2,255	cal BC 2,227	
					cal BC 2,223	cal BC 2,204	
					cal BC	cal BC	

第5表 暦年較正結果

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を使用

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

正年代値及び誤差の1桁目を丸める前の値についてRADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 Stuiver, M. and Reimer, PJ.) を用いて本分析結果の較正暦年年代値を求めたものを第4・5表に示す。これによると、本試料の暦年較正年代値は、4569-4560calBP、4547-4541calBP、4533-4223calBP、4205-4177calBP、4173-4154calBPとなる。

種類	生体性			環境 指標種	Loc.	1
	塩分	pH	流水			3
<i>Cymbella amphioxys</i> (Kuetz) Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph			1
<i>Cymbella</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk			1
<i>Eunotia</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk			1
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	ac-il	Ind	R.A.U		1
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenbreg	Ogh-ind	Ind	Ind	RA		1
海水生種						0
海水～汽水生種						0
汽水生種						0
淡水～汽水生種						0
淡水生種						5
珪藻化石鉱物						5

第6表 硅藻分析結果

凡例

HR：塩濃度に対する適応性 pH：水素イオン濃度に対する適応性

Ogh-ind：貧塩不定性種

ac-il 好酸性種

C.R. 流水に対する適応性

Ogh-unk：貧塩不明種

al-il 好アルカリ性種

l-ph 好止水性種

ind pH 不定性種

ind 流水不定性種

unk pH 不明種

unk 流水不明種

環境指標種群

U：広域適応性種 (Asai and Watanabe,1996)

R：陸生珪藻 (RAA 等、伊藤・服内、1991)

（3）珪藻分析

結果を第6表に示す。珪藻化石はほとんど検出されず、好酸性種で好止水性種の *Cymbella amphioxys*、陸生珪藻 A 群の *Hantzschia amphioxys* と *Pinnularia borealis*、種不明の *Cymbella sp.* と *Eunotia sp.* が各1個体検出される程度にとどまった。

（4）花粉分析

結果を第7表、第97図に示す。全体的に花粉化石の保存状態が悪い。特に、Loc.1 の試料番号 2・3、Loc.4 の試料番号 2、Loc.9 の試料 1・2 では、花粉化石の検出個数も少ない。以下、Loc.4 と Loc.8 の花粉化石の産状を示す。

・Loc.4

試料 3・4 で花粉化石が検出される。木本花粉では、コナラ属アカガシ亜属が多産し、ツガ属・マツ属・コウヤマキ属・スギ属・コナラ属コナラ亜属・クリ属・シイノキ属などが検出される。この内、マツ属・コウヤマキ属が上位に向かい増加傾向を示し、コナラ亜属が減少傾向を示す。

草本花粉では、イネ科・ヨモギ属が多産し、カヤツリグサ科を伴う。この他、ガマ属・サナエタデ節・ウナギツカミ節・タデ属・ソラマメ属・マメ科・キク亞科・タンボボ亜科などを伴う。

・Loc.8

木本花粉の出現傾向は、試料 1 と試料 2 で異なる。試料番号 2 では、コナラ亜属が多産し、次いでアカガシ亜属が検出される。これに対し、試料番号 1 では、コナラ亜属が減少し、アカガシ亜属が最も高率に出現する。なお、試料 1・2 とも、ツガ属・マツ属・コウヤマキ属・スギ属・クリ属・シイノキ属・ニレ属・ケヤキ属・エノキ属・ムクノキ属などが検出されるが、いずれも出現率が低率である。

草本花粉では、ガマ属・サジオモダカ属・イネ科・カヤツリグサ科・クワ科・サナエタデ節・ウナギツカミ節・マメ科・ヨモギ属などが僅かに検出される程度である。

（5）植物珪酸体分析

結果を第98・99図、第8表に示す。植物珪酸体は、各試料とも良好に検出される。注目される点は、Loc.12 の上面で硅畔が検出された耕土 A に相当する層準及びその被覆層（被覆層 C 層）で栽培種であるイネ属が検出されたことである。耕土 A の直下の耕土 C に相当する Loc.1 の 2・3 では、イネ属がまったく検出されなかった。イネ属の産出の有無を除くと、植物珪酸体群集は、各地点とも層位的な変化がほとんどみられない。但し、Loc.4 では、群集組成が異なっている。

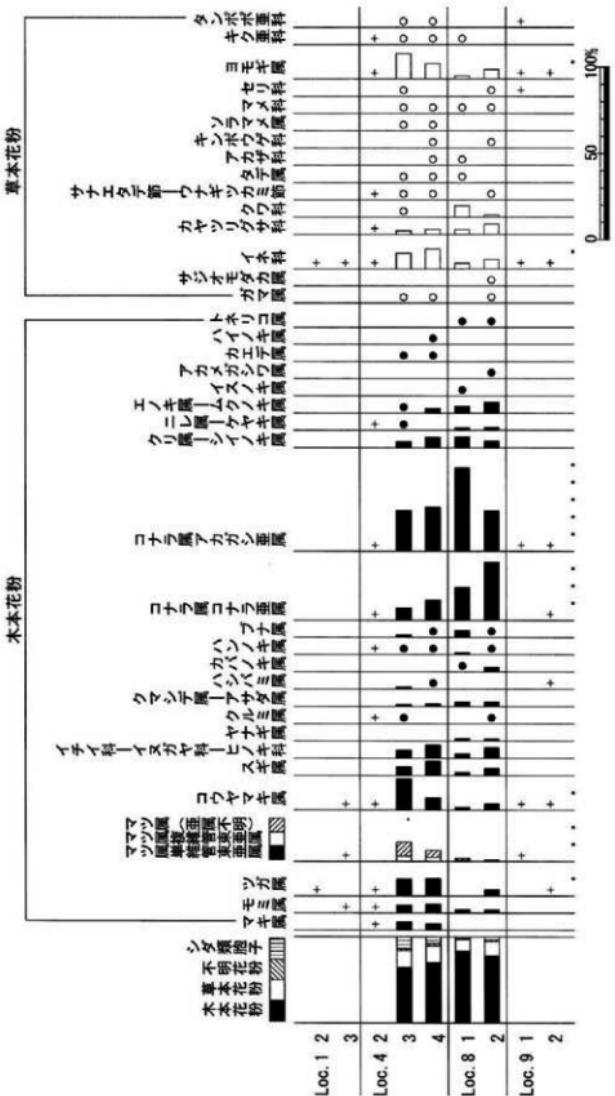
Loc.1・9・10・11 では、クマザサ属が最も高率に出現する。この他に、タケア科・ヨシ属・スキ属を含むウシクサ族・イチゴツナギ亞科などが検出されるが、いずれも出現率が低い。一方、Loc.4 は、先に示した地点と比べると、クマザサ属が低率であり、タケア科やヨシ属の出現率が高い。

なお、Loc.1 の試料 3、Loc.11 の試料 11 を除く試料では、樹木の葉部に形成される植物珪酸体が検出される。この樹木起源の植物珪酸体は、近藤・ピアソン（1981）の分類に基づくと第IVグループに属する形態を示す。

硅畔検出層準を含む Loc.1・12 では、植物珪酸体結果について絶対量分析を実施している。イネ属が検出された Loc.12 の試料 1～4 では、いずれの試料もその含量が数百個/g 程度であった。イネ属珪酸体のうち、短細胞珪酸体が試料番号 1、機動細胞珪酸体が試料番号 1・4 で検出されている。すべての試

種類	試料番号	Loc. 1		Loc. 4		Loc. 8		Loc. 9	
		3	4	2	3	4	1	2	1
木本花粉		-	-	1	13	9	-	-	-
マキ属		-	2	1	12	13	6	6	-
モミ属		-	-	1	25	25	-	11	-
ツガ属		1	-	-	-	1	-	-	2
トウヒ属		-	-	-	-	-	1	-	-
マツ属單維管束胚属		-	-	-	8	6	1	2	1
マツ属複維管束胚属		-	-	-	21	10	3	1	-
マツ属(垂属不明)		-	1	-	-	-	-	-	-
コウヤマキ属		-	3	2	47	18	4	11	3
スギ属		-	-	-	13	21	5	13	-
イチイ科イヌガヤ科ヒノキ科		-	-	-	12	19	7	19	-
ヤナギ属		-	-	-	-	-	4	4	-
ヤマモモ属		-	-	-	-	-	-	1	-
サワグルミ属		-	-	-	1	-	-	-	-
クルミ属		-	-	1	1	-	-	1	-
クマシデ属アサダ属		-	-	-	3	4	7	8	-
ハシバミ属		-	-	-	3	1	-	-	1
カバノキ属		-	-	-	-	-	1	8	-
ハシノキ属		-	-	1	2	1	3	1	-
ブナ属		-	-	-	4	1	11	2	-
コナラ属コナラ亞属		-	-	5	18	29	52	103	-
コナラ属アカガシ亞属		-	-	8	61	64	133	72	1
クリ属シイノキ属		-	-	9	15	17	12	-	-
ニレ属ケヤキ属		-	-	1	1	-	4	5	-
エノキ属ムクノキ属		-	-	-	2	7	11	19	-
イスノキ属		-	-	-	-	-	1	-	-
サンショウ属		-	-	-	-	-	-	1	-
ユズリハ属		-	-	-	-	-	-	3	-
アカメガシワ属		-	-	-	-	-	-	1	-
モチノキ属		-	-	-	-	-	1	-	-
カエデ属		-	-	-	-	-	1	-	-
トチノキ属		-	-	-	-	2	-	-	-
ムクロジ属近似種		-	-	-	-	-	-	1	-
ブドウ属		-	-	-	1	-	-	-	-
ウコギ科		-	-	-	-	2	-	-	-
ミズキ属		-	-	-	-	-	-	1	-
ハイノキ属		-	-	-	-	1	-	-	-
イボタノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-
トネリコ属		-	-	-	-	2	1	-	-
草本花粉		-	-	-	-	-	-	-	-
ガマ属		-	-	-	1	4	-	3	-
サジオモダカ属		-	-	-	-	-	-	1	-
イネ科	1	2	11	48	47	11	22	1	4
カヤツリグサ科		-	-	1	11	12	10	25	-
クワ科		-	-	-	1	-	23	5	-
ギシギシ属		-	-	-	-	-	-	1	-
サナエタデ第一ウナギツカミ節		-	-	2	1	1	-	3	-
タデ属		-	-	-	1	1	1	-	-
アカザ科		-	-	-	-	1	1	-	-
ナデシコ科		-	-	-	1	-	-	-	-
キンポウゲ科		-	-	-	-	1	-	3	-
バラ科		-	-	-	-	-	2	-	-
ソラマメ属		-	-	2	2	-	-	-	-
マメ科		-	-	3	1	1	2	-	-
ミソハギ属		-	-	-	-	-	-	1	-
セリ科		-	-	-	1	-	-	2	1
シソ科		-	-	-	-	1	-	-	-
オミナエシ属		-	-	-	-	-	1	-	-
ゴキヅル属		-	-	-	1	-	-	-	-
ヨモギ属		-	-	11	78	36	6	23	2
キク亜科		-	-	2	3	2	3	-	3
タンポポ亜科		-	-	5	2	-	-	-	-
不明花粉		1	1	-	15	16	5	9	-
シダ類胞子		19	31	59	115	44	7	18	29
他のシダ類胞子		19	31	59	115	44	7	18	31
合計		1	6	21	259	250	274	307	512
木本花粉		1	2	27	157	111	59	91	57
草本花粉		1	1	0	15	16	5	9	0
不明花粉		19	31	59	115	44	7	18	29
シダ類胞子		21	39	107	531	405	340	416	395
総計(不明を除く)		21	39	107	531	405	340	416	395

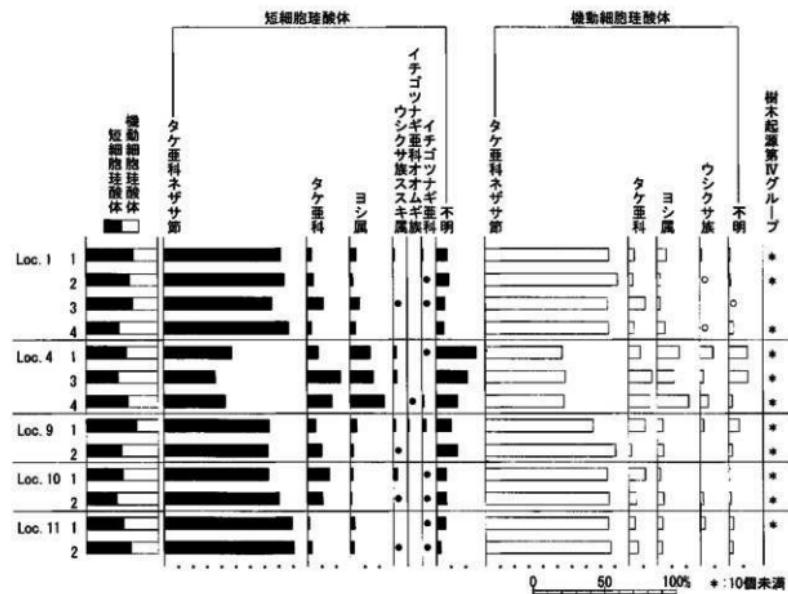
第7表 花粉分析結果



第97図 主要花粉化石群集の層位分布

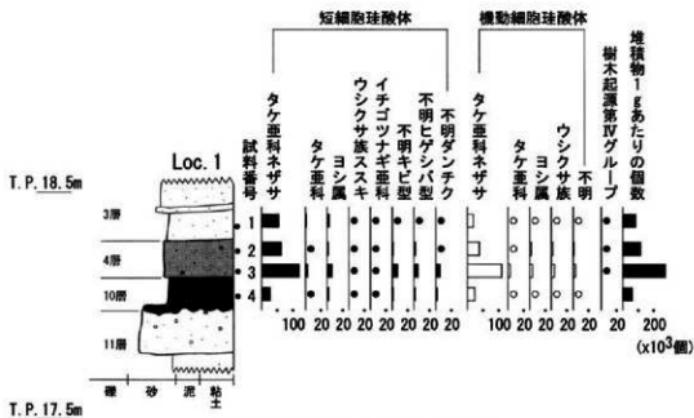
出現率は、木本花粉は木本花粉化石数、シダ類胞子は絶数より不明花粉を基數として百分率で算出した。

種類 試料番号	Loc. 1				Loc. 4				Loc. 9		Loc. 10		Loc. 11	
	1	2	3	4	1	3	4	1	2	1	2	1	2	1
イネ科葉部短細胞珪酸体														
タケ亜科ネザサ節	252	201	202	109	75	51	74	212	108	161	162	176	211	
タケ亜科	11	11	30	4	12	33	30	17	15	34	22	3	7	
ヨシ属	14	5	18	5	22	23	41	13	3	4	2	6	6	
ウシクサ族スキ属	4	-	1	-	4	4	-	5	1	6	1	-	1	
イチゴツナギ亜科オムギ族	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	
イチゴツナギ亜科	3	1	1	-	1	-	2	8	-	1	1	1	1	
不明キビ型	7	6	3	2	10	2	7	9	4	8	5	4	3	
不明ヒゲシバ型	13	4	8	4	21	19	14	12	12	4	7	6	2	
不明ダンチク型	4	11	5	1	13	10	4	9	6	3	2	2	2	
イネ科葉身機動細胞珪酸体														
タケ亜科ネザサ節	139	145	121	124	65	99	67	93	139	182	234	160	124	
タケ亜科	7	5	17	6	10	29	18	14	3	25	14	8	9	
ヨシ属	11	4	3	8	19	21	27	5	7	5	13	7	5	
ウシクサ族	2	1	-	1	11	4	7	3	-	-	6	6	-	
不明	2	2	1	5	16	24	3	9	4	2	4	6	4	
合計	308	239	268	125	158	142	173	288	149	221	202	198	233	
イネ科葉身短細胞珪酸体	161	157	142	144	121	177	122	124	153	214	271	187	142	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	469	396	410	269	279	319	295	412	302	435	473	385	375	
樹木起源														
第IVグループ	1	2	-	2	5	3	2	3	2	2	3	2	-	



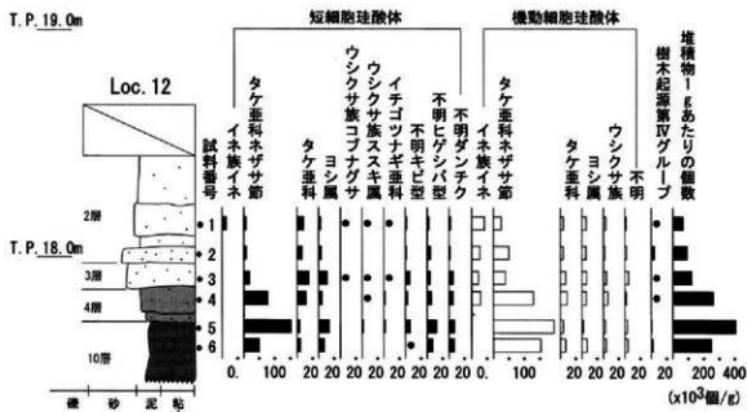
第98図 植物珪酸体分析結果・植物珪酸体群集と樹木起源珪酸体の産状

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基準として百分率で算出した。なお、●○は1%未満の種類を示す。また、樹木起源珪酸体の産状を*で示す。



a) Loc. 1の植物珪酸体含量の層位的変化

堆積物1gあたりに換算した個数を示す。なお、●○は1000個/g未満の種類を示す。



b) Lec-12の植物珪酸体含量の部位的変化

堆積物1gあたりに換算した個数を示す。この図では、イネ属の座状を強調している。なお、▲印は1000個/g未満の種類を示す。

第99図 Loc. 1:12 植物珪酸体含量ダイアグラム

(個/g)

種類	試料番号	Loc. 1				Loc. 12					
		1	2	3	4	1	2	3	4	5	6
イネ科葉部短細胞珪酸体											
イネ族イネ属	0	0	0	0	0	111	0	0	0	0	0
タケ亜科ネザサ節	54,563	62,143	121,003	28,065	7,801	8,529	18,516	77,412	152,304	49,338	
タケ亜科	1,145	665	2,912	886	8,247	6,610	15,134	11,391	3,794	4,181	
ヨシ属	2,862	1,329	6,794	2,216	2,452	3,198	11,217	4,649	13,550	7,108	
ウシクサ族コブナグサ属					111	0	356	0	0	0	
ウシクサ族ススキ属	572	997	971	739	334	0	178	697	1,626	0	
イチゴツナギ亜科	954	1,329	6,794	1,329	334	0	712	1,395	1,626	0	
不明キビ型	763	2,326	5,500	1,477	1,672	1,279	5,341	2,325	5,962	836	
不明ヒゲバ型	763	997	5,500	1,773	2,583	4,478	4,095	5,579	11,924	7,108	
不明ダンチケ型	0	0	0	0	2,452	1,706	5,875	5,579	7,046	6,690	
イネ科葉身機動細胞珪酸体											
イネ族イネ属	0	0	0	0	334	213	178	232	0	0	
タケ亜科ネザサ節	19,269	38,217	110,650	23,634	24,963	49,254	38,635	128,787	196,206	152,613	
タケ亜科	382	665	2,912	148	3,678	3,625	6,766	8,834	3,794	6,690	
ヨシ属	191	1,662	3,559	886	5,572	5,330	5,875	5,579	1,626	6,690	
ウシクサ族	191	1,662	3,882	591	2,897	1,919	4,095	5,812	2,710	3,763	
不明	191	1,329	2,912	739	1,449	1,919	4,451	1,627	3,252	3,763	
樹木起源珪酸体											
第IVグループ	191	332	971	0	557	4,264	534	930	1,084	2,091	
合計											
イネ科葉部短細胞珪酸体	62,004	70,783	150,121	36,633	26,077	25,800	61,424	109,027	197,832	75,261	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	20,224	43,535	123,915	25,998	38,893	62,260	60,000	150,871	207,568	173,519	
樹木起源珪酸体	191	332	971	0	557	4,264	534	930	1,084	2,091	
総計	82,419	114,650	275,007	62,631	65,527	92,324	121,958	260,828	406,504	250,871	

第8表 北野遺跡 Loc. 1・12 の植物珪酸体含量

料で、イネ属珪酸体の保存状態が悪く、完形は見られない。

5 考察

(1) 調査地において認められた河道堆積物

今回の調査では、調査区の西半部において発掘調査結果及びC14年代値から、縄文時代後期～弥生時代前期頃に形成されたと考えられるSR01が検出された。現地調査では、このSR01にはば直交するようにして設定されたトレンチ01を中心として堆積物の観察を行った。現地での堆積物観察では、一連のトランク型斜交層理や平行層理のグループからなり、侵食面や再活動面に境され、いくつかの堆積相の組み合わせからなる、より大きなスケールでの堆積相や流路形態の特徴を示す堆積ユニットを見いだすことになった。その結果、本調査区では、1～4までの堆積ユニットが確認された。これらについては、上位から河道1から4までの名称を与えた。河道1～3は、SR01を埋積した堆積ユニットであり、河道4はSR01の基盤となる堆積ユニットである。考古遺物の相対年代及びC14年代値から、各堆積ユニットの形成年代は、河道1が弥生時代前期、河道2が弥生時代前期頃、河道3が縄文時代後期、河道4が縄文時代後期以前と推定される。堆積ユニットの累重状況については、柱状図の記載及び対比結果を示した第93図に記載している。

調査区の最下部に位置する河道4は、10～13層によって構成される。本堆積ユニットからは、考古遺物がほとんど検出されておらず、その詳細な堆積年代は不明である。上位の堆積ユニットの年代から、河道4は、縄文時代後期以前に堆積したことが推定される。河道4を構成する砂礫層は、調査区の全域にわたって分布している。このことから、河道4を形成した流路幅は、調査区の東西長である20m前

後より大きかったことがうかがえる。SR01の東岸、調査区中心部付近（Loc.7付近）では、有機質泥層である12層が厚く累重している。このSR01の東岸に分布する12層は、北壁及び南壁に向かって層厚を減じていき、レンズ状の形態をなして堆積している。このような累重状況からは、12層が放棄流路を埋積する堆積物として形成されたことが推定される。このことは、流路4が上流側において河道変更によって機能が停止したことを示唆している。

河道3は、SR01の最下部に堆積した河道堆積物であり、9層によって構成される。本堆積ユニットは、最下部から検出された材化石のC14年代値から、縄文時代後期頃に形成されたと推定される。河道3は、上位の堆積ユニットに侵食され、SR01の西側（Loc.4～5付近）のみ分布する。残存している河道3の東西長は5mであるが、本来は、SR01の流路幅と深さの最大規模である幅8.5m前後、深さ80cm前後を有していたと推定される。

河道2は、5～8層によって構成される。水田跡や弥生時代前期の土坑の遺構検出状況及び堆積層の累重状況から、本堆積ユニットは、弥生時代前期頃に形成されたことが推定される。河道2の流路幅は3m前後、深さ80cm前後を測る。河道2の上層に形成された5層は、下層の7層に比べ淘汰が悪く上方粗粒化の傾向を示す。5層は、河道2の埋没時に形成された堆積層であると推定され、攻撃斜面側に相当するSR01の東岸に流路からオーバーフローしたと考えられる砂層を広く堆積させている。河道2は、4層上面で検出された水田跡を侵食しない被覆して形成されている。また、上位の堆積ユニットである河道1からオーバーフローした堆積物上面からは、弥生時代前期の土坑（SK31）が形成されていることが発掘調査によって確認されている。このことから、本堆積ユニットは、水田が造成された以降からSK01の掘削以前に形成された河道であることが確認される。

河道1は、3層によって構成される。本堆積ユニットは、弥生時代前期に形成されたと考えられる。河道1の流路幅は3m前後、深さ60cm前後を測る。上面で畦畔が検出された4層（耕土A-C）は、河道1の流路からオーバーフローした洪水堆積物によって埋没している。Loc.5付近では、流路からのオーバーフロー堆積物の上面から弥生時代前期の土坑（SK31）が検出されている。

本調査区で認められた河道1～4までの堆積ユニットについて概観してきた結果、河道4は、その流路幅から、本遺跡周辺を流下していた流路のうち幹線流路に相当するものであると判断される。この時期は、調査区全体が流路内に位置しており、人間活動の及ぶ領域でなかったことがうかがえる。この河道4を部分的に侵食して形成されたものが調査区西半部で検出されたSR01である。河道4の最上部には、古土壤が形成されており、河道4が埋積された後にSR01が形成されるまでにいくらかの時間が経過していたことを示している。河道4は、断片的な観察結果からではあるが、上流側の河道変更によって、流路充填堆積物による埋積が停止したことが示唆される。堆積物の層相変化から、その後は、調査区中央付近に形成された放棄流路状の凹地に有機質の泥が堆積するような湿地の堆積環境が形成され、さらにこれらの堆積物が離し、土壤が形成されるような地表面となったことが推定された。SR01は、このような河道4の埋没過程を経た後に形成された流路である。

SR01内では、河道1～3までの堆積ユニットが確認された。これらの堆積ユニットの流路幅や深さは、河道4に比べてかなり小さい。水田跡及び土坑の検出状況と堆積物の累重状況から、SR01内で確認された堆積ユニットのうち、河道2・3は4層での水田造成以前、河道1は水田造成後に形成されたことが確認された。4層で検出された水田は、肉眼や軟X線写真による観察から、SR01からオーバーフローした洪水堆積物を母材として形成されたことがうかがえる河道3内から採取された材のC14年

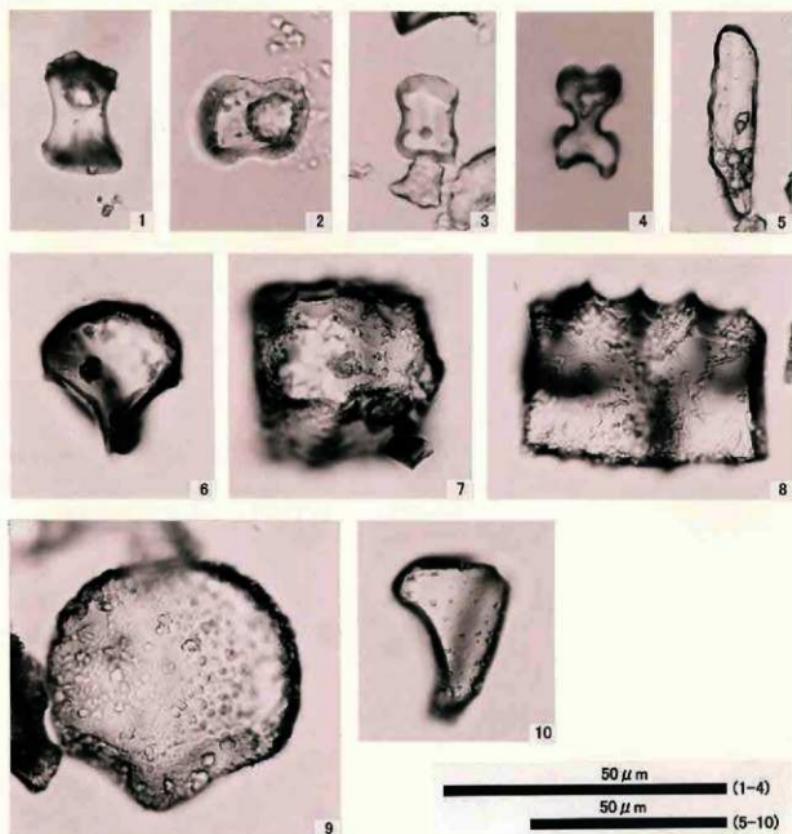
代値やSR01内の堆積物の累重状況から、水田はSR01が河道3などの堆積物によっていくらか埋没して幅を狭めた流路状態の時点で形成されたことが推測される。その後、河道2の流路堆積物の充填に伴い、水田は一部侵食や埋積を受け、最終的に河道1によって完全に埋没したことが発掘調査や堆積物観察の結果から確認される。

(2) 畦畔検出面における遺構形成過程と植物珪酸体組成

畦畔が検出された層準を挟む堆積層について詳細な堆積及び土壤構造についての観察を行った。その結果、Loc.1では、畦畔検出層準の4層で、耕土AとCに対応する層準が明瞭に区分されることができ明らかとなった。また、これらいずれの層準からも、堆積層上面において土壤発達が認められることが明らかになった。耕土AとCでは、粗孔隙の分布形態が異なっており、これらは互いに不連続である。このことは、耕土C上面において一度、侵食や削平が行われた後に、耕土Aが新たに形成された可能性を示唆している。また、Loc.12においても、耕土Aに相当する層準が上下の堆積層と明瞭に区分されることが判明した。また、耕土Aに相当する層準は、他の層準に比べ擾乱が著しい雰囲気であることも観察された。しかしながら、軟X線写真の解像度では、耕土相当層とその基盤層とで、土壤構造を詳細に比較することが困難である。この点については、土壤薄片を作成してさらに観察を行い、人为的擾乱層と自然層との区分を検討していく必要がある。

畦畔検出層準の植物珪酸体群集は、各地点とも湿った堆積ないし土壤環境下に生育する大型水生植物のヨシ属や水田雜草となりうる分類群を含むコブナグサ属がほとんど検出されず、タケア科ネザサ節が優占する。さらに、花粉化石や珪藻化石は、ほとんど検出することが不可能であった。これら微化石の産出状況及び上述してきた堆積物の観察結果から、畦畔検出層準は、好気的な状態が維持されるような土壤環境下において形成されたことが推定される。

イネ属の珪酸体については、Loc.12において耕土A及びその上位の層準で200～300個/g前後とわずかながら検出された。弥生時代やそれ以降の時代において、安定して水田稲作が行われたと推定される水田跡の土壤からは、イネ属の機動細胞珪酸体が5,000個/g以上検出されることが通例であるとされる(杉山2000)。この分析値を基準とすると今回の結果はあまりにも少ない。しかしながら、大阪湾岸や瀬戸内海沿岸の弥生時代前期の水田跡では、5,000個/gを遙かに下回るような分析結果が多く存在している。岡山平野の津島遺跡では、イネ属機動細胞珪酸体が2,000個/g前後の値を示した1試料を除く他の3試料が150～350個/g前後(パリノ・サーヴェイ2003)、六甲山地南麓地域の戎町遺跡では、イネ属機動細胞珪酸体の含量が高い試料で3,000個/g前後、少ない試料で1,000個/g前後(古環境研究所1989)、河内平野の志紀遺跡では、イネ属機動細胞珪酸体が800個/g(金原2002)、池島・福万寺遺跡では、イネ属機動細胞珪酸体が3,000個/g前後及び1,500個/g前後の値を示すが、400個/g程度の試料も存在している(辻本2001)などの分析結果が得られている。このような弥生時代前期の水田跡におけるイネ属機動細胞珪酸体結果を踏まえると、今回、北野遺跡の畦畔検出層準で検出されたイネ属の含量は、他の遺跡に比べ極端に少ない傾向にあるわけではないことが認識される。珪酸体の評価については、堆積速度や堆積物中に取り込まれる量やその後の風化などを考慮する必要がある。植物珪酸体の風化については、未だ不明な点が多いのが事実であるが、植物珪酸体がPH値の高い場所や、乾湿を繰り返す場所で風化しやすいこと(江口1994・1996)や、種類によって溶解性に違いが認められることが(近藤・佐瀬1986)が指摘されている。このような研究結果を踏まえると、上述した畦畔検出層



1. ネザサ節短細胞珪酸体 (Loc. 1;1)

2. ヨシ属短細胞珪酸体 (Loc. 1;5)

写真1 植物珪酸体

準の植物珪酸体組成や肉眼観察結果から推定される土壤環境は、珪酸体の保存にあまり適していなかつた可能性がある。また、外山（2002）は、イネ属やその他の植物珪酸体の検出数や量が、耕作地の微地形及びそれを構成する堆積物の粒度組成や一筆単位の水田面積の違いに関連があることを確認した。弥生時代の水田跡では、イネ属やその他の珪酸体の産状にかなりのバラツキがあることも認められている（辻本・辻 2002、辻本ほか 2003）。珪酸体の量比を決定する要因は、上述したような様々な要因が存在している。しかも、比較的狭い空間での分布のバラツキも認められている。このようなことから、畦畔検出層準から検出されたイネ属珪酸体の含量の少なさが、直ちにその層準での水田耕作を否定的に見る根拠とはならないものと判断される。

以上の分析及び観察結果から、畦畔検出層準では、基盤層と明らかに区別される層準が存在しており、その層準の上部付近で栽培種であるイネ属が少ないので検出されたことが確認される。現在における堆積物観察や植物珪酸体組成から、畦畔検出層準が形成された当時は、半湿や半乾の好気的な土壤環境にあったことが推定される。畦畔検出層準の基盤をなす堆積物からは、イネ属が検出されていない。このことは、基盤層の堆積時期に周辺にイネ属珪酸体を供給するような場所が存在していなかったことを示唆する。このような産状は、調査地点周辺において、畦畔が検出された層準の時期に初めてイネ属の栽培が行われるようになったことを示している。今回と同様の事例は、池島・福万寺遺跡の弥生時代前期の水田跡で実施された植物珪酸体分析の事例に認めることができる（辻本 2001）。今回の調査・分析及び発掘調査結果を踏まえると、畦畔検出層準において水田が存在していた可能性を示唆することができる。この可能性は、今後の調査や分析でさらに検証していく必要があるものと判断される。

（3）SR01 内堆積物の古植物学的検討

SR01 内堆積物の花粉化石群集は、先述の堆積ユニット河道 2 層準において、距離的に近い Loc.8 と Loc.4 の 2 カ所の地点で確認されている。いずれの地点も流路縁の堆積物に認められた群集である。両地点の花粉化石群集は、総花粉・胞子の中で木本花粉が高率を占めること、同様な種類（分類群）から構成されている点で類似するが、各種類の出現頻度は地点間で差異が認められる。この出現頻度の違いについては、地点間の距離や堆積環境を考慮すると、堆積物中への花粉化石の取り込まれ方（化石群集の形成過程）が異なっていたことを反映しているものと判断される。

両地点とも木本花粉が高率を占めることから、河道周辺には森林と呼べる林分が成立していたことが推定される。種類構成をみると、多産する要素では落葉広葉樹のコナラ亜属、常緑広葉樹のアカガシ亜属の 2 種類、隨伴種では暖温帯林要素であるマキ属、温帯性針葉樹であるモミ属・ツガ属・マツ属・コウヤマキ属、落葉広葉樹のクマシデ属—アサダ属・エノキ属—ムクノキ属・ケヤキ属—ムクノキ属などが認められる。これらのうち、コナラ亜属などの落葉広葉樹の種類や温帯性針葉樹の種類は、アカガシ亜属などの常緑広葉樹に比較して、地点間における出現頻度の格差が大きい。各種類の地点間における出現頻度格差は、先述した化石群集の形成過程の違いに起因する可能性があるが、変動格差の大きい要素である落葉広葉樹の種類は、その多くが河道沿いの河畔林を構成する要素でもあり、格差の小さなアカガシ亜属などは土壤の発達した場所に分布する種類である。これらの生態性を考慮すると、地点間における出現頻度格差は、当時の各種類の分布場所と堆積場までの距離関係を反映している可能性があり、そうだとすると、コナラ亜属やエノキ属—ムクノキ属などは河道 2 の集水域沿いに分布し、アカガシ亜属やクリ属—シノキ属などは河道より離れた土壤の発達した場所に分布の主体があつたことになる。

高松平野では、本遺跡北側3kmに位置する林・坊城遺跡において、縄文時代晚期から弥生時代前期にかけての花粉化石群集が確認されている（パリノ・サーヴェイ 1993）。そこでも調査区内の2カ所の地点において花粉化石群集が得られているが、北野遺跡とは異なり、地点間での木本花粉群集の時間層位的な変遷及び種類構成は類似した産状を示している。これは林・坊城遺跡の花粉化石群集が花粉の供給源からの距離が離れており均質化されている群集であることを示唆する。すなわち林・坊城遺跡周辺と本遺跡周辺では植生環境が異なっていたことを示唆し、林・坊城遺跡周辺では北野遺跡周辺に比較して林分の発達が顕著でなかったことを示唆する。

以上、河道2堆積期である弥生時代前期には、モミ属・コウヤマキ属などの温帶性針葉樹やナラ類などの落葉広葉樹、照葉樹のアカガシ属などが周辺植生を構成しており、暖温帯林が成立していたことが推定される。また、草本花粉や植物珪酸体の産状から、河道沿いには水生植物のガマ属やサジオモダカ属やヨシ属などが生育する場所も存在し、マメ科（ソラマメ属を含む）やヨモギ属などが分布する、開けた草地も認められたものと推定される。今後、さらに調査事例を蓄積することによって、より詳細な時間・空間スケールでの検討が行われることが期待される。

参考文献

- 安藤一男.1990.淡水珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42:73-88.
- Asai, K. and Watamabe, T.1995. Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecologic Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophytic and saproxenous taxa. Diatom, 10, 35-47.
- 江口誠一.1996.沿岸域における植物珪酸体の風化と堆積物のpH値.ベトロジスト,40:81-84.
- 江口誠一.1994.沿岸域における植物珪酸体の分布.千葉県小櫃川河口域を例にして.植生誌研究,21:19-27.
- 原口和夫・三友・清・小林・弘.1998.埼玉の藻類 珪藻類.埼玉県植物誌.埼玉県教育委員会, 527-600.
- 伊藤良永・堀内誠示.1991.陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌, 6:23-45.
- 金原正子.2002.志紀遺跡3区における古環境復元「志紀遺跡(その2356)大阪府営八尾志紀住宅建て替え事業に伴う発掘調査報告書」(財)大阪府文化財調査研究センター 209-232.
- 古環境研究所.1989.プランツオバール分析調査報告、「夜宮遺跡第1次発掘調査概報」,神戸市教育委員会,103 - 110.近藤錬三・ピアスン友子.1981.樹木葉のケイ酸体に関する研究(第2報)反子葉被子植物樹木葉の植物ケイ酸体について.帝広畜産大学研究報告,12:217-229.
- 近藤錬三・佐瀬 隆.1986.植物珪酸体分析,その特性と応用.第四紀研究,25:31-64.
- 小杉正人.1988.珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用.第四紀研究,27:1-20.
- Krammer,K. 1992.PINNULAREine Monographie der europäischen Taxa.BIBLIOTHE CADATOMOLOGICA,BAND 26,p.1-353.
BERLIN · STUTTGART.
- Krammer,K. and Lange-Bertalot,H.1986. Bacillariophyceae.Teil 1.Naviculaceae.Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa,876p,Gustav Fischer Verlag.
- Krammer,K. and Lange-Bertalot,H.1988.Bacillariophyceae.Teil 2.Epithemiaceae.Bacillariaceae, Suriellaceae.Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa,536p,Gustav Fischer Verlag.
- Krammer,K. and Lange-Bertalot,H.1991a.Bacillariophyceae.Teil 3.Centrales,Fragilariaeae,Eunotiaceae. Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa,230p,Gustav Fischer Verlag.
- Krammer,K. and Lange-Bertalot,H.1991b.Bacillariophyceae.Teil 4.Achnanthaceae,Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa,248p, Gustav Fischer Verlag.
- 久馬一郎・八木久義監修.1989.土壌薄片記載ハンドブック.博友社,176p.
- 松田順一郎.2000.八尾市小阪合遺跡における弥生時代～古代の河川堆積作用と地形発達、「小阪合遺跡－都市基盤整備公園八尾園地 建替えに伴う発掘調査報告書」.(財)大阪府文化財調査研究センター,259-276.
- 松田順一郎.1999.瓜生堂第40回調査地における河川堆積作用の変化、「瓜生堂・若江北・山賀遺跡発掘報告書－電気工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の調査報告書」,(財)東大阪市文化財協会,93-105.
- 松田順一郎・パリノ・サーヴェイ.1996.「北島遺跡の耕作地と古環境－寝屋川南部流域植付ポンプ場土木工事に伴う北島遺跡第1次発掘調査報告書」,(財)東大阪市文化財協会,157p
- Miall,A.D.1992.Alluvial Deposits, in Walker,R.G. and James,N. P. (ed) Facies Models.Geological assosiation of Canada, p.119-142.
- Miall,A.D.1996.The Geology of Fluvial Deposits:Sedimentary Facies,Basin Analysis, and Petroleum Geology.Springer, 582p.
- 森也寸志・滋賀撰子・岩間憲治・渡辺裕一・丸山利輔.1992.土地利用による土壤間隙構造の差異－軽X線による観察を中心として－.土壤の物理性,No.66:19-27.
- 森也寸志.2000.軽X線による非破壊土壤中の排水機構の解明.土壤の物理性,No.83:59-65.
- 成岡市.1992.土壤粗孔隙の形態とその測定法 土壤の不均一性と物質移動の研究前線.日本土壤肥糧科学雑誌,64:190-97.

- 成岡市・岩田幸良・駒村正治 2000. 関東ローム層土における粗孔隙の透水、通気及び排水機能、農業土木学会論文集 No.208.63-71.
- パリノ・サーヴェイ 1993. 花粉分析とプラント・オバール分析、「林・坊城遺跡」 239-263. 香川県埋蔵文化財調査センター.
- パリノ・サーヴェイ 2003. 岡山県陸上競技場改修に伴う自然科学分析、「津島道路4 岡山岡山県陸上競技場改修に伴う発掘調査」、岡山県教育委員会 523-539.
- 杉山真二 2000. 植物珪酸体（プラント・オバール）. 辻誠一郎編著 考古学と自然科学3 考古学と植物学、同成社、189-213.
- Stiver, M., Long, A., Kra, R. (eds.), 1993.Calibration 1993. Radiocarbon 35, p. 1-22.
- 辻本裕也 2001.IFJ97-3 調査区の花粉・植物珪酸体分析、「池島・福万寺遺跡発掘調査概要XX VIII - IFJ97-3 調査区の概要-」.
- (財) 大阪府文化財調査研究センター, 120-131.
- 辻本裕也・辻 康男 2002. 池島・福万寺遺跡の古環境復元、「池島・福万寺遺跡2（福万寺Ⅰ期地区）－一級河川恩知川治水緑地建設に伴う発掘調査報告書－ 分析・考察編」、(財) 大阪府文化財センター, 361-410.
- 辻本裕也・辻 康男・田中義文・馬場健司 2003. 自然科学分析の成果、「勝部遺跡 大阪国際空港周辺緑地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」、(財) 大阪府文化財調査研究センター, 151-192.
- 谷口康浩 2001. 縄文時代遺跡の年代. 季刊考古学, 77,17-21.
- 外山秀一 2002. 池島・福万寺遺跡の立地と環境、「池島・福万寺遺跡2（福万寺Ⅰ期地区）－一級河川恩知川治水緑地建設に伴う発掘調査報告書－ 分析・考察編」、(財) 大阪府文化財センター, 411-429.
- Witkowski,A.H. Lange-Bertalot, and D. Metzeltin (2000) Diatom flora of Marine coast I. Iconographia Diatomologica 7: 881 p.Koeltz Sci. Koenigstein.

辻 康男・辻本裕也・金井慎司・馬場健司 (パリノ・サーヴェイ株式会社 [当時])

第3節 弥生土器、粘土塊の胎土分析

1はじめに

北野遺跡は、香川県高松市三谷町字北野地内に所在する。北野遺跡から出土した焼成土塊及び弥生土器について、薄片の偏光顕微鏡観察による胎土分析を行った。

2 試料と方法

試料は、北野遺跡から出土した弥生土器9点である（第9表）。

試料 No.	遺跡名	器種	番号	遺構	時期
1	北野遺跡	焼成土塊	565	SD24	弥生時代前期
2			566		
3			567		
4		弥生土器	559		
5			560		
6			561		
7			562		
8			563		
9			564		

第9表 胎土分析試料の詳細

これらの焼成土塊及び弥生土器は、偏光顕微鏡観察用の薄片を作製した。方法は、一部をダイヤモンドカッターで切断した後、エポキシ樹脂で固化処理を行い、精密岩石薄片作製機及び研磨フィルムを用いて厚さ20～30μmの土器薄片を作製した。

薄片は、粒子を微化石類（植物珪酸体化石など）、鉱物、岩片に分けて、粒度区分毎に同定・計測を行った。計測は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔におけるポイント法により中粒シルト以上の粒子200個体について同定・計数した。また、薄片全面について微化石類、鉱物、岩石片等の特徴について観察・記載した。なお、本ポイント法は、松田ほか（1999）の方法を参考にした。土器胎土中の粒子の分類群は以下の通りである。

[珪藻化石]

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、大きさは10～数百μm程度である。珪藻は、海水域から淡水域に広く分布する。小杉（1988）や安藤（1990）は、現生珪藻に基づいて環境指標種群を設定し、具体的な環境復原を行っている。ここでは、種あるいは属が同定できる珪藻化石（海水種、淡水種）を分類した。

[骨針化石]

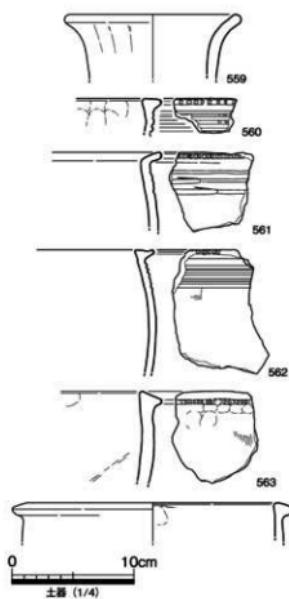
海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状からなる。海綿動物の多くは海産であるが、淡水産としても23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。したがって、骨針化石は水成環境を指標する。

[胞子化石]

胞子は、直徑約10～30μm程度の珪酸質の球状粒子である。胞子は、水成堆積物中に多く見られるが、土壤中にも含まれる。

[植物珪酸体化石]

主にイネ科植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、長径約10～50μm前後である。一般にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本やスゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在する。



第100図 胎土分析を行った土器

[角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は、細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような、ケイ酸分が中間的な深成岩類や変成岩類、火山岩類に産出する。

[雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で、風化すると金色から白色になる。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。

[ジルコン]

無色の長柱状または錐面に囲まれた形を呈し、屈折率が高い。

[砂岩質・泥岩質・チャート]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、基質部分をもつ。構成粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質、約0.06mm未満のものを泥岩質とした。チャートは、微細な結晶の集合体で、結晶度の高い岩石である。

[片岩類]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、片理構造を示す岩石である。結晶片岩や粘板岩である。

[植物遺体化石]

木本又は草本植物の細胞組織である。

[石英・長石類]

石英及び長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち、後述する双晶などのように、光学的な特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く、一括して扱う。なお、輝石類を含有する石英を含む。

[長石類]

長石は、大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶を示すものと累帯構造を示すものに細分される。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに細分される。

[輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石がある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビール瓶のような淡褐色及び淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。ケイ酸分の少ない深成岩類や火山岩類、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩類に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてケイ酸分の少ない火山岩類やケイ酸分の最も少ない火成岩類や変成岩類中にも産出する。

【深成岩類】

大型の石英や長石で構成され、輝石類や角閃石類あるいは雲母類などを含む完晶質の岩石である。

【凝灰岩】

ガラス質で斑晶質構造あるいは完晶質構造を持つ粒子のうち、結晶度が低く、直交ニコルで観察した際に全体的に暗い粒子である。

【流紋岩】

石英や長石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなり、流理構造を示す岩石である。

【火山岩】

斜長石や輝石・角閃石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなる岩石である。

【火山ガラス】

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄く湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山噴火により噴出した噴出物（テフラ）である。

【多結晶石英】

多結晶石英は、石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。

【酸化鉄結核】

赤褐色～褐色を呈する岩石であり、光学的には不透明である。

【不明鉱物及び不明岩石】

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明な粒子や、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明粒子とした。

3 結果

偏光顕微鏡を用いた薄片のポイント法による計測結果を第10表と第11表に示し、ポイント法による岩石・鉱物粒子・粒度分布図を第101図、粒度組成図を第102図に示す。また、薄片全面の観察による特徴記載を第12表に示し、その概略を第13表に示す。なお、第13表の●は特に多い、◎は非常に多い、○は多い、△は検出、-は不検出を示す。

4 考察

偏光顕微鏡による土器薄片のポイント法及び観察結果から、粘土の種類では、淡水種珪藻化石を含む淡水成粘土が2点、骨針化石を含む水成粘土3点、その他粘土が4点であった。また、砂粒組成は、主に深成岩類（B群）からなる砂粒が6点、主に深成岩類とテフラ（Bg群及びGb群）からなる砂粒が3点であった（第13表）。

粒度組成は、分析No.1が主に中粒砂～中粒シルトからなり、分析No.2が主に粗粒シルトと中粒シルトからなる。その他の弥生土器は、細繹又は極粗粒砂～中粒シルトからなるが、分析No.4やNo.6あるいはNo.9では細繹が目立つ。

北野遺跡は、香川県高松市三谷町字北野地内に所在し、更新世中～後期の中・高位段丘が隣接する。

粒径範囲	粒度	組成	粒子の相対頻度												合計
			0-1mm	1-2mm	2-3mm	3-4mm	4-5mm	5-6mm	6-7mm	7-8mm	8-9mm	9-10mm	10-11mm	11-12mm	
粒度別合計															
2	細粒	2mm (L.L.)													300
	粗粒	0.5-1mm													0
	中粗粒	0.25-0.5mm													1
	細粒	0.125-0.25mm													9
	粗粒	0.0625-0.125mm													29
	粗粒	0.03125-0.0625mm													28
	粗粒	0.0156-0.03125mm													23
	粗粒	0.0078-0.0156mm													18
	粗粒	0.0039-0.0078mm													47
	粗粒	0.002mm (L.Y.)													1
組成別合計															
2	細粒	2mm (L.L.)													300
	粗粒	0.5-1mm													0
	中粗粒	0.25-0.5mm													0
	細粒	0.125-0.25mm													0
	粗粒	0.0625-0.125mm													0
	粗粒	0.03125-0.0625mm													0
	粗粒	0.0156-0.03125mm													1
	粗粒	0.0078-0.0156mm													55
	粗粒	0.0039-0.0078mm													41
	粗粒	0.002mm (L.Y.)													136
	粗粒	0.001mm (P)													7
粒度別合計															
3	細粒	2mm (L.L.)													300
	粗粒	0.5-1mm													0
	中粗粒	0.25-0.5mm													0
	細粒	0.125-0.25mm													0
	粗粒	0.0625-0.125mm													0
	粗粒	0.03125-0.0625mm													1
	粗粒	0.0156-0.03125mm													55
	粗粒	0.0078-0.0156mm													41
	粗粒	0.0039-0.0078mm													136
	粗粒	0.002mm (L.Y.)													7
組成別合計															
4	細粒	2mm (L.L.)													300
	粗粒	0.5-1mm													0
	中粗粒	0.25-0.5mm													8
	細粒	0.125-0.25mm													20
	粗粒	0.0625-0.125mm													9
	粗粒	0.03125-0.0625mm													11
	粗粒	0.0156-0.03125mm													11
	粗粒	0.0078-0.0156mm													9
	粗粒	0.0039-0.0078mm													12
	粗粒	0.002mm (L.Y.)													12
組成別合計															
5	細粒	2mm (L.L.)													300
	粗粒	0.5-1mm													0
	中粗粒	0.25-0.5mm													11
	細粒	0.125-0.25mm													13
	粗粒	0.0625-0.125mm													6
	粗粒	0.03125-0.0625mm													4
	粗粒	0.0156-0.03125mm													3
	粗粒	0.0078-0.0156mm													3
	粗粒	0.0039-0.0078mm													14
	粗粒	0.002mm (L.Y.)													2
組成別合計															

第10表 ポイント法による粒子の同定・計測結果

北野道路・讃野西道路（香川県埋蔵文化財センター撮影 2020年）

第11表 ポイント法による粒子の同定・計測結果

分析 No.	種別	粒径	最大粒径	微化石の特徴										粘粒物質
				微化石の特徴										
1	焼成土塊	120 μm ~ 380 μm	137μm	植物微化石	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	
2		40 μm ~ 130 μm	648μm	珪藻化石 (洪木藻 Achnatheria 属, Diploneis 属, Hantzschia 属, Pinnularia 属, 不明属)、孢子化石、植物微化石(多い)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	
3		100 μm ~ 400 μm	243μm	珪藻化石 (洪木藻 Nitzschia 属, 不明属)、孢子化石、植物微化石(多い)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	
4	生土器	200 μm ~ 400 μm	277μm	孢子化石、植物微化石	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	
5		250 μm ~ 300 μm	273μm	骨粉化石 (S)、植物微化石	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	
6		100 μm ~ 400 μm	272μm	孢子化石、植物微化石(多い)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	
7		100 μm ~ 300 μm	236μm	中折化石 (2)、植物微化石(多い)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	
8		400 μm ~ 1200 μm	293μm	骨粉化石 (3)、孢子化石、植物微化石	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	
9		250 μm ~ 300 μm	237μm	植物微化石	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	板状石英類(隕縫)、カオミク(バーナイト)、板状石英類(大型)、鉄鉱石(菱鉄)	石英・長石類	

第 12 表 各試料の粘土中の微化石類と砂粒組成の特徴記載

分析 No.	種別	粘土の特徴				砂粒の特徴						粘土の特徴				その他の特徴	
		種	細粒度	粗粒度	粘土質堆積物	砂粒度	A-a	B-b	C-c	D-d	E-e	F-f	G-g	チラ	粘土	砂粒	
							A-a	B-b	C-c	D-d	E-e	F-f	G-g	チラ	粘土	砂粒	
		粘	粗	細	粗	細	粘	粗	細	粗	細	粗	細	チラ	粘土	砂粒	
1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	焼成土塊	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	生土器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第 13 表 胎土中の粘土および砂粒の特徴一覧表

徳島図幅（第 103 図の右側）において、南側に中新世中期の安山岩火碎岩及び溶岩 (Sk) やディサイト - 流紋岩火碎岩及び溶岩 (Sh) が小規模に分布し、さらに南側に白亜紀後期の角閃石黒雲母花崗閃綠岩及び黒雲母花崗岩 (G2) が広く分布する（図 3）。

検討した焼成土塊や弥生土器のうち、主に深成岩類とテフラ (Bg 群及び Gb 群) からなる砂粒組成を示す胎土は、段丘堆積物のテフラ層を挟在する粘土質堆積物を利用したことが推定される。一方、主に深成岩類 (B 群) からなる砂粒組成を示す胎土は、段丘堆積物のテフラ層を挟在しない粘土質堆積物を利用したことが推定される。

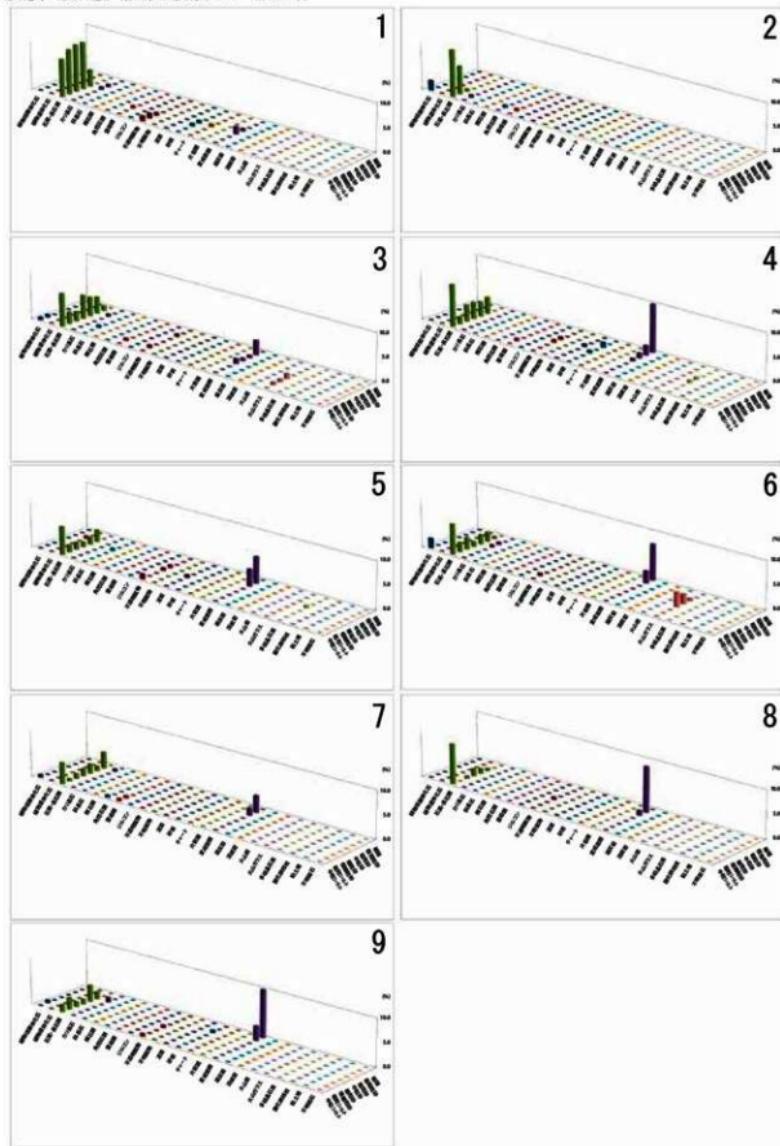
以上、焼成土塊及び弥生土器は、いずれも遺跡周辺の地質を反映した砂粒組成であった。

なお、焼成土塊の分析 No.2 と No.3 の胎土中には、イネ粉殻の珪酸体を含んでいた。

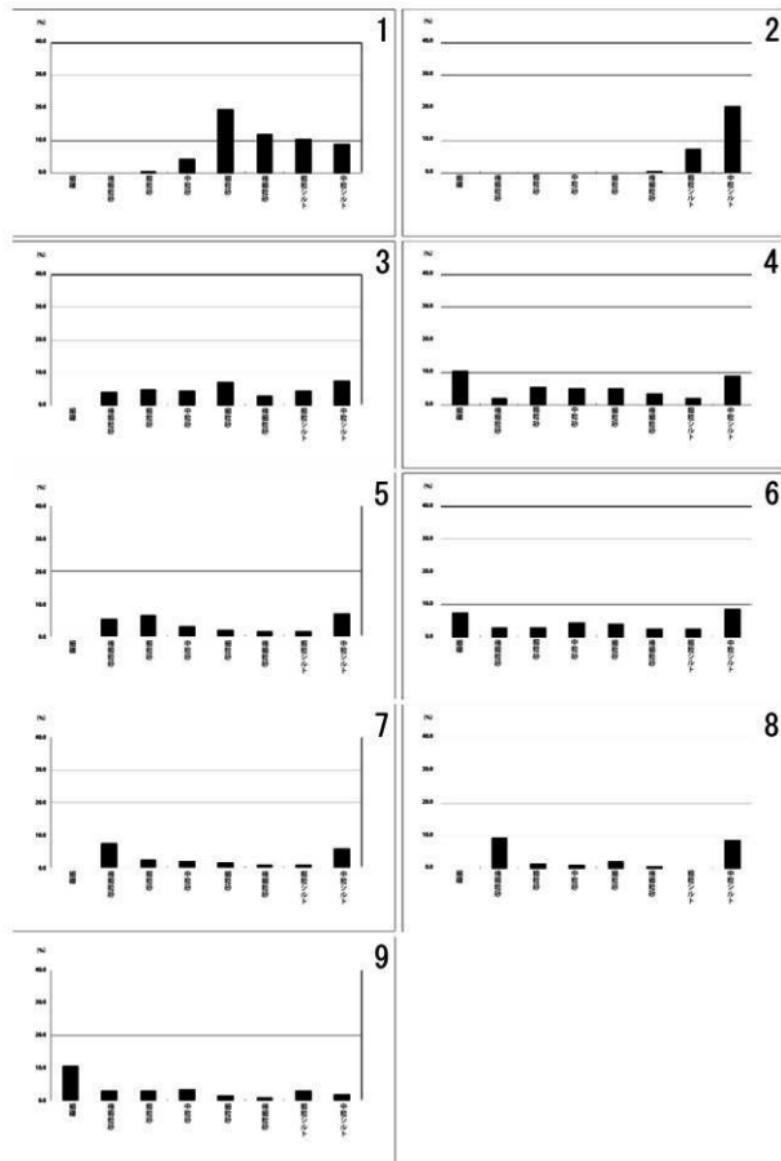
引用文献

- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42 (2), 73-88.
 小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.
 牧木 博・利光誠一・高橋 浩・水野清秀 (1995) 20 万分の1 地質図幅「徳島 第2版」. 地質調査所.
 松田順一郎・三輪若葉・別所秀高 (1999) 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察. 日本国文化財科学会第 16 回大会 研究発表要旨集, 120-121.
 松浦浩久・栗本史雄・吉田史郎・齋藤文紀・牧木 博・利光誠一・巖谷敏光・駒沢 正夫・広島俊男 (2002) 20 万分の1 地質図幅「岡山及丸亀」. 地質調査所

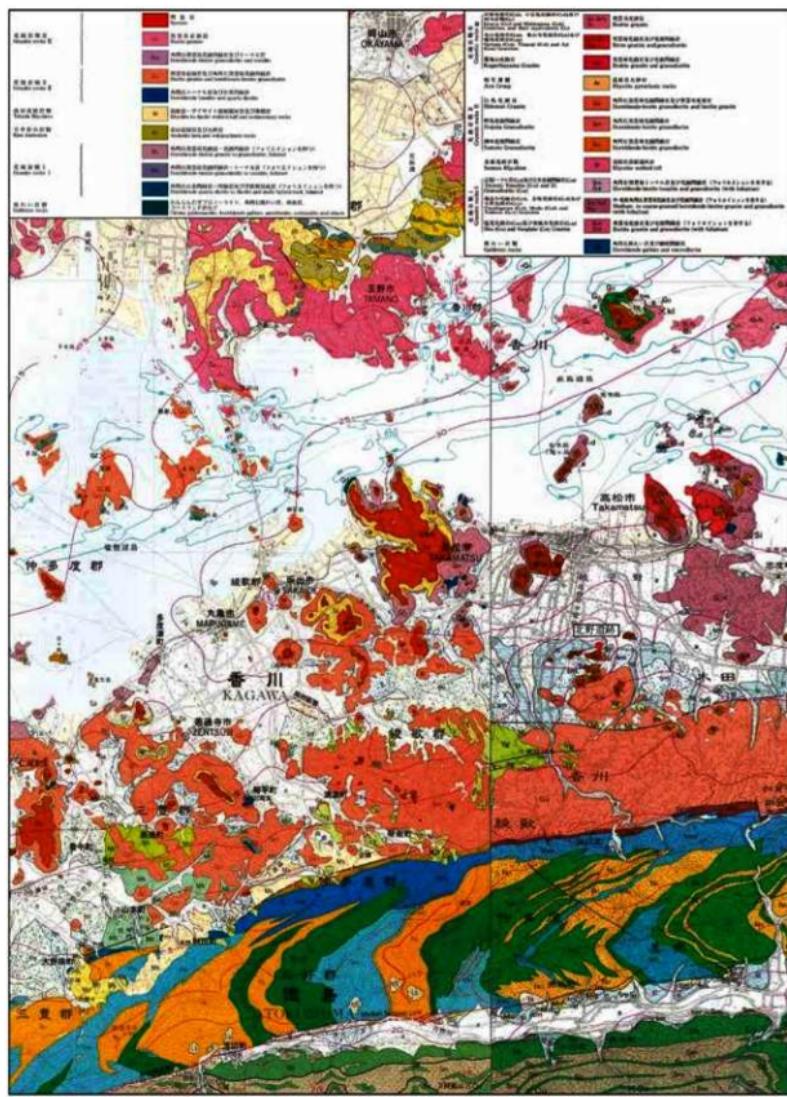
藤根 久・米田恭子 (株式会社パレオ・ラボ)



第101図 ポイント・カウント法による岩石・鉱物粒子一粒度分布図

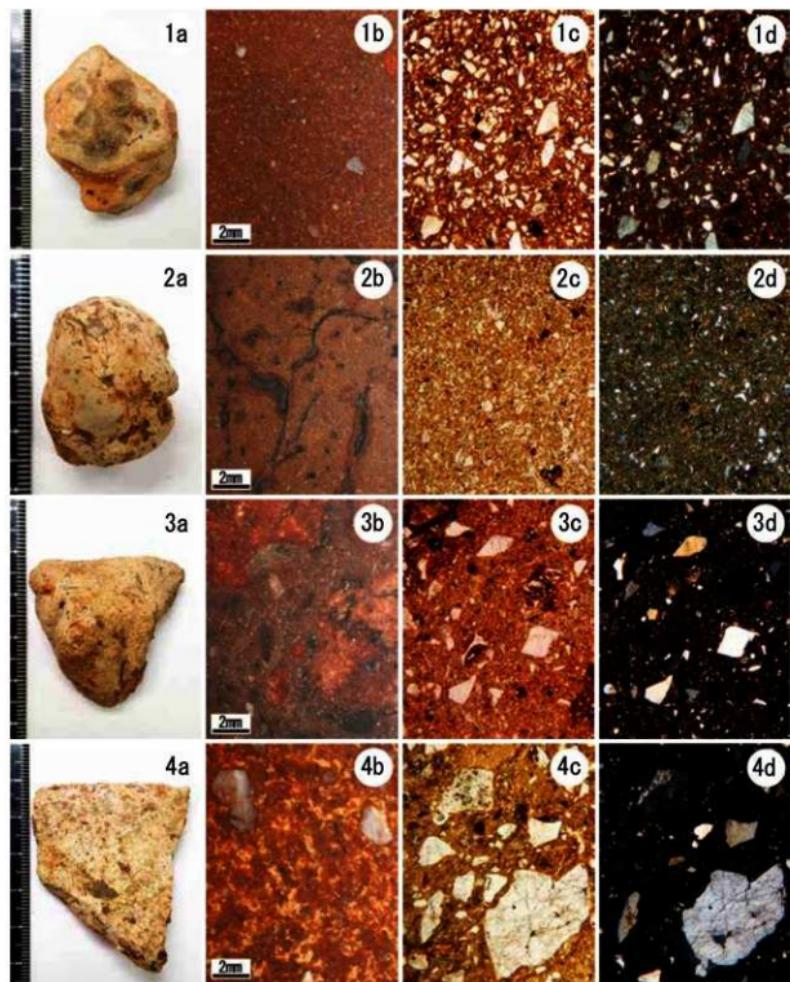


第102図 ポイント・カウント法による粒度組成図



（松浦はか（2002）20万分の1地質図幅「岡山と丸亀」および牧本はか（1996）20万分の1地質図幅「徳島 第2版」を編集）

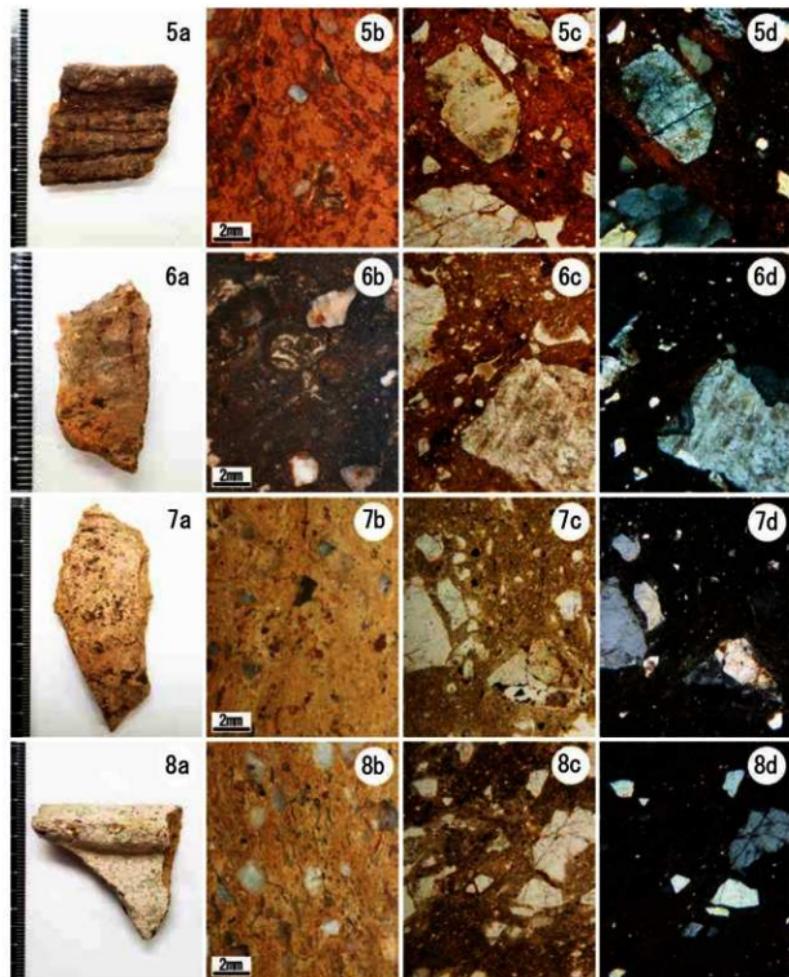
第103図 遺跡周辺の地質図



1断 No. 1, 2断 No. 2, 3断 No. 3, 4断 No. 4

a: 土器、 b: 土器断面、 c: 解放ニコル (スケール: 500μm)、 d: 直交ニコル (スケール: 500μm)

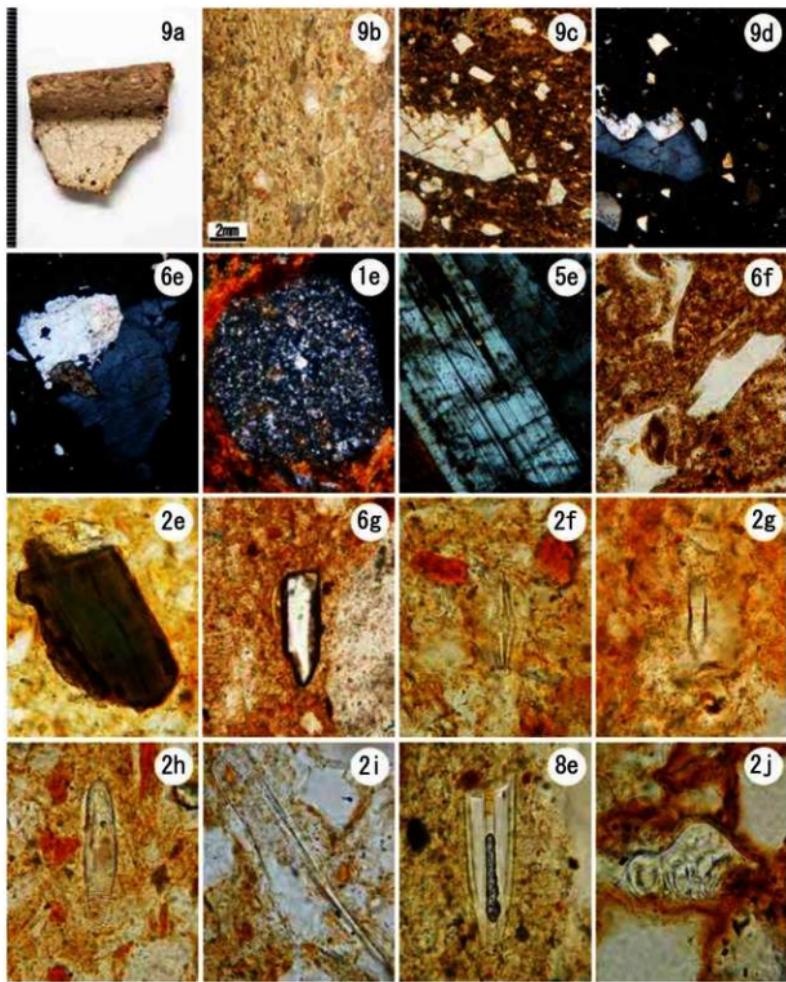
写真2 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (1)



5. 分析No.5、6. 分析No.6、7. 分析No.7、8. 分析No.8

a: 土器、b: 土器断面、c: 解放ニコル(スケール: 500μm)、d: 直交ニコル(スケール: 500μm)

写真3 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（2）



(スケール：9a, 9b, 9c, 9d, 6e : 500μm, 5e : 100μm, 1e, 6f, 6g : 500μm, 2e, 2f, 2g, 2h, 2i, 8e, 2j : 20μm)

9a. 分析No.9、 9b. 分析No.9 (断面)、 9c. 分析No.9 (解放ニコル)、 9d. 分析No.9 (直交ニコル)

6e. 複合石英類 (大型)、 1e. 複合石英類 (微細)、 5e. 斜長石 (双晶)、 6f. 火山ガラス (バブル型)

2e. 角閃石類、 6g. ジルコン、 2f. 硅藻化石*Diploneis*属、 2g. 硅藻化石*Hantzschia*属

2h. 硅藻化石*Achnanthes*属、 2i. 硅藻化石*Pinnularia*属、 8e. 骨針化石、 2j. イネ科殻の硅酸体

写真4 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (3)

第4節 石器の蛍光X線分析

1 はじめに

北野遺跡は、香川県高松市三谷町に所在する。本報告は、香川県埋蔵文化財センターの委託により、同遺跡内において出土したサヌカイト製造物を対象に、石材産地を推定する目的で行った蛍光X線分析の報告書である。

2 試料について

第14表・第104図に示す30試料を対象に分析を行い、既存資料との比較から、原石の産地同定を行った。

3 分析方法

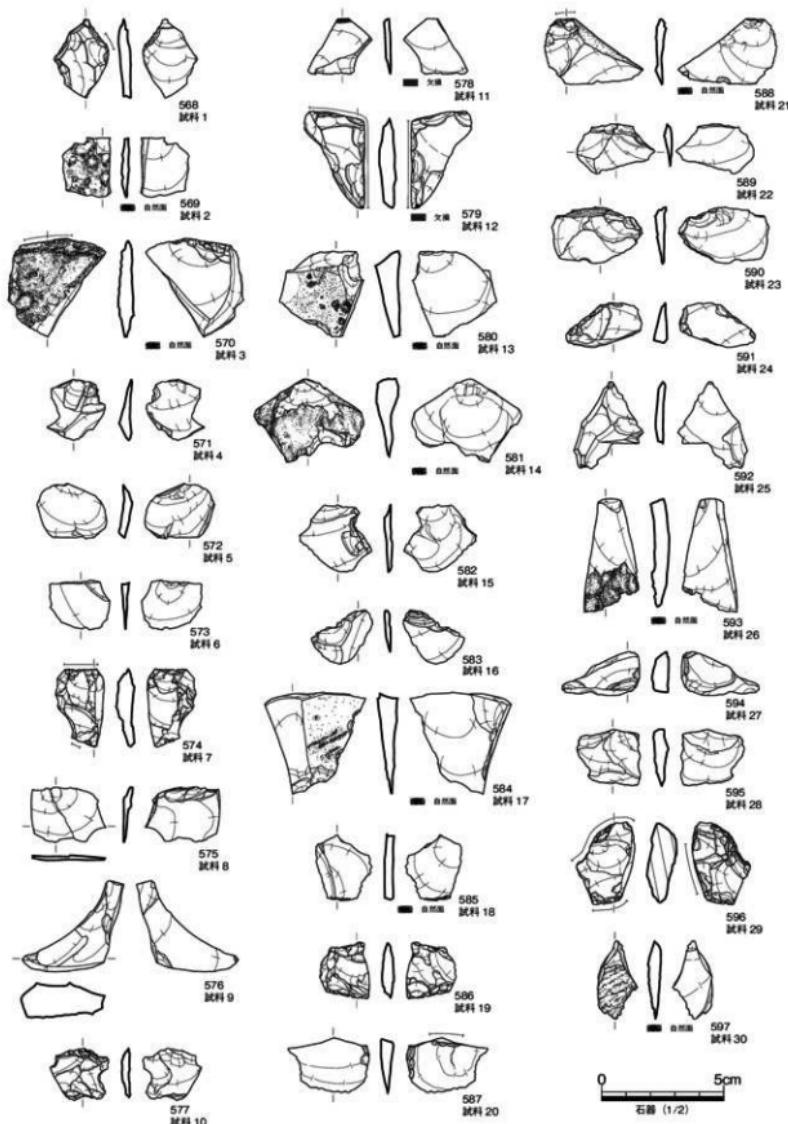
東村（1976、1980）、薬科・東村（1975、1983）、薬科・東村・鎌木（1977、1978）に従って、分析、同定を進めた。概略は、以下の通りである。

遺物の測定面に対し圧縮空気によるアルミナ粉末の吹きつけを行い、風化層を除去する。分析にはセイコーアンスツルメンツ社のSEA2110Lシリーズ卓上型蛍光X線分析計を用い、分析結果として化合物濃度の相対含有百分率（w t%）と元素比を示す。

産地同定には（有）遺物材料研究所所有のデータベース上の376の原石・遺物群（原産地：103原石群 産地不明：273 遺物群、薬科（2015）で報告後、「広島県世羅・権現山」原石群のはか、102遺物群を追加（第15表。）との間でホテリングのT2乗検定を用い、帰属確立を%で求めた。

番号	注記番号	遺構	器種	分析番号	ホテリングのT2乗検定結果	定量（%）判定結果
1	D009	SD24	調片	129801	金山東(40%)、金山東南(13%)、金山南(3%)、金山北(0.1%)	金山東、金山東南
2	D0117	SD24	調片	129802	金山東(33%)、金山東南(24%)、金山南(2%)、金山西(0.1%)	金山東
3	D0089	SD24	調片	129803	金山東(69%)、金山東南(2%)、金山南(2%)、金山西(0.1%)	金山東
4	D0089	SD24	調片	129804	金山東(44%)、金山東南(3%)、金山南(1%)、金山西(0.2%)	金山東
5	D0134	SD24	調片	129805	金山東(5%)、金山東南(14%)、金山南(2%)、金山北(0.3%)、金山西(0.2%)	金山東、金山東南
6	D0082	SD24	調片	129806	金山東(33%)、金山東南(28%)、金山南(15%)、金山西(0.4%)	金山東、金山東南、金山南
7	D0098	SD24	石核	129807	金山東(28%)、金山東南(28%)、金山南(0%)	金山東、金山東南
8	D0116	SD24	調片	129808	金山東南(71%)、金山東(57%)、金山南(4%)、金山西(2%)、金山南露頭(0.1%)	金山東南、金山東、金山南
9	D0115	SD24	石核	129809	金山東南(99.7%)、金山東(72%)、金山南(6%)、金山北(0.8%)、金山西(0.1%)	金山東南、金山東、金山南
10	D0099	SD24	調片	129810	金山東(42%)、金山東南(12%)、松ノ木遺物群(3%)	金山東、金山東南
11	D0095	SD24	調片	129811	金山東(18%)、金山東南(3%)、金山南(0.8%)	金山東
12	D0095	SD24	石核	129812	金山東(69%)、金山東南(40%)、金山南(18%)、金山西(0.8%)	金山東、金山東南、金山南
13	D0100	SD24	石核	129813	蓮光寺(76%)、圓分寺(63%)、岩屋第2(0.2%)	蓮光寺、圓分寺
14	D0142	SD24	石核	129814	國分寺(69%)、圓光寺(57%)	國分寺、圓光寺
15	D074	SD24	調片	129815	金山東(82%)、金山東南(50%)、金山南(10%)、金山西(0.3%)、松ノ木遺物群(0.2%)	金山東、金山東南、金山南
16	D0118	SD24	調片	129816	金山東(52%)、金山東南(12%)、金山南(11%)、金山西(0.3%)	金山東、金山東南、金山南
17	D0114	SD24	調片	129817	金山東(65%)、金山東南(24%)、金山南(4%)、松ノ木遺物群(0.5%)、金山北(0.2%)	金山東、金山東南
18	D0123	SD24	調片	129818	金山東(13%)、金山東南(7%)、金山南(4%)、金山西(0.3%)	金山東、金山東南
19	D0123	SD24	石核	129819	法印院(70%)、米崎第1群(6%)、瓦子山(0.1%)	法印院、米崎第1群
20	D0133	SD24	調片	129820	金山東(87%)、金山東南(20%)、金山南(5%)、金山西(0.3%)、松ノ木遺物群(0.2%)	金山東、金山東南、金山南
21	D0133	SD24	調片	129821	金山東(66%)、金山東南(25%)、金山南(6%)、金山西(0.2%)	金山東、金山東南、金山南
22	D0108	SD24	調片	129822	金山東(79%)、金山東南(6%)、金山南(1%)、松ノ木遺物群(0.5%)、金山西(0.2%)	金山東、金山東南
23	D0108	SD24	調片	129823	金山東(44%)、金山西(20%)、金山東(4%)、金山東南(3%)	金山東、金山西
24	D0108	SD24	調片	129824	金山東(19%)、金山東(18%)、金山東南(12%)、金山西(2%)	金山東、金山東南、金山南
25	D0095	SD24	調片	129825	金山東(70%)、金山東南(5%)、金山南(1%)、金山西(0.4%)	金山東、金山東南
26	D0095	SD24	調片	129826	岩屋第2(20%)、白峰(7%)、蓮光寺(1%)	岩屋第2、白峰
27	D0095	SD24	石核	129827	金山東(91%)、金山東南(22%)、金山南(6%)、金山西(0.5%)、松ノ木遺物群(0.3%)	金山東、金山東南、金山南
28	D0095	SD24	調片	129828	金山東(28%)、金山東南(7%)、金山南(0.5%)、金山北(0.1%)、金山西(0.1%)	金山東、金山東南
29	D0108	SD24	石核	129829	金山東(70%)、金山東南(67%)、金山南(14%)、金山西(0.7%)	金山東、金山東南、金山南
30	D0134	SD24	調片	129830	金山東(9%)、金山東南(38%)、金山南(6%)、金山西(0.8%)、松ノ木遺物群(0.2%)	金山東、金山東南、金山南

第14表 試料一覧及び産地同定結果



第104図 蛍光X線分析試料

北野道跡 鎌野西道跡（香川県埋蔵文化財センター撮影 2020年）

第15表 新たな原石群と遺物群（葛科2015に追加）

4 分析結果

第16・17表に分析結果を示した。更に表1に、産地同定結果としてホテリングのT2乗検定結果(定性的信頼限界である0.1%以上の帰属確率を示す原石群)、定量(5%)判定結果(定量的信頼限界である5%以上の帰属確率を示す原石群)として示している。

今回分析した試料の中で、試料番号13.14.19.26を除く試料は全て金山産地中のどこかの原石群に同定された。試料番号13.14は五色台産地の国分寺、連光寺群、試料番号19は五色台産地の法印谷群、来峰1群と推測され、試料番号26は五色台産地の白峰群、淡路島の岩屋産地で採取できる岩屋第2群の円礫の成分と一致した。金山産地と同定された複数の地点で、同時に定量的(5%以上)に同定された原石産地(原石群)をみると、最も多い同定結果は金山東と金山東南で、金山南と金山西は一組であった。また、金山東群を作った原石は香川県坂出市に位置する金山東麓を中心とした広い地域から採取されている。

今回の同定結果に一致する原石が岩屋・和泉・岸和田・梅原の原産地(薬科, 2015)からも採取されることから、一遺跡から複数の遺物を分析し、それぞれの群に帰属される頻度分布を求めて、岩屋・和泉・岸和田・梅原原産地の原石が使用されたかどうかを判断しなければならない。一方、今回の試料中には岩屋・和泉・岸和田・梅原原産地で多く産出している岩屋第1群・和泉・梅原群に同定された遺物が見られないことから、岩屋・和泉・岸和田・梅原原産地の原石が使用されていなかったと判断できる。したがって、北野遺跡では金山地域・五色台地域以外の日本各地の原石・遺物群が伝搬していなかったと言うことができる。

また、分析試料が「安山岩」であるか「サヌカイト」であるかの判別は、斑晶や古銅輝石の有無で行われ、肉眼では難しい。一方比較に用いた原石群(金山東・国分寺・白峰・法印谷の原石)は「サヌカイト」であった。分析試料の化合物濃度がこれらの原石と一致したことから、間接的であるが今回の分析試料が「サヌカイト」である可能性は高いと言える。

番号	注記番号	遺構	器種	分析番号	化合物濃度の相対含有百分率(w.t. %)												
					Al2O3	SiO2	R2O	CaO	TiO2	MnO	FeO	Rb	Sr	Y	Zr	Nb	Ba
1	D009H	SD24	調片	129801	22.089	59.616	3.558	5.5	0.622	0.236	8.212	0.022	0.049	0.004	0.036	0.002	0.077
2	D117	SD24	調片	129802	21.966	59.769	3.551	5.22	0.635	0.231	8.188	0.021	0.048	0.004	0.035	0.001	0.065
3	D009B	SD24	調片	129803	22.005	59.812	3.578	5.578	0.619	0.232	8.076	0.022	0.048	0.004	0.035	0.001	0.076
4	D009B	SD24	調片	129804	21.956	59.429	3.679	5.595	0.635	0.223	8.452	0.022	0.049	0.004	0.037	0.002	0.073
5	D113L	SD24	調片	129805	21.578	59.903	3.57	5.583	0.642	0.217	8.184	0.021	0.048	0.004	0.036	0.001	0.075
6	D008Z	SD24	調片	129806	21.66	59.783	3.525	5.529	0.65	0.233	8.305	0.021	0.049	0.004	0.036	0.001	0.066
7	D008A	SD24	石核	129807	21.884	59.766	3.55	5.425	0.617	0.211	8.146	0.022	0.049	0.004	0.037	0.002	0.065
8	D116	SD24	調片	129808	21.885	59.851	3.497	5.691	0.642	0.209	8.124	0.021	0.048	0.004	0.035	0.001	0.066
9	D115	SD24	石核	129809	21.942	59.647	3.624	5.469	0.644	0.211	8.065	0.023	0.048	0.004	0.036	0.001	0.076
10	D009A	SD24	調片	129810	21.721	59.766	3.821	5.406	0.633	0.217	8.169	0.021	0.049	0.004	0.036	0.001	0.069
11	D006S	SD24	調片	129811	21.607	59.825	3.55	5.574	0.663	0.214	8.333	0.021	0.049	0.004	0.039	0.001	0.064
12	D006	SD24	石核	129812	21.822	59.766	3.546	5.505	0.658	0.211	8.254	0.021	0.048	0.003	0.036	0.001	0.072
13	D1010	SD24	石核	129813	21.363	60.805	3.562	5.465	0.718	0.178	8.605	0.021	0.048	0.003	0.033	0.002	0.073
14	D0142	SD24	石核	129814	21.237	60.619	3.623	5.669	0.747	0.182	6.945	0.021	0.05	0.004	0.033	0.002	0.072
15	D074	SD24	調片	129815	21.712	59.871	3.577	5.442	0.644	0.223	8.263	0.022	0.049	0.004	0.036	0.002	0.069
16	D0118	SD24	調片	129816	21.779	59.778	3.543	5.546	0.642	0.225	8.116	0.022	0.048	0.004	0.037	0.002	0.075
17	D0114	SD24	調片	129817	21.921	59.78	3.617	5.435	0.631	0.211	8.112	0.021	0.048	0.004	0.035	0.002	0.076
18	D0123	SD24	調片	129818	21.908	59.646	3.528	5.584	0.63	0.217	8.276	0.021	0.049	0.004	0.037	0.002	0.075
19	D0123	SD24	石核	129819	21.985	59.029	3.379	6.201	0.781	0.204	8.677	0.021	0.05	0.004	0.037	0.002	0.068
20	D0133	SD24	調片	129820	21.973	59.649	3.617	5.45	0.631	0.222	8.274	0.022	0.049	0.004	0.036	0.002	0.074
21	D0133	SD24	調片	129821	21.818	59.712	3.596	5.477	0.646	0.223	8.348	0.021	0.048	0.004	0.036	0.001	0.07
22	D108	SD24	調片	129822	21.797	59.891	3.574	5.303	0.641	0.211	8.169	0.021	0.048	0.004	0.036	0.002	0.069
23	D108	SD24	調片	129823	21.679	59.482	3.59	5.742	0.656	0.227	8.621	0.022	0.049	0.004	0.036	0.002	0.072
24	D108	SD24	調片	129824	21.857	59.668	3.55	5.548	0.641	0.213	8.315	0.021	0.048	0.003	0.035	0.002	0.073
25	D006	SD24	調片	129825	21.985	59.871	3.495	5.354	0.626	0.211	8.125	0.022	0.049	0.004	0.036	0.002	0.071
26	D006	SD24	調片	129826	21.363	61.349	3.627	4.985	0.654	0.178	6.344	0.021	0.047	0.004	0.034	0.002	0.074
27	D006	SD24	石核	129827	21.885	59.695	3.548	5.481	0.623	0.228	8.301	0.022	0.05	0.004	0.037	0.002	0.065
28	D006	SD24	調片	129828	21.874	59.801	3.543	5.489	0.611	0.236	8.18	0.021	0.048	0.004	0.036	0.002	0.066
29	D0134	SD24	石核	129829	21.922	59.618	3.584	5.565	0.637	0.212	8.29	0.021	0.048	0.004	0.036	0.002	0.062
30	D0134	SD24	調片	129830	21.685	59.712	3.624	5.504	0.639	0.229	8.442	0.022	0.05	0.004	0.037	0.002	0.076

第16表 分析結果(化合物濃度の相対含有百分率(wt%))

番号	注記番号	遺構	器種	分析番号	元素比									
					K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
1	D0091	S026	調片	129801	0.441	0.212	0.079	4.441	0.305	0.068	1.176	0.031	0.024	0.178
2	D0117	S026	調片	129802	0.443	0.216	0.076	4.469	0.276	0.07	1.162	0.018	0.024	0.182
3	D0089	S026	調片	129803	0.455	0.217	0.08	4.506	0.306	0.081	1.165	0.025	0.024	0.184
4	D0089	S026	調片	129804	0.449	0.212	0.085	4.563	0.296	0.089	1.173	0.012	0.023	0.175
5	D0134	S026	調片	129805	0.437	0.216	0.084	4.522	0.299	0.085	1.193	0.02	0.023	0.178
6	D0082	S026	調片	129806	0.447	0.218	0.083	4.516	0.297	0.085	1.155	0.026	0.023	0.178
7	D0086	S026	石核	129807	0.45	0.222	0.078	4.444	0.29	0.077	1.184	0.037	0.024	0.185
8	D0116	S026	調片	129808	0.438	0.217	0.081	4.456	0.301	0.08	1.15	0.021	0.024	0.181
9	D0115	S026	石核	129809	0.458	0.221	0.075	4.426	0.292	0.083	1.151	0.025	0.025	0.181
10	D0099	S026	調片	129810	0.491	0.22	0.074	4.385	0.288	0.087	1.162	0.026	0.024	0.183
11	D0095	S026	調片	129811	0.441	0.215	0.075	4.508	0.293	0.096	1.18	0.012	0.023	0.178
12	D0065	S026	石核	129812	0.44	0.224	0.079	4.518	0.306	0.082	1.165	0.021	0.024	0.179
13	D0040	S026	石核	129813	0.435	0.247	0.059	3.581	0.314	0.058	1.035	0.02	0.02	0.184
14	D0442	S026	石核	129814	0.43	0.248	0.06	3.598	0.31	0.055	0.998	0.046	0.02	0.177
15	D074	S026	調片	129815	0.445	0.22	0.079	4.472	0.291	0.089	1.164	0.011	0.024	0.18
16	D0118	S026	調片	129816	0.445	0.224	0.079	4.46	0.313	0.082	1.149	0.018	0.024	0.181
17	D0114	S026	調片	129817	0.45	0.217	0.078	4.429	0.309	0.082	1.158	0.011	0.024	0.183
18	D0123	S026	調片	129818	0.432	0.217	0.078	4.527	0.292	0.088	1.172	0	0.025	0.175
19	D0123	S026	石核	129819	0.367	0.242	0.075	4.685	0.276	0.069	1.171	0.051	0.017	0.151
20	D0133	S026	調片	129820	0.453	0.215	0.082	4.533	0.309	0.078	1.164	0.015	0.024	0.18
21	D0133	S026	調片	129821	0.449	0.219	0.078	4.541	0.282	0.092	1.17	0.022	0.024	0.179
22	D0108	S026	調片	129822	0.453	0.219	0.079	4.574	0.284	0.083	1.196	0.013	0.024	0.183
23	D0108	S026	調片	129823	0.439	0.256	0.076	4.703	0.274	0.079	1.157	0.01	0.024	0.173
24	D0108	S026	調片	129824	0.434	0.256	0.082	4.685	0.301	0.074	1.178	0.027	0.023	0.176
25	D0095	S026	調片	129825	0.435	0.221	0.084	4.6	0.303	0.087	1.197	0.019	0.024	0.186
26	D0095	S026	調片	129826	0.508	0.255	0.055	3.512	0.343	0.051	1.156	0.027	0.021	0.209
27	D0095	S026	石核	129827	0.448	0.217	0.082	4.584	0.3	0.082	1.19	0.013	0.023	0.18
28	D0095	S026	調片	129828	0.443	0.21	0.083	4.487	0.292	0.085	1.183	0.004	0.024	0.181
29	108	S026	石核	129829	0.438	0.219	0.08	4.53	0.295	0.083	1.183	0.029	0.023	0.176
30	D0134	S026	調片	129830	0.449	0.217	0.061	4.553	0.286	0.086	1.182	0.025	0.023	0.179

JG-1 標準試料 -Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T. & Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

第 17 表 分析結果(元素比)

参考文献

- 東村武信(1976) 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9, 77-90.
- 東村武信(1980) 考古学と物理化学, 212p. 学生社。東京
- 葦科哲男(2015) 安山岩製石針の石材産地同定。常松哲夫遺跡 I 一般国道 9 号(鳥取西道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書, 18, 192-203. 鳥取県教育委員会。
- 葦科哲男・東村武信(1975) 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学, 8, 61-69.
- 葦科哲男・東村武信(1983) 石器原料の産地分析。考古学と自然科学, 16, 59-89.
- 葦科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977) 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(III)。考古学と自然科学, 10, 53-81.
- 葦科哲男・東村武信・鎌木義昌(1978) 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(IV)。考古学と自然科学, 11, 33-47.

渡辺正巳(文化財調査コンサルタント株式会社)

第6章 総括

第1節 北野遺跡、鎌野西遺跡の遺構の変遷

1 繩文時代晚期～弥生時代前期前半

北野遺跡で自然河川 SR01 が形成される。鎌野西遺跡北端部の SD202・203、SX201 も北野遺跡 SR01 に連続する自然河川の可能性がある。北野遺跡では SR01 の両岸に水田 SN01 が設けられる。SN01 は SR01 に近いほど標高が低いため、調査地外の東・西に SN01 への導水施設が存在したと推測される。近隣に集落があるとすれば、導水施設よりもさらに標高の高い位置になるだろう。

2 弥生時代前期後半

北野遺跡 SR01 埋没後に SD07・09・13 などの溝群が形成される。溝群のなかでも比較的規模の大きな溝、北野遺跡 SD07 は南西から北東方向に流下する。北野遺跡のやや小規模な溝 SD17・08～11・13・14 は SD07 から分岐、又は SD07 へ合流しており、当該地域周辺では SD07 が中心的な溝とみられる。これらの溝群は、水田への導水などを目的とした水路群と考えられるが、調査地内では同時期の水田は確認されていない。やや南に離れるが、鎌野西遺跡 SD001・002 も同様の水路だろう。

北野遺跡の北側では、自然河川 SR04 と、SR04 に流れ込む溝 SD24～26 が形成される。SD24 からは廃棄されたとみられる多量の土器や石器が出土しており、近隣での居住域の存在が推測されるが、調査地内で竪穴建物などは確認されていない。また、当該期の居住域には環濠を巡らせる例が多いが（註1）、SR04 や SD24～26 が環濠を構成するとは考えにくい。調査地外のより標高の高い場所に居住域が存在するとみたい。

3 弥生時代後期

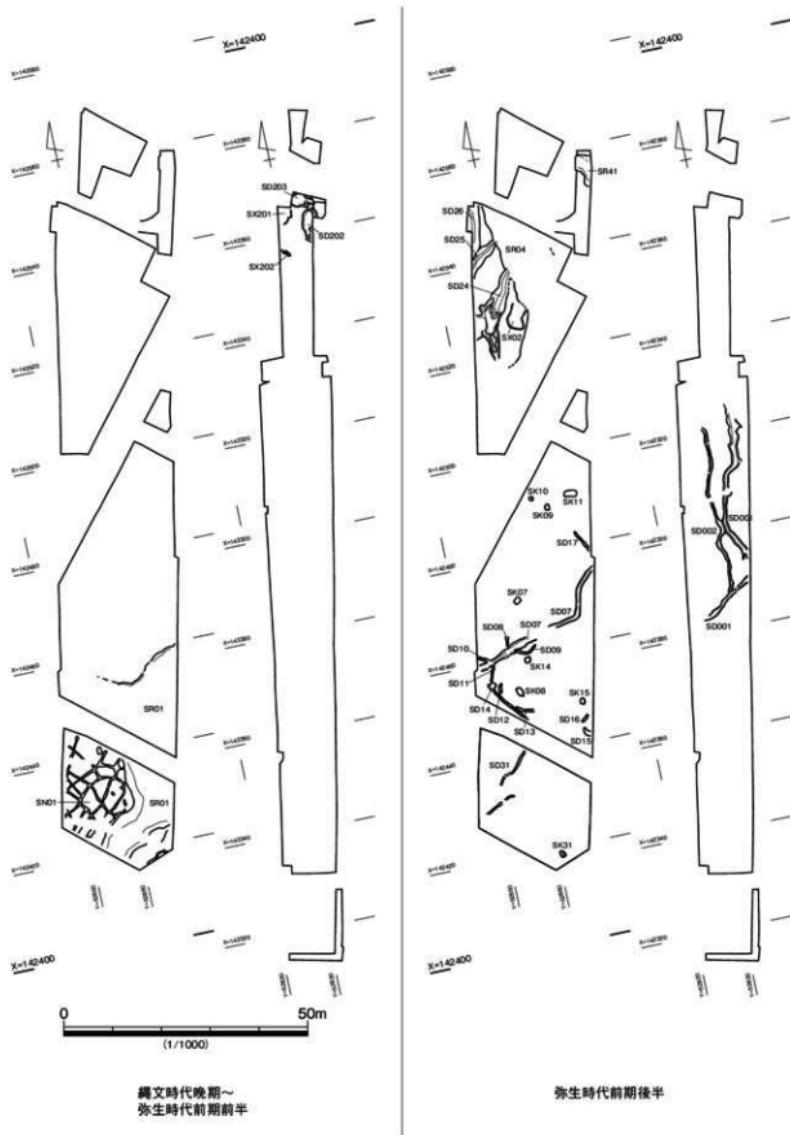
北野遺跡 SR04 は引き続き自然河川として機能する。周辺の等高線に沿う方向で北野遺跡 SD05 や鎌野西遺跡 SD201・003・007 などが流れる。鎌野西遺跡南部の SD102～106 の時期は不明だが、当該時期の可能性がある。

4 古墳時代～古代

古墳時代後期までは北野遺跡の自然河川 SR04 は機能し、古代のどこかの段階で塞み状になっている可能性がある。それ以外の遺構は希薄である。

5 中世

北野遺跡の自然河川 SR04 は埋没し、その最上層には塞み状に SR03 が形成される。SR03 は水田として利用され、左岸際には水田への導水路と推測される SD19 が設けられる。SD18 などは SD19 から分岐した溝だろう。

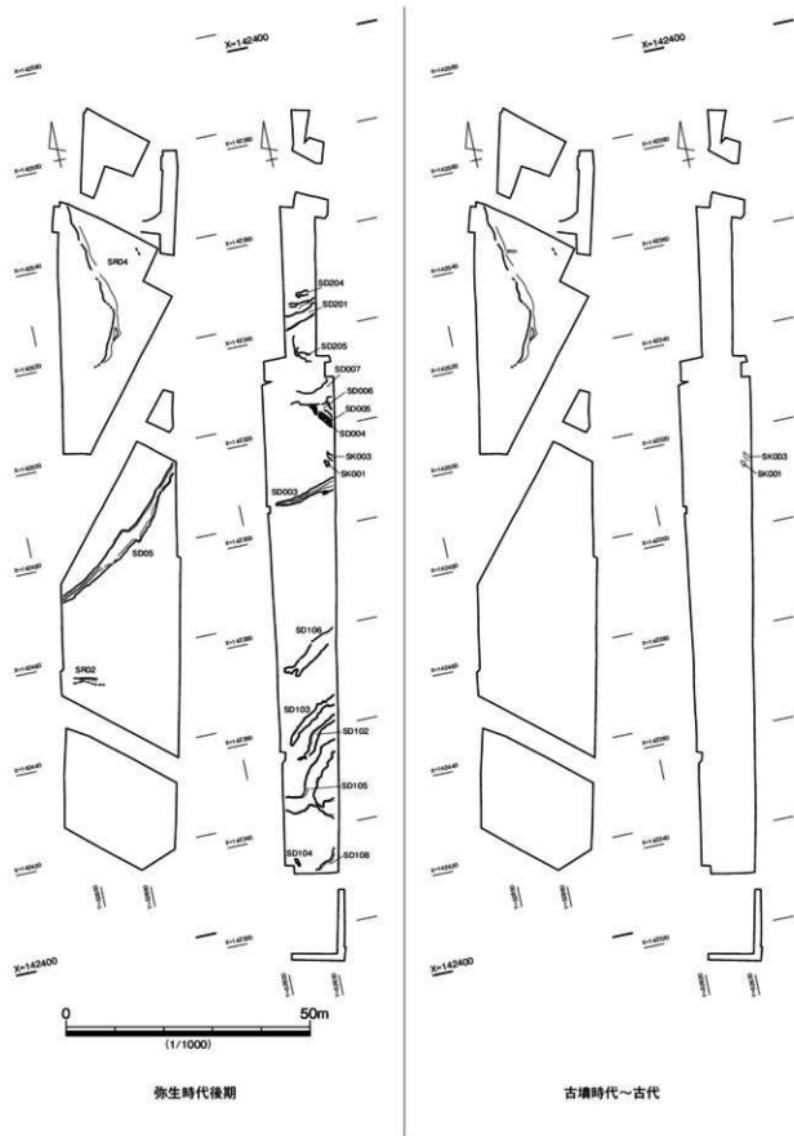


縄文時代晚期～
弥生時代前期前半

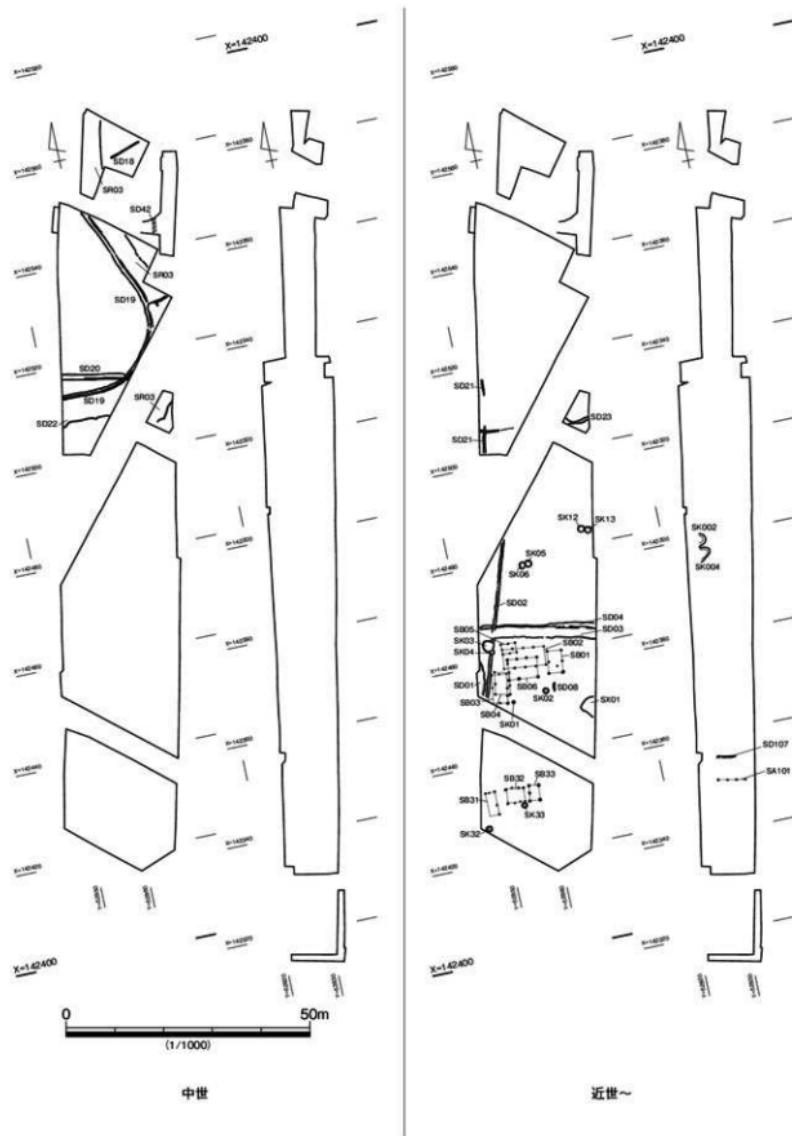
弥生時代前期後半

第105図 北野遺跡・鎌野西遺跡

時期別遺構配置図（縄文時代晩期～弥生時代前期前半・弥生時代前期後半）



第106図 北野遺跡・鎌野西遺跡 時期別遺構配置図（弥生時代後期・古墳時代～古代）



第107図 北野遺跡・鎌野西遺跡 時期別造構配置図（中世・近世以降）

6 近世

北野遺跡南部では、東西方向の石組の溝の南側に、掘立柱建物 SB01 ~ 06・31 ~ 33 が建てられる。数回の建て替えがあるため、一定期間、この空間が屋敷として機能していたと考えられる。それ以外の場所では、鎌野西遺跡 SA001 を除いて、土坑や溝がわずかに認められる程度である。屋敷地以外は、おそらく田畠として利用されていたと推測される。

註

1 高松平野では、鬼無・藤井遺跡、汲仏遺跡、天満・宮西遺跡で環濠が確認されている。

第2節 北野遺跡水田 SN01 における区画設定と小畦畔の接合形態

1 はじめに

北野遺跡では、自然河川 SR01 の左右両岸で弥生時代前期前半の水田 SN01 が検出された。SR01 左岸で 28 区画（水田ブロック A）、右岸で 1 区画（水田ブロック B）である。水田ブロック A では、平面配置の軸となるような幹線小畦畔（註 1）は認められず、区画の平面形状は四角形を志向しながらも不定形である。基本的に水口をもたないため、各区画へは畦越しに配水されていたことが確実である。水田ブロック A では、SR01 に近づくにしたがって標高が下がるため、SR01 は排水機能を有している。水田ブロック B でも SR01 から取水した痕跡は認められないため、排水は SR01 が担っていたと考えられる。各水田ブロックへの取水は、水田よりも標高の高い場所、すなわち水田ブロック A では調査地外の西方、水田ブロック B では調査地外の東方に推測される水路に求められる。

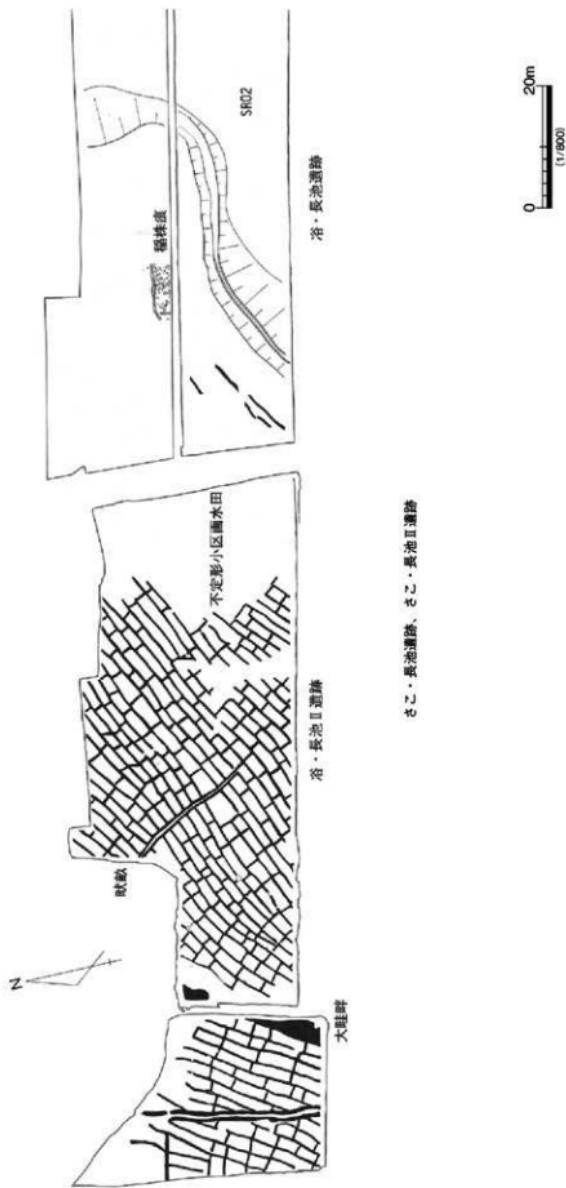
本節では、北野遺跡 SN01 について、香川県内で確認された弥生時代前期の水田のうち、小畦畔や区画の形状がある程度判明した事例と比較したい。

2 香川県内における弥生時代前期の水田

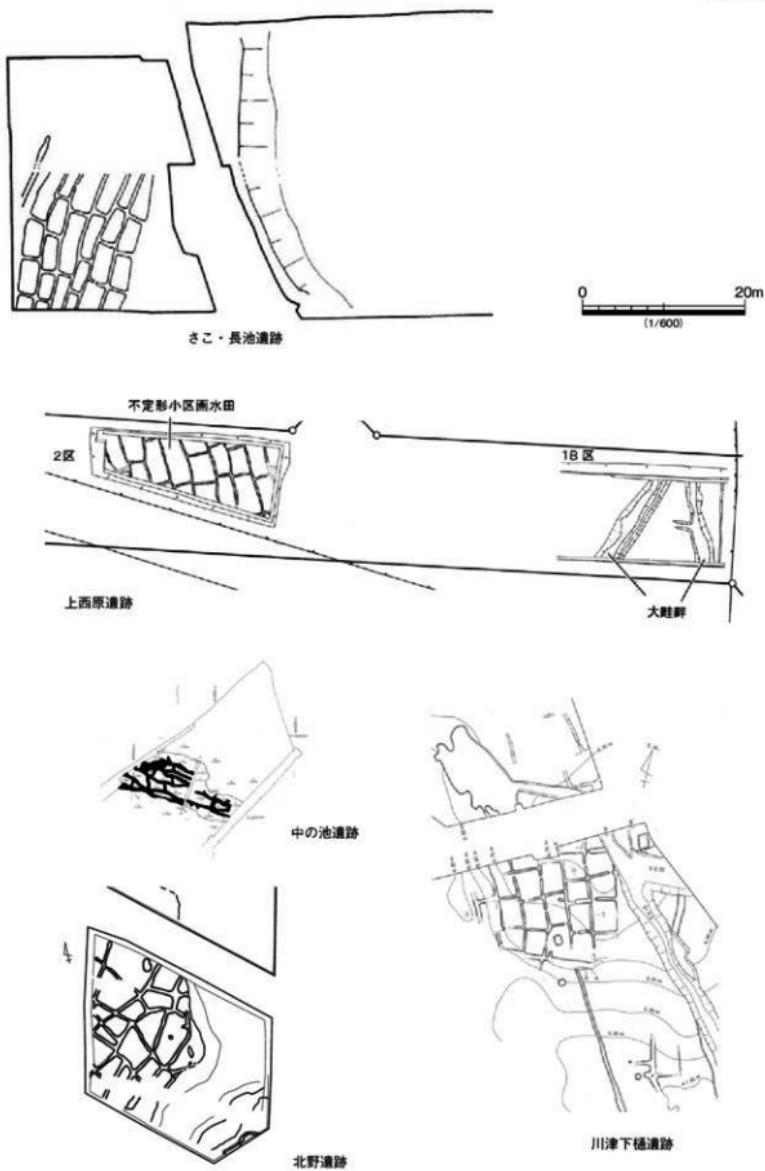
さこ・長池Ⅱ遺跡及び、隣接するさこ・長池遺跡（高松市）1・3 区では、自然河川 SR02 の後背湿地に水田が形成されている。水田面直上の洪沢砂層からは中期中葉の弥生土器が出土し、水田面を破壊して掘り込まれる土坑は前期末～中期初頭である。よって水田の時期は弥生時代前期後半としておきたい。さこ・長池Ⅱ遺跡、さこ・長池遺跡 1・3 区の水田は、等高線に直交して幹線小畦畔が築かれ、幹線小畦畔に直交する支線小畦畔で区画が設けられている。水口は基本的には認められないため、各区画への配水は畦越しであったようだ。区画内にある小規模な溝は導水を目的とするものではない。大畦畔も構築されている。

さこ・長池遺跡 2・4 区の自然河川 SR01 西岸の窪み（後背湿地か）に立地する水田は、直上の洪沢砂層が前期末の弥生土器を含むため、前期後半と考えられる。幹線小畦畔は等高線に直交し、幹線小畦畔間は支線小畦畔で区切られる。各区画は長方形に近い平面形となっている。水口は認められない。

上西原遺跡（高松市）における区画の幹線小畦畔は等高線に直交し、幹線小畦畔間に支線小畦畔が設置される。区画平面形は幹線小畦畔に沿って長方形状を呈する。区画から約 40m 離れて大畦畔と溝が確認されており、報告書では大畦畔付近にも区画が存在していた可能性が示唆されている。区画直上層と大畦畔直上層は同一（細疊層）で、大畦畔直上から弥生時代前期前半の突帯文系土器が出土している。



第108図 水生時代前期の水田 1



第109図 弥生時代前期の水田 2

図化はされていないが、報告書によれば前期の弥生土器も出土しているという。よって、上西原遺跡の水田を弥生時代前期前半としておく。

川津下橋遺跡（坂出市）の水田SZ01においても、幹線小畦畔は等高線に直交し、その間に支線小畦畔が設けられる。各区画の平面形は正方形に近い長方形である。区画群は3辺を大畦畔で囲まれる。各区画には水口があり、配水は畦越しではなかったようだ。出土遺物と遺構の先後関係からは、水田SZ01の時期について、縄文時代晚期後半～弥生時代中期中葉と時期幅をもたざるをえないが、報告書では弥生時代前期と強調している。前期と強調する根拠は、同一調査地内の自然河川SR01の井堰2（弥生時代前期後半）から取水する溝SD19が水田を破壊している点と推測される。この点を首肯し、本報告書でもSZ01をSR01井堰と同時期の弥生時代前期後半とする。

中の池遺跡（丸亀市）11次第4調査区B・C区第3遺構面下層水田は、自然河川最終堆積時の浅谷に形成されている。各区画の平面形がいびつながらも、等高線に直交する幹線小畦畔が支線小畦畔で区切られる。この水田と同時期とされる9次調査下層水田の作土層や被覆層からは弥生時代前期の土器底部が出土している。このため、11次調査下層水田については弥生時代前期と考えられる。

以上の5例では区画設定と小畦畔接合形状が共通する。等高線に直交して幹線小畦畔を設け、幹線小畦畔間を支線小畦畔で区切るかたちである。各区画は幹線小畦畔に沿う方向に長辺をもつ長方形に近い平面形となり、畦畔の交差部は「T」字状を呈する。こうした小畦畔接合形態は、江浦洋による分類ではB-2類に該当する。江浦は、B-2類の特徴として「非常に緩やかな斜面地形の部分に多い」点、「基本的には幹線畦畔に沿った直線的な配水を基本とするが、支線畦畔を互い違いにすることによって結果的に周囲すべての水田と接することとなり、多方向への配水が可能になっている」点を挙げている（江浦 1991,pp.9-10）。香川県内の弥生時代前期の水田はB-2類が基本的な小畦畔接合形態接合で、水田が独立するのは自然河川の後背湿地など緩い斜面地形である（註2）。

3 北野遺跡の小畦畔接合形態

北野遺跡SN01は、等高線に直交する幹線小畦畔が明瞭ではなく、小畦畔の接合部分も「十」形や「Y」形を呈し、B-2類とは言い切れない。この理由として水田が形成された場所の地点の傾斜の差、又は自然河川の屈曲部に接する点が考えられる。これらについて順に検討したい。

北野遺跡SN01の区画1と区画20の距離と標高差は15mで約0.1mである。川津下橋遺跡SZ01では15mで約0.13mの標高差、さこ・長池Ⅱ遺跡では15mで0.1m前後の標高差であるため、北野遺跡SN01が川津下橋遺跡やさこ・長池Ⅱ遺跡と比べて特に急な勾配を有するわけではなく、不定形な区画の理由を傾斜の差に求めることは難しい。

北野遺跡SN01は、SN01機能後の流路であるSR01河道3によって多少は破壊されていると考えられる。ただし、SN01と同時期に機能していたSR01河道2が検出時とさほど変わらない流路形状であれば、破壊された面積はわずかであろう。こうした前提に立った場合、区画19～28の北東・南西方向の小畦畔はSR01の屈曲に影響を受けているようにみえる。各区画の標高から推測した取排水経路を矢印で示すと、取排水は北→南への直線的な経路を基本とすることがわかる（第19図）。さらに、標高の高い位置にある区画1～7・10～13の北西・南東方向の小畦畔は直線的に見えなくもない。調査地外の標高の高い西方では等高線に直交する幹線小畦畔を有するB-2類が検出される可能性もある。以上の検討を踏まえて、SN01の検出範囲でB-2類型の小畦畔が認められないのは、近接するSR01の屈曲形

B-1類	B-2類	B-3類	B-4類	B-5類
畦畔の接合	直線的な畦畔小耕畔と支離小耕畔が斜方状に組み交するもの。前後の接合部分は三叉状の「丁」形を呈する。	複数小耕畔が直線的で丁字に交叉する支離小耕畔をアミダクジ形に配置するもの。前後の接合部分は三叉状の「丁」形を呈する。	複数小耕畔の一板に直角形を設け、その部分を支離小耕畔によってつなぐもの。前後の接合部分は三叉状の「Y」形を呈する。	斜線小耕畔を直線的にジグザグに配置し、その曲部を支離小耕畔でつなぐもの。前後の接合部分は三叉状の「Y」形を呈する。
水田配水型	正方形あるいは長方形の小区画水田を整列と配列した形態を呈する。	正方形もしくは長方形の小区画水田を整列して配置する。小区画水田を整列と配列するものが多いため。	正方形あるいは長方形の小区画水田を直列の2角を凸として菱形六角形の小区画水田が連続する。	直列六角形の小区画水田を直列六角形の小区画水田が連続する。直列の大耕畔との接合部分は五角形を呈する。
配水等	複数小耕畔に平行する直線的な灌漑路筋線上に水平配水型 → 斜面配水型	基本的に複数の小耕畔に平行する直線的な灌漑路筋線上に水平配水型 → 斜面配水型	直列六角形の小区画水田を直列六角形の小区画水田へ配水可能。周囲すべての水田と均等に接することで多方向への配水が可能。→ 直列・対角配水型	複数の小区画水田へ配水可能。周囲すべての水田へ均等に接することで多方向への配水が可能。→ 多方向配水型
立地	起伏の少ない平野部、礁盆地の平坦部分に多い。	起伏の少ない平野部、礁盆地の平坦部分に多い。	礁盆地の末端部分の小さな若干の起伏のある斜面。	礁盆地の大きな礁高地や谷部などの起伏地帯を有する斜面。
類例	毛島・舊万寺遺跡弥生時代後期水田群A-Bブロック、船岡遺跡弥生時代前期水田群、追幡田小川城遺跡古墳時代中期水田群	毛島・福万寺遺跡弥生時代後期水田群E-ブロック、田村遺跡弥生時代前期水田群、浅町遺跡弥生時代前期水田群	毛島・福万寺遺跡弥生時代後期水田群K-ブロック、百町遺跡弥生時代後期水田群一帯、垂穂遺跡弥生時代中前期水田群一帯	友井東遺跡古墳時代後期水田群、細賀遺跡水田、小川城遺跡古墳時代前期水田群一帯、水象遺跡古墳時代中期水田の一部
評価	複数小耕畔、支離小耕畔とともに直線的で、省力での水田造成と省作が可能。ただし地形的に直線的な灌漑路筋上に配置する必要があり、地形に制約される。灌漑で起伏の大きい地形には不適。	B-1類同様に灌漑は直線的で、しかも配水方法も簡単で省力での水田造成および灌漑が可能。ただし、水平配水筋を直線でつなぐ場合がある。複数で起伏の大きい地形には不適。	直列六角形を形成することで直線的な灌漑路筋上にあっても負担省力が必要であるが、田団ブロックへの接続さえ確保されれば、小区画水田は、あらゆる灌漑路筋に配水が可能。起伏の大きな複数の灌漑路筋においても水田造成が可能となる。複数の灌漑路筋が並ぶ場合にも対応可能。	水田造成時に省力が必要であるが、田団ブロックへの接続さえ確保されれば、小区画水田は、あらゆる灌漑路筋に配水が可能。起伏の大きな複数の灌漑路筋においても水田造成が可能となる。複数の灌漑路筋が並ぶ場合にも対応可能。
モデル				

※江浦(2014)から引用

第110図 畦畔の接合形態による小区画水田の分類

状に影響を受けているためと考えたい。

註

- 幹線小畦畔などの用語は江浦(2014)に基づく。
- 弘福寺田園図北地区C区の水田については、遺物と層位からは弥生時代後期以前としか判断できないが、B-2類の畦畔接合形態から弥生時代前期と報告されている。しかし、香川県内の弥生時代中～後期の水田検出例はわずかで、B-2類が前期に限られるかは不明である。よって、現状では区画形状のみを根拠に弘福寺田園図北地区C区水田の時期を前期に限定するのは難しい。なお、江浦(2014)ではB-2類の例として池島・福万寺遺跡(大阪府東大阪市・八尾市)の弥生時代後期水田が挙げられている。

参考文献

江浦 洋 1991 「弥生時代水田の総合的理解のための基礎作業」『大阪文化財研究』2pp.1-10

江浦 洋 2014 「古墳出現期の農業基盤－水田造或技術の変革と畠の出現と展開－」『弥生文化博物館研究報告』7pp.1-18

第3節 北野遺跡における石庖丁の搬入状況

1はじめに

北野遺跡では弥生時代前期の石庖丁が8点出土している（註1）。当該期の高松平野中央部ではもともと出土量が多い。また、2000年以降、鴨部・川田遺跡（さぬき市）、中の池遺跡（丸亀市）といった香川県内の当該期の良好な資料を有する遺跡の報告書が刊行され、香川県内の資料も蓄積されてきた。本節では、こうした資料と併せて、北野遺跡や高松平野の弥生時代前期の石庖丁を位置付けておきたい。

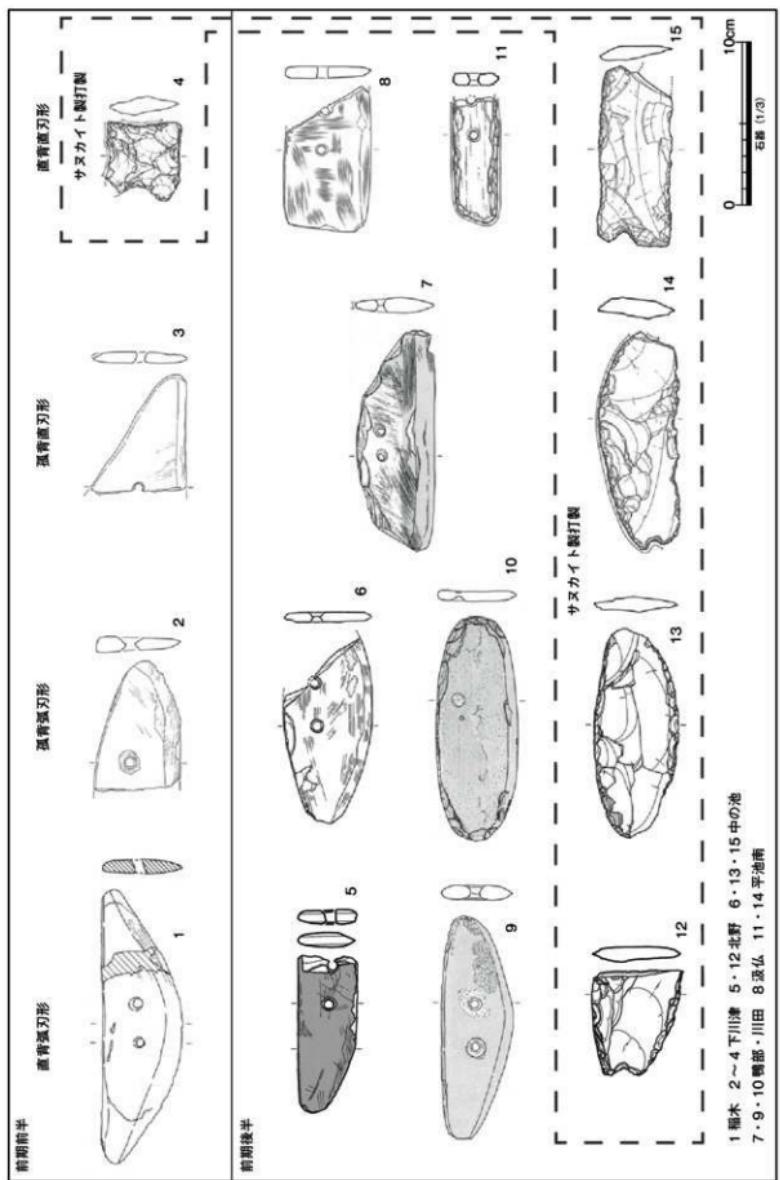
2出現期の状況

瀬戸内における磨製石庖丁の編年で示されたように（森下 1995,p.14）、香川県内で最初期に位置付けられる磨製石庖丁は、弥生時代前期前半（前期 I-a 期～I-c 期）の下川津遺跡第2低地帯流路 1Ⅷ層出土資料である（註2）。背部が直線的で刃部が湾曲する直背弧刃形、背部刃部とともに湾曲する孤背弧刃形、背部が湾曲し刃部が直線をなす孤背直刃形（註3）と、3点とも形状が異なる。石材も結晶片岩や安山岩などと統一されていない。また、同層には金山産サヌカイト製打製石庖丁が2点伴う。金山産サヌカイト製の打製石庖丁は、「長さ 10～15cm、幅 3～6cm ほどの横長剥片の両側縁に抉りを入れ、背部を敲打して潰し、下縁部に調整加工を施すもの」（森下 1998,p.340）を典型とし、長さ、幅が前後するものや抉りをもたないものもある。同層出土のサヌカイト製打製石庖丁2点は、完形品ではないものの、背部への敲打と刃部加工、抉りを備える（註4）。石庖丁出現の時点において、磨製石庖丁は複数の石材が用いられる「多型式併存型」（下條 2002,p.360）で、さらに金山産サヌカイト製の打製石庖丁も伴う。

3前期後半の展開

前期後半になると、遺跡数の増加に連動して石庖丁の出土数も増える。北野遺跡の石庖丁が出土した遺構もこの時期に該当する。また、各地で環濠集落が形成され、環濠部分を含む比較的広い面積が調査された鴨部・川田遺跡や中の池遺跡では、多量の弥生土器とともに石庖丁が確認されている。

鴨部・川田遺跡では、遺跡から 2.5km の近傍を產出地とする流紋岩製の石庖丁未成品、素材と推測される剥片などが出土しており、集落内における流紋岩製石庖丁の製作は確実である。「原石採取・運搬」「粗削」「整形」「研磨・穿孔」の4工程（森 1997,p.207）のうち、遺跡内では「粗削」以後の工程を担っている。なお、「研磨・穿孔」工程にあたる資料の観察によれば、鴨部・川田遺跡では刃付けまで完了した研磨の後に穿孔が行われ、穿孔方法は回転穿孔法である（註5）。秋山・仲原（1998・1999）に示された製作工程の用語を用いれば、鴨部・川田遺跡における流紋岩製石庖丁の製作工程は次のように復元できる。（素材獲得）→粗削→剥離整形→研磨（体部粗研磨→刃付け再研磨）→穿孔（回転穿孔法）→完成品。また、流紋岩製の石庖丁の形状は、直背弧刃形、孤背弧刃形、孤背直刃形、直背直刃形と、限定されない。全面が丁寧に研磨される石庖丁がある一方、研磨が刃部や背部にとどまるものも少なくない。同一集落で製作されている同一石材の石庖丁でもその完成形はさまざまであり、必ずしも石材と形状が結びついているわけではない。他の遺跡も含めた安山岩製や結晶片岩製の磨製石庖丁も形状には幅があり、「磨製石庖丁の範型から離脱しつつある」（森下 2002,p.148）のが前期後半の実態であろう。ただし、粘板岩とみられる黒色の堆積岩系の石材や、泥岩などを石材とする磨製石庖丁は全面に丁寧な



第111図 弥生時代前期の石砲丁

研磨が施される傾向にある。これらの石材産地は不明だが、同石材産の石庵丁は離れた場所から持ち込まれている可能性もある。

鴨部・川田遺跡に限らず、磨製石庵丁の背部は、研磨で丸みを帯びた形状に整える、または研磨で平坦に仕上げることを基本とする。打製石庵丁の一部には、背部に自然面や切断した面を配するものがあり、こうしたケースは磨製石庵丁の背部の仕上げとの関連を想起させる。また、サスカイト製打製石庵丁のなかには明らかに直背弧刃形、弧背弧刃形、弧背直刃形に仕上げられたものがあり、これらは磨製石庵丁の平面形を意識して整形されたと推測される。

当該期には、前期前半にみられた磨製石庵丁の規範が弛緩していることに加えて、サスカイト製打製石庵丁の形状にも幅がある。磨製石庵丁、打製石庵丁それぞれにおいて、前期前半には維持されていた規範を緩やかに逸脱し、各要素が少しづつ混ざり合っているのが前期後半のあり方なのだろう。

4 高松平野へのサスカイト製打製石庵丁の流入

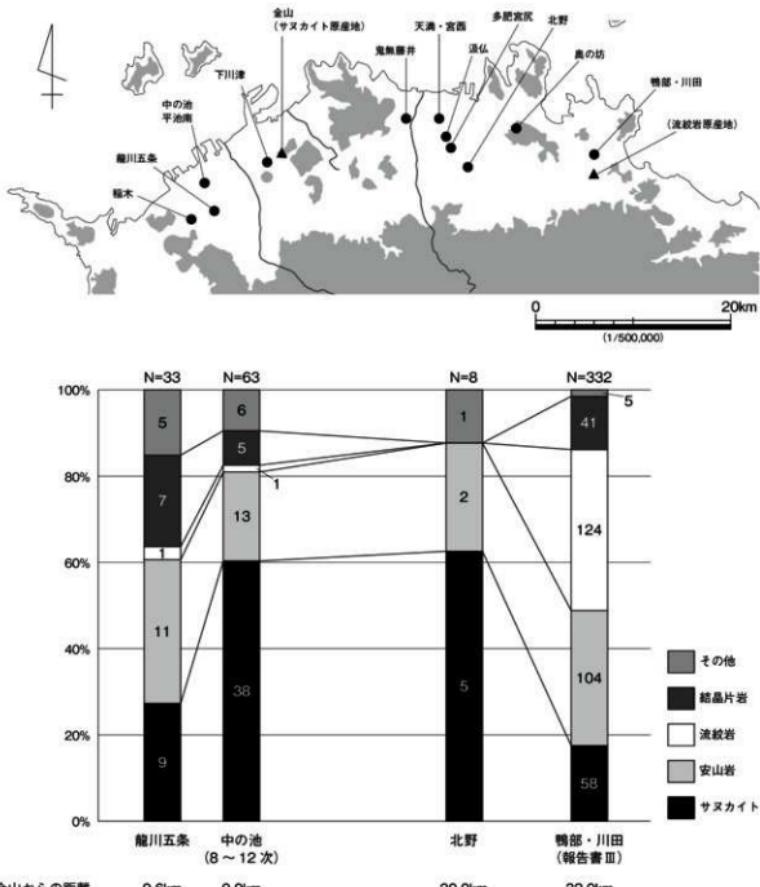
第112図には龍川五条遺跡（善通寺市）、中の池遺跡（丸亀市）、北野遺跡、鴨部・川田遺跡の石庵丁石材比率を示した。遺跡はいずれも弥生時代前期後半を中心とする。石材は、サスカイト、安山岩、流紋岩、結晶片岩、その他に分類した。当該期の石器に用いられるサスカイトは金山（板出市）産とみられている。安山岩、流紋岩は香川県内でも産出し、特に黄白色の流紋岩は鴨部・川田遺跡の近隣に産地が推測されている。安山岩に分類した石材の様相はさまざまであり、流紋岩に分類される可能性のある石材も含めた。結晶片岩は、讃岐山脈の南側、徳島県域の吉野川流域に由来するとみられる。その他の石材には砂岩なども含むが、泥岩や粘板岩とみられる堆積岩が比較的多い。

丸亀平野に位置する龍川五条遺跡では、サスカイトが27.3%、安山岩が33.3%、流紋岩が3.0%（註6）、結晶片岩が21.2%、その他が15.2%である。サスカイト、安山岩、結晶片岩の3石材は21～34%の間に収まる。同じく丸亀平野にある中の池遺跡では、サスカイト製の石庵丁が60.3%と他の石材に比べて多い。安山岩がそれに続くが、占める割合は20.6%である。流紋岩は1.6%、結晶片岩は7.9%、その他は9.5%と比率はさらに下がる。高松平野中央部の北野遺跡では、サスカイトが62.5%と6割以上を占めている。残りは安山岩とその他が25.0%、12.5%となっている。鴨部・川田遺跡では、サスカイトが17.5%と他遺跡に比べて比率が低いのに対して、安山岩31.3%、流紋岩37.3%と両者で7割近くを占める。結晶片岩は12.3%、その他は2.0%である。

この4遺跡のグラフから読み取れるのはサスカイトが占める割合の差である。金山から直線距離で約320kmと4遺跡ではもっとも離れている鴨部・川田遺跡におけるサスカイトの低比率は、金山との距離で説明できそうである。加えて、鴨部・川田遺跡では流紋岩のほかにも安山岩の産出地も近傍にあると考えられており（森下2002.p.147）、流紋岩や安山岩の入手が容易という理由もあるだろう。しかし、丸亀平野内の近い位置にあり、金山からの直線距離が約0.6kmしか変わらない龍川五条遺跡と中の池遺跡でのサスカイトの占有率の差は、金山との地理的な関係では説明できない。金山から20.0km離れた北野遺跡でのサスカイトの比率が、同9.6kmの龍川五条遺跡を大きく上回る点についても同様である。サスカイトの占有率の差の背景には、次の3点の可能性が考えられる。①龍川五条遺跡近傍でのサスカイト以外の石材産出地の存在と同石材による石庵丁製作、②龍川五条遺跡へのサスカイト以外の石庵丁を主とした流入ルートの存在、③北野遺跡へのサスカイトを主とした流入ルートの存在、である。

龍川五条遺跡では、石庵丁の製作を粗削から整形まで行っている痕跡は認められず、①の可能性は否

定される。龍川五条遺跡では、基本的には完成形または完成形に近い状態の石庖丁を持ち込んでいるとみられ、その比率が中の池遺跡や北野遺跡に比べて高いといえる。この点では②の可能性は首肯しうる。同じ丸亀平野の中の池遺跡でも粗削から整形までの複数工程を行っているとは考えられず、やはり石庖丁は基本的に完成品かそれに近い状態の搬入品である。龍川五条遺跡と中の池遺跡では、さほど離れていないにもかかわらず搬入される石材比率が異なっているため、平野単位ではなく集落ごとに石材流入ルートが異なっていた可能性がある。高松平野の北野遺跡では、石庖丁以外のサヌカイト製石器の出土量も多い。石核および、微細、または小さな剥片も目立ち、集落内での石器製作の蓋然性は高い。ただし、サヌカイト製石庖丁の素材となる横長剥片の獲得に適した直接打法は低調とみられるため（註7）、



第112図 関連遺跡位置図・石庖丁石材比率グラフ

石器生産は主に石鎚や石錐などの小型石器を目的としたものだろう。石庖丁については素材の横長剥片、または完成品に近い状態で持ち込んでいたと考えられる。これらがサスカイト製の小型石器素材や剥片とともに流通していたのであれば、北野遺跡でのサスカイト製石庖丁の比率の高さも説明可能で、③は十分にありうる。

ただ、②・③の可能性を認めて、サスカイト比率の差について、集落ごとの搬入石材ルートの違いとみること以上に踏み込むのは難しい。結局のところ、高松平野や丸亀平野といった金山から約20km圏内であれば、サスカイト製石庖丁を積極的に持ち込むのか、そうでないのかは集落によるとしかいえない。北野遺跡は前者の集落に該当し、丸亀平野を参照すれば、高松平野でもサスカイト製石庖丁の比率の少ない集落が存在する可能性を考慮しておく必要はあるだろう。

註

- 1 北野遺跡から出土している石庖丁は9点である。このうち、SD05出土資料（第3章第22図21）については後期の可能性も否定できないため、本節の分析対象から外した。
- 2 下川津遺跡第2低地帯路第1Ⅴ層は4層に大別可能で、遺物が出土している下層、中層、上層がそれぞれ前期Ia期、同Ib期、同Ic期に該当する（森下・信里1998a,p.37、森下1998b,p.304-316）。石器がどの大別層位から出土しているかは判断できないが、弥生時代前期半に収まることは確実である。
- 3 石庖丁の説明では、背部と刃部の形状に基づく下條（2002）にならう。同文献では大別4分類をA～D型式で表すが、本節では各分類の説明中に使用される「直背弧刃形」（A型式）、「弧背直刃形」（B型式）、「弧背直刃形」（C型式）、「直背弧刃形」（D型式）の表現を用いる。
- 4 下川津遺跡資料が完形品ではない点から、サスカイト製石庖丁の出現期を前期前半とすることに抑制的な見解もある（信里2002,p.9）。本節では、背部加工や刃部加工といったサスカイト製石庖丁の特徴を重視して、本資料を製石庖丁とみる。
- 5 鴨部・川田遺跡の結晶片岩製磨石庖丁には鍛打穿孔法でも一定量認められる。流紋岩で軸穿孔法が主体となるのは、石材加工の容易な点が理由であろう。
- 6 龍川五条遺跡の流紋岩製石庖丁は、石材の特徴や形状から鴨部・川田遺跡で製作された可能性がある。
- 7 正確に量計していないが、微細～小剥片のうち直接打法に伴って発生する剥片はごくわずかである。判断不能なものを除けば、ほとんどは両面打法の剥片である。

参考文献

- 秋山浩三・仲原知之 1998・1999 「近畿における石庖丁生産・流通の再検討（I）一池上曾根遺跡の石庖丁製作工程—」『大阪文化財研究』15・17
下條信行 2002「瀬戸内における石庖丁の型式展開と文化交流」大庭徹夫先生古稀記念論文集刊行会編『大庭徹夫先生古稀記念論文集 四国とその周辺の考古学』大庭徹夫先生古稀記念論文集刊行会,pp.351-374
信里芳紀 2002「讃岐地域における弥生時代前期から中期前半の様相 一集落の検討を中心にしてー」第16回古代学協会四国支部研究大会事務局編『第16回古代学協会四国支部研究大会発表要旨集』古代学協会四国支部,pp.5-38
森 格也 1997「まとめ」財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編『高松東道遺跡建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7号 鴨部・川田遺跡1号』香川県教育委員会ほか,pp.170-240
森下英治 1995「瀬戸内の大陸系磨製石器」「考古学ジャーナル」391,pp.14-18
森下英治 1998「まとめ」財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第29号 龍川五条遺跡』飛野東・分山崎南遺跡 香川県教育委員会ほか,pp.334-355
森下英治 2002「石器の生産と流通」第16回古代学協会四国支部研究大会事務局編『第16回古代学協会四国支部研究大会発表要旨集』古代学協会四国支部,pp.147-162
森下英治・信里芳紀 1998「讃岐地方における弥生土器の基準資料 I 一下川津遺跡出土前期弥生土器を中心にー」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要』6,pp.31-63

発掘調査報告書

- 稲木遺跡：香川県教育委員会編 1989「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第6冊 稲木遺跡」香川県教育委員会太田原高州遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2014「県道太田上町志度線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 太田原高州遺跡1号」香川県教育委員会
奥の坊遺跡：香川県教育委員会編 2006「高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊 奥の坊遺跡群V（奥の坊遺跡I・II区）」高松市教育委員会／高松市教育委員会編 2009「高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告7冊 奥の坊遺跡群VI・VII・X・XI・XII区」高松市教育委員会／高松市教育委員会編 2014「高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第12冊 奥の坊遺跡群VI（奥の坊遺跡III区遺物編）」高松市教育委員会
上西原遺跡：高松市教育委員会編 2000「上西原遺跡 附御仏遺跡 太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊」鴨部・川田遺跡：財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 1997「高松東道遺跡建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊 鴨部・川田遺跡1号」香川県教育委員会ほか／財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 2000「高松東道遺跡建設に伴う埋蔵文化財発掘調

- 査報告第9番 鶴部・川田遺跡Ⅲ」香川県教育委員会ほか／香川県埋蔵文化財調査センター編 2002『高松東道路建設にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書10冊 鶴部・川田遺跡Ⅲ』香川県教育委員会ほか
- 川津下種遺跡：財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第21冊 川津下種遺跡』香川県教育委員会ほか
- 北口遺跡：高松市教育委員会編 2017『大野地区統合保育所用地埋蔵文化財発掘調査報告書 北口遺跡』高松市教育委員会
- 鬼無藤井遺跡：高松市教育委員会編 2001『鬼無藤井遺跡 高松港頭地区再開発開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高松市教育委員会
- 空港跡地遺跡：財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 2002『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊 空港跡地遺跡Ⅴ』香川県教育委員会ほか／財団法人香川県埋蔵文化財センターエンジニアリング 2004『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第8冊 空港跡地遺跡Ⅷ』香川県教育委員会ほか／香川県埋蔵文化財センターエンジニアリング 2007『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊 空港跡地遺跡Ⅸ』香川県教育委員会ほか
- 弘福寺領讃岐国山田郡田岡比定地域：高松市教育委員会編 1992『弘福寺領讃岐国山田郡田岡比定地域発掘調査概要』高松市教育委員会
- 高丸山古墳：香川考古学会編 1994『香川考古1994 高丸山古墳』香川考古刊行会
- 汲仏遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2018『香川県警察本部機動隊舎建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 汲仏遺跡』香川県教育委員会
- さこ・長池遺跡：高松市教育委員会編 1993『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 さこ・長池遺跡』高松市教育委員会
- さこ・長池Ⅱ遺跡：高松市教育委員会編 1994『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊 さこ・長池Ⅱ遺跡』高松市教育委員会
- 下川津遺跡：財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 1990『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ 下川津遺跡』香川県教育委員会ほか
- 龍川五条遺跡：財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第23冊 龍川五条遺跡Ⅰ』香川県教育委員会ほか／財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 1998『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第29冊 龍川五条遺跡Ⅱ 飯野東分山崎南遺跡』香川県教育委員会ほか
- 多肥北原遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2012『県道太田上町志度線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥北原遺跡』香川県教育委員会
- 多肥北原西遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2015『県道太田上町志度線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥北原西遺跡』香川県教育委員会
- 多肥庵寺：多肥郎土史編集委員会編 1981『多肥郷土史』／丹羽祐一・藤井雄三 1988『高松の古代文化』高松市図書館
- 多肥松林遺跡：財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 多肥松林遺跡』香川県教育委員会ほか
- 多肥宮尻遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2018『県道太田上町志度線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥宮尻遺跡』香川県教育委員会
- 天満・宮西遺跡：高松市教育委員会編 2002『天満・宮西遺跡～集落・水田編～ 太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第6冊』高松市教育委員会
- 中の池遺跡：藤好史郎編 1982『中の池遺跡発掘調査概要－香川県丸亀市金倉町所在の弥生時代遺跡の調査－』丸亀市教育委員会／松本考古学研究所編 1998『丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財（中の池遺跡）発掘調査報告（I） 中ノ池遺跡』丸亀市ほか／松本考古学研究所編 2000『丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財（中の池遺跡）発掘調査報告（II） 中ノ池遺跡』丸亀市ほか／丸亀市教育委員会・財团法人元興寺文化財研究所編 2003『中の池遺跡 第8次調査 総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』丸亀市教育委員会／財团法人元興寺文化財研究所編 2004『中の池遺跡第9・10次調査 総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』丸亀市教育委員会／財团法人元興寺文化財研究所編 2005『中の池遺跡第11次 総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』丸亀市教育委員会／財团法人元興寺文化財研究所編 2006『中の池遺跡第一回12次調査 総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』丸亀市教育委員会
- 林・坊城遺跡：財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 1993『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊 林・坊城遺跡』香川県教育委員会ほか／財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 2004『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第53冊 中森遺跡 林・坊城遺跡Ⅱ 東山崎・水田遺跡Ⅱ』香川県教育委員会ほか
- 平池南遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2018『香川県立丸亀競技場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 平池南遺跡』香川県教育委員会
- 三谷石舟古墳：香川県教育委員会編 1983『新編香川叢書』新編香川叢書刊行企画委員会
- 三谷中原遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2019『県道中德三谷高松線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊 三谷中原遺跡』香川県教育委員会ほか
- 横内東遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2012『高松市埋蔵文化財調査報告第144集 三谷コミュニティセンター整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 横内東遺跡』高松市教育委員会

第18表 番川県内出土弥生時代前期石窓一覧

遺跡	所在地	遺構	図番号	器種	材質	石 材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時期	周	完形	備考	文 献
鷲原・川田	さぬき市	A.IK.SD04	14	打鑿	粘土	粘土片岩	不定形	抉り	9.3	4.1	1.0	前期Ⅱ c	/	鷲原・川田遺跡 1		
鷲原・川田	さぬき市	A.IK.SD07	34	92	打鑿	粘土	直管風呂	2+	9.2+	5.2+	0.9	前期Ⅱ b	/	鷲原・川田遺跡 1		
鷲原・川田	さぬき市	A.IK.SP07	44	124	打鑿	粘土	サスカイト	不明	5.3+	4.6+	0.6	前期Ⅱ c	/	鷲原・川田遺跡 1		
鷲原・川田	さぬき市	A.IK.SP05	44	125	打鑿	粘土	直管風呂	抉り	6.5+	4.3	0.9	前期Ⅱ c ?	/	鷲原・川田遺跡 1		
鷲原・川田	さぬき市	A.IK.SR01	57	174	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	6.5+	4.3	0.9	前中期Ⅰ	古代末の遺物が中 心	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	A.IK.包含層	74	276	打鑿	安山岩	直管風呂	抉り	9.0	4.4	1.0	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	完形	鷲原・川田遺跡 1		
鷲原・川田	さぬき市	A.IK.包含層	74	277	打鑿	安山岩	直管風呂	なし	5.4+	4.3+	0.7	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1		
鷲原・川田	さぬき市	A.IK.包含層	74	279	打鑿	安山岩	直管風呂	1+	4.8+	4.2+	0.7	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1		
鷲原・川田	さぬき市	B.IK.SR01	110	114	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	11.5	3.9	0.7	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	完形	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	B.IK.包含層	124	199	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	不明	3.8+	3.8+	1.0	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	B.IK.包含層	124	201	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	6.3+	4.7	0.7	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	B.IK.包含層	124	202	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	6.8+	5.9	1.1	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	B.IK.包含層	124	203	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	1+	6.6	3.0+	0.8	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	B.IK.包含層	124	204	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	1+	5.5+	5.2+	1.0	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	B.IK.包含層	124	205	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	1+	5.9	3.1	1.0	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	B.IK.包含層	124	206	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	不明	3.1+	2.4+	0.6+	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	B.IK.包含層	124	207	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	不明	4.2+	-	-	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	123	794	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	抉り	13.3	4.6	1.0	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	完形	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	234	795	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	9.2+	3.8	0.9	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	234	796	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	11.0+	5.2	0.9	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	234	797	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	9.2+	5.3	1.5	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	234	798	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	8.7+	3.1	1.0	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	234	799	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	7.9+	6.2	1.0	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	245	800	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	不明	7.2	5.5	1.1	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	245	802	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	4.6+	5.5	1.1	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	245	804	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	2	10.5+	4.2+	0.7	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	245	805	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	2+	10.2	4.2	0.9	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	完形	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	245	806	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	2+	8.3+	5.3+	1.0	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	246	807	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	2+	12.8	4.3	1.0	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	完形	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	246	808	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	13.3	4.5	1.2	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	246	809	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	11.9+	6.1	1.5	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	未完成品	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	247	810	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	1+	7.0+	5.8	1.2	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	247	811	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	1+	7.6+	5.6+	0.6	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	247	812	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	4.5+	5.1	1.0	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	247	813	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	5.6+	3.2+	0.4+	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	247	814	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	5.5+	4.1+	0.6+	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	247	815	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	5.0+	4.0+	0.6+	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	247	816	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	4.1+	4.6+	0.7	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	248	821	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	8.6+	5.6	1.3	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	248	822	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	9.9	1.5	0.8	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	完形	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD01	249	825	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	8.8+	7.0+	0.8	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	未完成品	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD03	260	1042	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	4.3+	4.9	0.9	前中期Ⅱ c - 中期Ⅰ	/	鷲原・川田遺跡 1	
鷲原・川田	さぬき市	C.IK.SD03	260	1042	打鑿	粘土	サスカイト	直管風呂	なし	6.7	27	0.6	前中期Ⅱ b	/	鷲原・川田遺跡 1	

道・府	所在地	番号	番号	遊鑿・打製	石 材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時 期	周 形	完 形	備 考
鳴尾・川田	さぬき市	C区SH05	269	1093 游鑿	流紋岩	直管直刃	2	11.5	4.5	0.8	前期 II b	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区SH06	274	1126 游鑿	流紋岩	直管直刃	2+	7.3	4.8	0.8	前期 II a	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区SK06	274	1227 游鑿	流紋岩	不規則	不明	3.6+	3.7+	0.6+	前期 II b	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区SK07	286	1178 游鑿	流紋岩	断片岩片	105+	24+	4.8	0.4+	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	293	1242 打鑿	セスカイト	不規則	不明	8.2+	8.2+	0.8	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	293	1243 打鑿	結晶片岩	直管直刃	なし	8.2	4.6	0.6	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	293	1244 打鑿	セスカイト	直管直刃	不明	12.1+	5.3	1.4	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	293	1245 打鑿	セスカイト	直管直刃	不明	6.0+	5.3+	0.9+	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	293	1246 打鑿	セスカイト	直管直刃	なし	3.3+	4.1	0.8+	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	293	1247 打鑿	セスカイト	直管直刃	なし	5.3+	4.9	1.1	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	293	1248 打鑿	セスカイト	直管直刃	なし	10	10	0.7	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	294	1249 打鑿	セスカイト	直管直刃	不明	5.5+	5.5+	1.1	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	294	1251 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	11.6	5.9	1.5	前期 II c中期 I	不規則	未完成品?	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	294	1252 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	7.1+	5.1	0.9	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	294	1253 游鑿?	流紋岩	直管直刃	扱り	8.1	4.7	1.0	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	294	1254 游鑿	安山岩	直管直刃	不明	6.8+	6.5+	1.0	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	295	1255 游鑿	流紋岩	直管直刃	1+	7.8	5.0+	0.6+	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	295	1256 游鑿	流紋岩	直管直刃	2	9.4	5.7	1.1	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	295	1257 游鑿	流紋岩	直管直刃	2+	9.0+	4.7	0.6	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	295	1258 游鑿	流紋岩	直管直刃	1+	4.5+	4.5+	1.2	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	295	1259 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	6.4+	5.9+	0.8+	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	295	1260 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	1+	3.7+	0.5+	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	296	1262 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	2+	7.9+	4.9	0.9	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I
鳴尾・川田	さぬき市	C区包含層	302	1269 游鑿	流紋岩	直管直刃	2	12.6	6.0	1.1	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区SH05	340	328 打鑿	結晶片岩	直管直刃	扱り	10.5	4.9	0.9	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区SH07	347	382 游鑿	結晶片岩	直管直刃	なし	6.8+	4.7	0.8	前期 II a	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区SK14	363	418 游鑿	安山岩	直管直刃	なし	7.0+	3.8	0.8	前期 II a	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区SK17	366	225 游鑿	結晶片岩	直管直刃	不明	21+	20.5+	前期 II a中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I		
鳴尾・川田	さぬき市	D区SK20	395	660 游鑿	流紋岩	直管直刃	1+	6.5+	5.6+	0.9	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区SX01	395	661 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	5.0+	4.6+	0.6+	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区SX01	395	662 游鑿	流紋岩	直管直刃	2+	3.7+	5.4+	0.6+	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	395	663 游鑿	結晶片岩	直管直刃	不明	4.2+	3.7	0.9	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	410	793 打鑿	流紋岩	直管直刃	扱り	6.8+	5.3	1.0	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	410	794 打鑿	流紋岩	直管直刃	扱り	9.7+	4.2	1.4	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	410	795 打鑿	流紋岩	直管直刃	扱り	11.6	5.4	1.1	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	410	796 打鑿	流紋岩	直管直刃	扱り	5.6	1.9	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I		
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	410	797 打鑿	セスカイト	直管直刃	不明	4.4+	4.9+	1.9	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	410	798 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	1+	3.6+	2.2+	0.9+	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	410	799 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	6.1+	5.6+	0.9	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	411	800 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	2+	8.0+	4.5+	1.2	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	411	801 游鑿	流紋岩	直管直刃	扱り	7.1	4.5	1.0	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	411	802 游鑿	流紋岩	直管直刃	1+	8.8+	6.0	1.4	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I	
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	411	803 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	1+	6.3+	4.7+	0.9	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	411	804 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	2+	4.0+	4.6	1.0	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I
鳴尾・川田	さぬき市	D区包含層	411	805 游鑿	流紋岩	直管直刃	不明	1+	5.9+	4.1+	0.4+	前期 II c中期 I	不規則	明治・川田遊鑿 I

遺跡名	所在地	遺構	図	番号	説明 / 打製	石材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時期	周	完	形	備考
鷲原・川田 さぬき市	D区包含層	411 806 廃棄	新松岩	不規則	1+	4.7+	2+/-	16.4	12	1.0	0.6+	前期II	c-中期I	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	D区包含層	411 807 廃棄	新松岩	直角風呂	2	16.4	12	16.4	12	1.0	0.6+	前期II	c-中期I	完毛	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	D区包含層	413 948 廃棄	新松岩	直角風呂	不明	5.8+	4.5+	16.4	12	1.0	0.6+	前期II	c-中期I	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	D区包含層	413 809 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	16.4	12	16.4	12	1.0	0.6+	前期II	c-中期I	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	D区包含層	413 810 廃棄	安山岩	直角風呂	不明	6.9+	4.6+	16.4	12	1.0	0.6+	前期II	c-中期I	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 D区包含層	413 811 廃棄	新松岩	直角風呂	不明	6.9+	4.6+	16.4	12	1.0	0.6+	前期II	c-中期I	/	明治・川田遺跡I		
鷲原・川田 さぬき市	SK1062	35 4001 廃棄	新松岩	直角風呂	2+	3.5+	3.5+	3.5	3.5	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SK1113	35 4002 廃棄	新松岩	直角風呂	2	9.5+	5.4	10.0	5.4	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SK1115	35 4003 廃棄	新松岩	直角風呂	不明	1+	3.3+	3.3+	3.3	0.5	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I
鷲原・川田 さぬき市	SK1517	35 4004 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	13.1	5.9	15	15	0.6	0.6+	前期II	c	はな形	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SK1547	35 4005 廃棄	新松岩	直角風呂	不明	5.4+	4.5	14.4	14.4	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SK1532	35 4006 廃棄	新松岩	直角風呂	2+	11.2	5.8	14.8	14.8	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4008 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	11.4	5.0	10.0	10.0	0.6	0.6+	前期II	c	完形	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4009 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	8.7+	4.8	11	11	0.6	0.6+	前期II	c	完形	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4010 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	3.3+	5.3	5.3	5.3	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4011 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	2.7+	2.6+	2.7+	2.7+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4012 廃棄	新松岩	直角風呂	2+	4.7+	4.5	4.8	4.8	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4013 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	6.3+	5.2	6.3+	6.3+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4014 廃棄	新松岩	直角風呂	2+	6.4+	5.8	6.4+	6.4+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4015 廃棄	新松岩	直角風呂	不明	1+	4.7+	5.8	5.8	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4016 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	5.9+	5.5	5.9	5.9	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4017 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	10.7+	5.0	10.7+	10.7+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4018 廃棄	新松岩	直角風呂	2+	10.7+	5.0	10.7+	10.7+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	35 4019 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	8.4+	4.8	11	11	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	36 4020 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	5.2+	5.4	5.2+	5.2+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	36 4021 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	12.1	5.7	12.1	5.7	0.6	0.6+	前期II	c	完形	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	36 4022 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	8.9+	5.1	10	10	0.6	0.6+	前期II	c	完形	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	36 4023 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	5.2+	4.8	5.2+	5.2+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	36 4024 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	8.2+	5.2	8.2+	8.2+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	36 4025 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	4.2+	3.5+	4.2+	4.2+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	36 4026 廃棄	新松岩	直角風呂	不明	5.6+	6.7	5.6+	5.6+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	36 4027 廃棄	新松岩	直角風呂	2+	5.0+	5.2	5.0+	5.0+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD001	36 4028 廃棄	新松岩	直角風呂	不明	6.6+	5.0	6.6+	6.6+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD1000	36 4029 廃棄	新松岩	直角風呂	1+	7.6+	5.2	7.6+	7.6+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD1000	36 4030 廃棄	新松岩	直角風呂	不明	4.3+	5.1	4.3+	4.3+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SD1000	36 4031 廃棄	新松岩	直角風呂	不明	3.3+	6.6	3.3+	3.3+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SX1012	36 4032 廃棄	新松岩	直角風呂	不明	4.5+	3.7+	4.5+	4.5+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SX1013	36 4033 廉表	新松岩	直角風呂	1+	3.7+	4.5	3.7+	3.7+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SX1024	36 4034 廉表	新松岩	直角風呂	1+	3.5+	4.1	3.5+	3.5+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SX1035	36 4035 廉表	新松岩	直角風呂	2+	10.3+	5.4	11	11	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SX1036	36 4036 廉表	新松岩	直角風呂	1+	6.1+	5.2	6.1+	6.1+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SX1037	36 4037 廉表	新松岩	直角風呂	2+	7.5+	5.1	11	11	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SX1038 倉庫附	37 4038 廉表	新松岩	直角風呂	不明	3.9+	20+	3.9+	3.9+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	
鷲原・川田 さぬき市	SX1039 倉庫附	37 4039 廉表	新松岩	直角風呂	不明	3.5+	4.6+	3.5+	4.6+	0.6	0.6+	前期II	c	/	明治・川田遺跡I	

遺跡	所在地	遺構	圓	番号	遊鑿 / 打製	石 材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時 期	周	完 形	備 考	文、紙
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4040	磨製	流紋岩	不眞	1+	5.0+	4.2	0.9	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4041	磨製	流紋岩	不眞	1+	4.4+	4.6+	0.6	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4042	磨製	流紋岩	不眞	1+	6.2+	4.3+	0.6	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4043	磨製	流紋岩	不眞	1+	3.7+	5.7	0.8	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4044	磨製	流紋岩	不眞	1+	4.7+	4.6+	0.4+	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4045	磨製	流紋岩	風・雷風刃	2+	8.1+	5.6	0.7+	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4046	磨製	流紋岩	不眞	1+	4.0+	2.1+	0.7+	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4047	磨製	流紋岩	直・雷風刃	1	6.6+	5.1	0.7	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4048	磨製	流紋岩	直・雷風刃	1+	6.2+	5.0	0.8	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4049	磨製	流紋岩	風・雷風刃	不眞	5.1+	4.7	0.7	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4050	磨製	流紋岩	不眞	1+	3.2+	4.5	0.9	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4051	磨製	流紋岩	直・雷風刃	1+	6.0+	5.8	0.8	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4052	磨製	流紋岩	直・雷風刃	1+	4.8+	6.3	0.9	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4053	磨製	流紋岩	直・雷風刃	2+	7.2+	5.3	1.3	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4054	磨製	流紋岩	直・雷風刃	1+	6.2+	5.0	1.3	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4055	磨製	流紋岩	風・雷風刃	不眞	5.3+	4.8	0.6	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	37	4056	磨製	流紋岩	直・雷風刃	2+	1.16	4.0	1.0	はまだ形	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	38	4057	磨製	流紋岩	直・雷風刃	1+	8.7+	4.4	0.8	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	包含層	38	4058	磨製	流紋岩	直・雷風刃	2	12.4+	4.7	0.9	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	38	4059	磨製	流紋岩	直・雷風刃	1+	6.1+	5.5	0.9	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	38	4060	磨製	流紋岩	直・雷風刃	1+	5.9+	4.9	0.9	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SK101/06	38	4061	磨製	流紋岩	風・雷風刃	扶り?	12.1+	6.0	1.1	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	38	4062	磨製	流紋岩	不眞	1+	4.5+	4.2+	0.5+	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	38	4063	磨製	流紋岩	不眞	1+	2.8+	3.0+	0.8	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	38	4064	磨製	流紋岩	直・雷風刃	扶り?	12.2	5.2	0.8	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	38	4065	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	6.6+	5.5	0.9	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	38	4066	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	7.4+	5.3+	0.7	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SK101/06	48	4067	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	16.5+	7.4	1.0	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	39	4070	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	11.9	5.2	1.1	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	39	4073	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	13.9	5.7	1.2	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	39	4074	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	16.4+	5.4+	0.8?	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	40	4075	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	11.5+	5.2	0.6	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	40	4076	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	6.2	1.6	来成品	未完成品	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	40	4077	磨製	流紋岩	直・雷風刃	扶り?	1.7	6.3	1.1	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	40	4078	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	11.1+	5.3	1.4	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	40	4079	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	5.8+	5.9	0.9	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	40	4080	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	8.4+	4.0	0.8	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	40	4081	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	11.4+	5.2	0.6	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	40	4082	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	1.4	7.4	1.1	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	41	4083	磨製	流紋岩	直・雷風刃	扶り?	5.9	0.8	来成品	未完成品	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	41	4084	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	11.9+	5.9	1.2	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	41	4085	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	10.5+	5.8	0.9	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	41	4086	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	3.8+	4.7+	0.9	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	41	4087	磨製	流紋岩	直・雷風刃	不眞	11.7+	5.3	1.0	前期 II c	/	/	鶴居・川田遺跡 II	

遺跡名	所在地	遺構	図番	番号	遊鑿／打撲	石 材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時 期	周	完 形	備 考	文、紙
鴨居・川田	さぬき市	SD001	41	4088	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	7.6+	4.6	0.8	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SD001	42	4089	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	5.6	1.1	1.1	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SD001	42	4090	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	11.3+	5.2	1.3	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SD001	42	4091	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	5.8+	4.7	1.4	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SD001	42	4093	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	8.8+	6.5	1.2	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SD001	42	4094	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	6.4+	6.1	1.2	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SD001	42	4095	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	12.1	5.6	1.5	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1010	42	4096	遊鑿	流紋岩	直角楕円	抉り	8.4+	5.5	0.8	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1023	43	4097	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	10.7?	4.5	1.0	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1034	43	4098	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	11.5	5.4	2.1	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4099	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	6.0+	3.4+	0.7	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4100	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	7.2+	5.2	1.3	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4101	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	6.0+	4.6	0.8	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4102	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	4.0+	3.8+	0.7	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4103	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	7.2+	4.5	1.2	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4104	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	14.3	5.7	1.2	前期Ⅱ c	/	未完成形	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4105	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	6.1+	4.4	1.3	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4106	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	9.6+	5.5	1.1	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4107	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	11.0+	5.1	0.7	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4108	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	3.8+	5.1	0.6	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	43	4109	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	7.6+	5.9	1.1	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4110	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	11.1	6.0	0.8	前期Ⅱ c	/	はぼ完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4111	遊鑿	流紋岩	直角楕円	抉り	10.2+	5.8	1.0	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4112	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	5.2+	5.8	0.9	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4113	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	8.9	5.2	1.7	前期Ⅱ c	/	未完成形	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4114	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	11.0	7.7	1.4	前期Ⅱ c	/	はぼ完形?	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4115	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	6.7+	5.9	1.4	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4116	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	7.3+	6.8	0.9	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4117	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	12.9	6.1	1.8	前期Ⅱ c	/	完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4118	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	5.8+	5.5	1.0	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4125	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	5.4+	6.3	1.1	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4126	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	6.4	4.7	1.1	前期Ⅱ c	/	未成品?	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1055	44	4127	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	4.129	6.5	1.1	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1113	45	4129	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	9.4+	6.0	0.8	前期Ⅱ c	/	未成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1269	45	4131	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	4.5+	6.1+	5.7	0.9	/	未完成形	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SD001	45	4132	遊鑿	流紋岩	不規則	抉り	6.1+	5.5	1.1	前期Ⅱ c	/	未完成形	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SD001	45	4133	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	8.3+	5.5	1.1	前期Ⅱ c	/	未完成形	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SD001	45	4135	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	3.7+	5.6	1.4	前期Ⅱ c	/	未完成形?	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SD001	45	4150	遊鑿	流紋岩	不規則	抉り	2.7+	4.4	0.8	前期Ⅱ c	/	未完成形?	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SX1044	45	4163	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	6.8+	6.1	1.1	前期Ⅱ c	/	未完成形?	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SP1001	45	4171	遊鑿	流紋岩	不規則	不明	6.6+	5.8	1.2	前期Ⅱ c	/	未完成形?	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SP1071	45	4178	遊鑿	安山岩	直角楕円	抉り	8.5+	5.9	1.4	前期Ⅱ c	/	未完成形?	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1045	46	4180	遊鑿	安山岩	直角楕円	抉り	3.9+	5.6	1.4	前期Ⅱ c	/	未完成形?	鴨居・川田遺跡Ⅱ	
鴨居・川田	さぬき市	SK1077	46	4181	遊鑿	安山岩	不規則	不明	7.6+	4.5	1.1	前期Ⅱ c	/	未完成形?	鴨居・川田遺跡Ⅱ	

遺跡	所在地	遺構	圖	番号	断壁 / 打撲	石 材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時 期	完 形	備 考
鶴居・川田	さぬき市	SK1269	46	4.182	断壁	安山岩	不規	5.2+	4.5	0.8	前期Ⅱc	/	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SK1300	46	4.183	断壁	安山岩	風呂底刃	1+	7.0+	5.9	0.8	前期Ⅱc	/	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.184	打撲	安山岩	直管底刃	不規	9.0+	5.1	1.2	斜切Ⅱ	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.185	断壁	安山岩	不規	1+	4.9+	5.1	0.9	前期Ⅱc	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.186	断壁	安山岩	不規	3.4+	3.2+	0.9	前期Ⅱc	c	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.187	断壁	安山岩	直管底刃	不規	7.6+	6.1	1.1	前期Ⅱc	/	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.188	断壁	安山岩	不規	4.9+	4.6+	0.7+	前期Ⅱc	/		
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.189	断壁	安山岩	不規	7.3+	4.9	0.8	前期Ⅱc	/		
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.190	断壁	安山岩	直管底刃	扶り	10.1	5.1	1.1	前期Ⅱc	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.191	断壁	安山岩	直管底刃	不規	8.0+	5.2	1.1	前期Ⅱc	/	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.192	断壁	安山岩	不規	3.6+	4.1	0.9	前期Ⅱc	/		
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.193	断壁	安山岩	不規	4.9+	4.3+	1.0	前期Ⅱc	/		
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.194	断壁	安山岩	直管底刃	扶り	11.3+	6.3	1.3	前期Ⅱc	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.195	断壁	安山岩	不規	5.7+	5.26+	1.0	前期Ⅱc	/		
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.196	断壁	安山岩	直管底刃	2	8.6+	4.0	0.8	前期Ⅱc	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.197	断壁	安山岩	不規	1+	5.0+	4.1+	0.8	斜切Ⅱ	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.198	断壁	安山岩	不規	1+	4.1+	0.6	前期Ⅱc	/		
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.199	断壁	安山岩	不規	2+	3.5+	3.6+	1.1	前期Ⅱc	/	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.200	断壁	安山岩	直管底刃	全	13.6+	6.6	0.7	前期Ⅱc	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.201	断壁	安山岩	直管底刃	?	2+	5.0+	4.8	0.8	斜切Ⅱ	鶴居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.202	断壁	安山岩	不規	1+	4.1+	4.5	0.8	前期Ⅱc	/	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.203	断壁	安山岩	直管底刃	扶り	4.9+	5.0	1.1	前期Ⅱc	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	46	4.204	断壁	安山岩	直管底刃	2+	8.9+	6.0	1.0	前期Ⅱc	/	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	47	4.205	断壁	安山岩	直管底刃	1+	8.4+	5.4	0.8	前期Ⅱc	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SD001	47	4.206	断壁	安山岩	直管底刃	不規	8.2+	4.9	1.3	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1010	47	4.207	断壁	安山岩	不規	1+	4.3+	3.3+	0.8	前期Ⅱc	/	
鶴居・川田	さぬき市	SX1013 · SX1034	47	4.208	断壁	安山岩	直管底刃	1+	3.5+	6.1+	0.7	前期Ⅱc	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.209	打撲	安山岩	不規	不明	5.8+	3.6	0.5	前期Ⅱc	未成品	鶴居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.210	断壁	安山岩	不規	2+	2.2+	0.5	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ		
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.211	断壁	安山岩	不規	1+	4.3+	6.1	0.7	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.212	断壁	安山岩	直管底刃	不規	5.1+	5.0	0.8	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.213	断壁	安山岩	直管底刃	2	8.4+	4.4	0.7	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.214	断壁	安山岩	直管底刃	2	9.4+	5.5	0.9	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.215	断壁	安山岩	不規	不明	5.0+	4.0+	0.9	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.216	断壁	安山岩	不規	3.4+	3.1	0.6	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ		
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.217	断壁	安山岩	直管底刃	扶り	8.5+	4.6	0.8	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.218	断壁	安山岩	不規	不明	5.9+	4.9	1.0	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.219	断壁	安山岩	直管底刃	不規	6.3+	4.4	0.9	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.220	断壁	安山岩	直管底刃	1+	6.9+	4.5+	1.1	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.221	断壁	安山岩	直管底刃	1+	4.4	0.8	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ		
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	47	4.222	断壁	安山岩	直管底刃	不明	5.5+	4.6	0.8	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	48	4.223	断壁	安山岩	直管底刃	不明	4.1+	5.5	0.9	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	48	4.224	断壁	安山岩	直管底刃	不明	12.2+	6.1	1.2	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	
鶴居・川田	さぬき市	SX1065	48	4.225	断壁	安山岩	直管底刃	不明	3.5+	4.8	0.8	定期	鶴居・川田遺跡Ⅱ	

遺跡名	所在地	遺構	図番号	説明 / 打撲	石材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時	期	完	形	備	考	
鷹島・川田 さぬき市 包含層	さぬき市	包含層	48	4226 説明	安山岩	不明	4.8+	3.4+	0.7	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ	
鷹島・川田 さぬき市 包含層	さぬき市	包含層	48	4227 打撲	安山岩	不明	6.5	1.0	0.7	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ	
鷹島・川田 さぬき市 包含層	さぬき市	包含層	48	4228 打撲	安山岩	不明	1+	5.6+	0.6+	初期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ	
鷹島・川田 さぬき市 包含層	さぬき市	包含層	48	4229 説明	安山岩	直角直角刃	不明	5.9+	5.1+	0.7	初期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 包含層	さぬき市	包含層	48	4230 説明	安山岩	直角直角刃	不明	5.9+	3.4+	0.4	初期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 包含層	さぬき市	包含層	48	4231 説明	安山岩	直角直角刃	1+	6.0+	5.2+	1.1	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SHP018	さぬき市	包含層	48	4232 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	11.5+	6.5	1.9	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SK1273	さぬき市	包含層	48	4233 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	8.0+	4.5	1.5	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD015	さぬき市	包含層	49	4234 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	13.0	6.9	1.1	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4235 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	6.2+	5.2	1.0	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4236 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	5.9+	5.2	1.0	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4237 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	8.4+	7.5	1.3	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4238 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	6.4+	5.6	1.1	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4239 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	4.8+	5.5	0.9	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4240 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	8.4+	5.9	1.5	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4241 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	7.9	5.7	1.8	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4242 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	8.4+	5.7	1.5	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4243 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	8.1+	4.7	1.0	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4244 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	11.8	4.9	1.2	前期Ⅱ c						はばた形
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4245 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	6.0+	4.9	0.8	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4246 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	10.6	5.4	1.0	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4247 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	5.7+	5.7	0.8	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4248 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	9.2+	5.7	1.1	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4249 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	6.3+	5.4	1.1	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4250 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	8.5+	5.0	0.9	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	49	4251 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	6.0+	4.9	1.2	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4252 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	8.4+	6.1	1.4	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4253 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	6.4+	5.4	1.0	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SX1001	さぬき市	包含層	50	4254 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	4.7+	5.1	1.1	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SX1003	さぬき市	包含層	50	4255 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	4.9+	4.4	1.1	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SX1003	さぬき市	包含層	50	4256 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	5.4+	5.0	1.2	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4257 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	5.4+	4.9	1.1	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4258 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	5.5+	6.2	1.0	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4259 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	6.0+	4.5	1.2	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4261 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	6.1+	5.0	1.5	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4262 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	6.5+	3.8	1.0	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4263 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	5.4+	4.8	1.3	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4264 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	6.2+	2.7+	0.9	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4265 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	7.8+	5.5	0.9	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4266 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	7.2+	5.5	1.3	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4267 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	5.9+	7.4	1.2	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4268 打撲	安山岩	直角直角刃	抉り	9.8+	5.4	1.2	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4269 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	5.5+	4.8	0.6	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4270 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	10.6+	5.7	1.0	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ
鷹島・川田 さぬき市 SD001	さぬき市	包含層	50	4271 打撲	安山岩	直角直角刃	不明	7.9+	6.0	1.1	前期Ⅱ c						昭和・川田遺跡Ⅱ

遺跡	所在地	遺構	圓	番号	断壁 / 打撲	石 材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時 期	完 形	備 考
鶴居・川田	さぬき市	包合層	50	4273	打撲	安山岩	不規則	不明	4.4+	6.2	1.3	前期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	包合層	50	4274	打撲	安山岩	不規則	不明	5.0+	4.0	0.8	前期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	包合層	50	4275	打撲	安山岩	不規則	不明	5.0+	5.2	1.0	前中期Ⅱ	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	包合層	50	4276	打撲	安山岩	直角直角	不明	4.5+	6.0	0.8	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	包合層	50	4277	打撲	安山岩	不規則	不明	9.6+	5.4	1.0	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	包合層	50	4278	打撲	安山岩	不規則	不明	6.7+	4.8	1.0	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SK1032	50	4280	打撲	安山岩	不規則	不明	5.9+	7.1	1.1	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	50	4281	打撲	安山岩	不規則	不明	7.5+	7.2+	1.1	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	包合層	51	4282	打撲	安山岩	直角直角	不明	9.9+	3.1+	/	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	包合層	51	4283	打撲	安山岩	不規則	不明	7.5+	4.5	1.4	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	包合層	52	4284	打撲	安山岩	不規則	不明	6.8+	5.8+	1.2	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	52	4285	打撲	安山岩	直角直角	不明	4.1+	5.3+	/	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	52	4286	打撲	板岩	直角直角	2	4.4	0.9	前中期Ⅱc	/	はぼ完形	
鶴居・川田	さぬき市	SP1060	52	4287	打撲	板岩	直角直角	1+	9.5+	4.8	0.8	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SK1183	52	4288	打撲	板岩	直角直角	2+	3.9+	5.0	0.9	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SK1197	52	4289	打撲	板岩	直角直角	長辺	8.6+	5.3	0.8	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	52	4290	打撲	板岩	直角直角	1+	5.9+	4.4+	0.7	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	52	4291	打撲	板岩	直角直角	不明	6.7+	4.8+	0.4+	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	52	4292	打撲	板岩	直角直角	不明	4.1+	5.5+	1.2	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	52	4293	打撲	板岩	直角直角	2+	7.7+	4.3	0.8	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	52	4294	打撲	板岩	直角直角	不明	7.9+	5.9	0.7	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	53	4295	打撲	板岩	直角直角	不明	9.7+	4.1+	1.0	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	53	4296	打撲	板岩	直角直角	不明	9.5+	4.7	0.7	前中期Ⅱc	14.2完形	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	53	4297	打撲	板岩	直角直角	2	13.7	4.4	0.9	前中期Ⅱc	完形	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	53	4298	打撲	板岩	直角直角	長辺	16.5	5.5	0.9	前中期Ⅱc	14.2完形	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	53	4299	打撲	板岩	直角直角	1+	11.5+	4.3	0.7	前中期Ⅱc	14.2完形	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	54	4300	打撲	板岩	直角直角	1+	9.3	4.6	0.5	前中期Ⅱc	14.2完形	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	54	4301	打撲	板岩	直角直角	不明	9.0+	4.6	0.5	前中期Ⅱc	14.2完形	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	54	4302	打撲	板岩	直角直角	不明	10.2+	5.5	0.8	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	54	4303	打撲	板岩	直角直角	不明	3.9+	3.4+	0.5	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD002	54	4304	打撲	板岩	直角直角	不明	1+	3.3+	0.7	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD002	54	4305	打撲	板岩	直角直角	2	11.7	3.3	0.9	前中期Ⅱc	14.2完形	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD002	54	4306	打撲	板岩	直角直角	不明	6.6	3.2	0.7	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD002	54	4307	打撲	板岩	直角直角	1+	3.9+	3.0+	0.7	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD002	54	4308	打撲	板岩	直角直角	2+	5.5+	4.9	0.8	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD002	54	4309	打撲	板岩	直角直角	不明	5.3+	6.0	1.1	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD002	54	4310	打撲	板岩	直角直角	長辺	13.3	5.0	1.0	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SX1035	54	4311	打撲	板岩	直角直角	2	7.7+	4.7	0.8	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SX1045	54	4312	打撲	板岩	直角直角	不明	6.2+	4.0	0.5	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	54	4313	打撲	板岩	直角直角	1+	5.9+	5.8	0.7	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	54	4314	打撲	板岩	直角直角	不明	3.7+	4.0	0.7	前中期Ⅱc	/	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	55	4315	打撲	板岩	直角直角	1+	9.4+	4.6	0.6	前中期Ⅱc	完形	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	55	4316	打撲	板岩	直角直角	なし	13.8	5.1	0.7	前中期Ⅱc	完形	明居・川田遺跡Ⅱ
鶴居・川田	さぬき市	SD001	55	4317	打撲	板岩	直角直角	なし	9.9	4.6	0.6	前中期Ⅱc	完形	明居・川田遺跡Ⅱ

遺跡名	所在地	遺構種別	面番号	断面/打撿	石材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時期	周	完	形	備考
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	包含層	5	4318 断面	板片岩	直角直角	なし	21.2	5.1	0.9	前期Ⅱc	はは完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01043	55	4319 断面	板片岩	不明	不明	26.6	1.2	0.9	前期Ⅱc	はは完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01055	55	4320 好襲	板片岩	不明	不明	55.5	29+	0.6	初期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01066	55	4321 断面	板片岩	直角直角	なし	11.6+	5.5	0.6	前期Ⅱc	はは完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01071	56	4322 断面	板片岩	直角直角	不明	6.2+	3.3	0.7	前期Ⅱc	c	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01075	56	4323 断面	板片岩	直角直角	なし	10.1	5.2	1.0	前期Ⅱc	14は完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01079	56	4324 打撿	板片岩	直角直角	なし	12.4	4.9	0.7	前期Ⅱc	14は完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD10161	56	4325 断面	板片岩	不明	不明	9.5	4.4	0.6	初期Ⅱc	はは完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD10167	56	4326 断面	板片岩	直角直角	なし	11.1+	4.8	0.9	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD10170	56	4328 断面	板片岩	直角直角	不明	6.7+	5.4	0.6	前期Ⅱc	c	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01076	56	4329 断面	板片岩	直角直角	なし	5.5+	4.6	0.6	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01077	56	4330 打撿	板片岩	直角直角	不明	11.1	4.9	0.7	前期Ⅱc	未完成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SP01066	116	6002 打撿	板片岩	直角直角	不明	11.6+	7.2	1.6	前期Ⅱc	14は完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SP11112	116	6003 打撿	板片岩	直角直角	不明	7.2+	5.1	1.1	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SK10147	116	6004 打撿	板片岩	直角直角	なし	12.5+	4.8	0.7	前期Ⅱc	はは完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SK10181	116	6007 打撿	板片岩	直角直角	なし	11.9	5.2	1.2	前期Ⅱc	14は完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01071	116	6009 打撿	板片岩	直角直角	なし	13.9	4.5+	0.9	前期Ⅱc	c	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01075	116	6010 打撿	板片岩	直角直角	なし	9.8	5.2	0.8	前期Ⅱc	はは完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01077	116	6011 打撿	板片岩	直角直角	なし	13.4+	3.6+	0.7	前期Ⅱc	鴨居・川田遺跡Ⅱ			
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01079	116	6012 打撿	板片岩	直角直角	なし	3.6+	5.3+	1.2	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01081	116	6013 打撿	板片岩	直角直角	なし	26+	0.6	0.6	初期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01083	117	6015 打撿	板片岩	直角直角	なし	4.7	9.4+	1.0	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01084	117	6016 打撿	板片岩	直角直角	なし	2.6+	3.2+	0.8	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01085	117	6017 打撿	板片岩	直角直角	なし	7.4+	8.9	1.1	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01086	117	6019 打撿	板片岩	直角直角	なし	11.1+	11.1+	0.8	前期Ⅱc	未完成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01087	117	6020 打撿	板片岩	直角直角	なし	6.6	0.9	0.9	前期Ⅱc	完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01088	117	6022 打撿	板片岩	直角直角	なし	3.7+	5.0+	0.8	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01089	117	6023 打撿	板片岩	直角直角	なし	4.1+	4.7	0.8	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01090	117	6024 打撿	板片岩	直角直角	なし	9.9+	4.8	1.2	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01091	117	6025 打撿	板片岩	直角直角	なし	7.9+	4.5	1.0	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01092	117	6026 打撿	板片岩	直角直角	なし	8.0+	3.9	0.8	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01093	117	6027 打撿	板片岩	直角直角	なし	5.3+	6.0	0.9	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01094	117	6029 打撿	板片岩	直角直角	なし	4.1+	3.9	0.8	前期Ⅱc	未完成品	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01095	117	6033 打撿	板片岩	直角直角	なし	3.5+	5.0+	1.1	前期Ⅱc	完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01096	117	6034 打撿	板片岩	直角直角	なし	4.1+	4.4+	0.8	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01097	117	6035 打撿	板片岩	直角直角	なし	4.4	1.9	0.8	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01098	117	6036 打撿	板片岩	直角直角	なし	3.2+	3.6+	0.6	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01099	117	6038 打撿	板片岩	直角直角	なし	4.9	5.5	1.1	前期Ⅱc	14は完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD10169	117	6040 打撿	板片岩	直角直角	なし	5.4+	4.2	0.9	前期Ⅱc	完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD10170	117	6042 打撿	板片岩	直角直角	なし	6.9+	3.8+	1.1	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SX10134	117	6043 打撿	板片岩	直角直角	なし	5.4+	4.1	0.7	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SX10145	118	6044 打撿	板片岩	直角直角	なし	9.5+	4.1	1.1	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01090	118	6046 打撿	板片岩	直角直角	なし	7.2+	4.6	1.0	前期Ⅱc	/	鴨居・川田遺跡Ⅱ		
鴨居・川田 きぬき市	きぬき市	SD01091	118	6047 打撿	板片岩	直角直角	なし	11.8	4.2	0.8	前期Ⅱc	完形	鴨居・川田遺跡Ⅱ		

道 路	所在地	通 用	固 号	番 号	路 駛 / 打 駕	石 村	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時 期	完 形	備 考
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.8	6048	打駕	サスカイト	不明	なし	5.2+	5.1	0.7	前期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡Ⅱ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.8	6049	打駕	サスカイト	不明	なし	3.0+	4.5	0.6	前期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡Ⅲ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.8	6050	打駕	サスカイト	直管直角	なし	6.1+	4.2	0.7	初期Ⅱ	/	鶴屋・川田跡Ⅳ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.8	6051	打駕	サスカイト	直管直角	不明	5.6+	4.5	0.8	初期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡Ⅴ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.8	6052	打駕	サスカイト	直管直角	不明	4.8+	4.5	1.4	前期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡Ⅵ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.8	6053	打駕	サスカイト	直管直角	不明	5.0+	4.5	1.1	前期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡Ⅶ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.8	6054	打駕	サスカイト	直管直角	取り	10.7+	5.9	0.8	前期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡Ⅷ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.8	6055	打駕	サスカイト	直管直角	取り	4.1+	4.3	0.9	前期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡Ⅸ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.8	6056	打駕	サスカイト	直管直角	なし	7.2	4.3	0.7	ほぼ完形	/	鶴屋・川田跡Ⅹ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6057	打駕	サスカイト	直管直角	なし	12.3	7.5	0.9	前期Ⅱ c	完形	鶴屋・川田跡Ⅺ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6051	打駕	サスカイト	直管直角	取り	6.6+	3.8	0.7	前期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡Ⅻ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6052	打駕	サスカイト	直管直角	取り	11.6+	5.7	0.7	中期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡Ⅼ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6053	打駕	サスカイト	直管直角	不明	4.1+	4.5+	0.6	前期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡Ⅽ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6054	打駕	サスカイト	直管直角	不明	5.7+	4.7	0.9	中期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡Ⅾ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6055	打駕	サスカイト	直管直角	取り	7.3+	5.0	1.1	前期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡Ⅿ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6056	打駕	サスカイト	直管直角	不明	9.4+	4.9	1.1	中期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡ⅰ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6057	打駕	サスカイト	直管直角	取り	5.4+	4.4	0.9	中期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡ⅱ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6072	打駕	サスカイト	直管直角	なし	4.4+	4.0	1.0	前期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡ⅲ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6078	打駕	サスカイト	直管直角	なし	5.4+	4.6	0.9	前期Ⅱ c	/	鶴屋・川田跡ⅳ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6079	打駕	サスカイト	直管直角	取り	8.9+	5.1	1.3	中期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡ⅴ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6080	打駕	サスカイト	直管直角	不明	4.4+	4.8	1.0	中期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡ⅵ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6081	打駕	サスカイト	直管直角	なし	11.7	6.1	1.0	中期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡ⅶ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6083	打駕	サスカイト	直管直角	不明	5.9+	4.1+	1.0	中期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡ⅷ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6088	打駕	サスカイト	直管直角	不明	2.5+	3.9+	0.7	前期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡ⅸ
鶴屋・川田	さぬき市	包合附	1.9	6089	打駕	サスカイト	直管直角	不明	3.3+	3.9+	0.9	中期Ⅱ	c	鶴屋・川田跡ⅹ
鶴の井	高松市	SK21017	7.1	S56	打駕	サスカイト	直管直角	取り	5.9+	4.0	1.2	中期Ⅰ	/	鶴の井遺跡Ⅴ
鶴の井	高松市	SK21028	8.5	S58	打駕	サスカイト	直管直角	取り	5.5+	8.8+	1.0	中期Ⅰ	/	鶴の井遺跡Ⅵ
鶴の井	高松市	NW91001	18.1	S23	打駕	サスカイト	直管直角	取り	4.4+	4.6	0.6	中期Ⅰ	/	鶴の井遺跡Ⅶ
鶴の井	高松市	SH13003	54	S57	打駕	サスカイト	直管直角	なし	2.9+	3.3	0.6	中期Ⅰ	/	鶴の井遺跡Ⅷ
鶴の井	高松市	SH13004	54	S58	打駕	サスカイト	直管直角	なし	4.4+	3.1	0.7	中期Ⅰ	/	鶴の井遺跡Ⅸ
鶴の井	高松市	SH13005	7.1	S289	打駕	サスカイト	直管直角	なし	10.0	5.0	1.3	中期Ⅰ - II	完形	鶴の井遺跡Ⅹ
鶴の井	高松市	SH13006	7.1	S290	打駕	サスカイト	直管直角	取り	11.4	4.3	1.2	中期Ⅰ - II	/	鶴の井遺跡Ⅺ
鶴の井	高松市	SH13007	7.3	S298	打駕	サスカイト	直管直角	取り	4.5+	3.6	0.9	中期Ⅰ - II	/	鶴の井遺跡Ⅻ
鶴の井	高松市	SH13008	7.3	S300	打駕	サスカイト	直管直角	なし	9.5	4.3	1.1	中期Ⅰ - II	完形	鶴の井遺跡Ⅼ
鶴の井	高松市	SH13009	22	21	打駕	サスカイト	直管直角	取り	11.4	5.2	1.1	前期Ⅱ a	/	北野遺跡
鶴の井	高松市	SH13010	42	291	打駕	サスカイト	直管直角	取り	7.5+	4.5	1.0	前期Ⅱ c	/	北野遺跡
北野	高松市	SD204	42	292	打駕	サスカイト	直管直角	取り	6.5+	5.6	0.9	前期Ⅱ c	/	北野遺跡Ⅳ
北野	高松市	SD205	42	293	打駕	サスカイト	直管直角	取り	8.0	4.3	0.7	前期Ⅱ c	/	北野遺跡Ⅴ
北野	高松市	SD206	42	294	打駕	サスカイト	直管直角	取り	5.4+	4.5	0.8	前期Ⅱ c	/	北野遺跡Ⅵ
北野	高松市	SD207	42	295	打駕	サスカイト	直管直角	取り	4.0+	4.0	0.8	前期Ⅱ c	/	北野遺跡Ⅶ

遺跡名	所在地	図番号	番号	断面/打撿	石	材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時	期	完	形	備	考
北野 高松市	高松市	SD24	42	296	打撿		安山岩	直貫孔	抜り	3.7+	3.9	0.7+	前期Ⅱ	c	/		北野道跡 （本塹）
北野 高松市	高松市	SD26	55	490	打撿		安山岩	直貫孔	2+	8.5	5.1	0.8	前期Ⅱ	b	/		北野道跡 （本塹）
北野 高松市	高松市	SH04	61	539	打撿	片岩	直貫孔	2+	9.2+	3.6	0.9	前期Ⅱ	b	/		北野道跡 （本塹）	
多肥宮尻 高松市	高松市	SH00中層	52	S13	打撿	サスカイト	直貫孔	抜り	8.9	4.8	1.5	前期Ⅱ	c?	完形		後期後半の土壌も多肥宮尻遺跡	
多肥宮尻 高松市	高松市	SH02上層	62	S19	打撿	安山岩?	直貫孔	2+	7.0+	5.1+	0.6	前期Ⅱ	c?	/		同上に「中間中期」多肥宮尻遺跡	
多肥宮尻 高松市	高松市	SH02上層	67	S22	打撿	サスカイト	直貫孔	抜り	9.2	4.6	0.9	前期Ⅱ	c?	完形		同上に「中間中期」多肥宮尻遺跡	
多肥宮尻 高松市	高松市	SH02上層	67	S23	打撿	結晶片岩	直貫孔	抜り	8.2	4.5	0.6	前期Ⅱ	c?	完形		同上に「中間中期」多肥宮尻遺跡	
淡佐 高松市	高松市	SX215	37	90	打撿	安山岩?	直貫孔	2+	8.9+	5.4	0.8	前期Ⅱ	a	/		（の土壌も少部分） 淡佐遺跡	
天瀬・宮西 高松市	高松市	SD03	18	100	打撿	安山岩	直貫孔	1+	6.1+	7.5+	0.7	前期Ⅱ	a	/		天瀬・宮西遺跡	
天瀬・宮西 高松市	高松市	SH03	28	149	打撿	安山岩?	不明	不明	3.9+	4.0+	0.7	前期Ⅱ	a	/		古墳前頭の堅穴建 物から出土	
天瀬・宮西 高松市	高松市	立会塗	177	792	打撿	安山岩	直貫孔	2+	7.6+	5.6	0.7	前期Ⅱ	a	/		天瀬・宮西遺跡	
鬼無神井 高松市	内瀬塗	34	S24	打撿	サスカイト	直貫孔	抜り	12.2	6.0	1.3	前期Ⅱ	a	完形		鬼無神井遺跡		
北口 下川津	下川津出 第2氏地帯塗1	49	205	打撿	直貫孔	不明	サスカイト	直貫孔	2?	4.4+	4.5+	0.8	前期Ⅱ	c	/	北口遺跡	
北口 下川津	下川津出 第2氏地帯塗1	130	4	打撿	サスカイト	直貫孔	抜り	4.7+	5.1	1.1	前期Ⅱ	c	/		下川津遺跡		
北口 下川津	下川津出 第2氏地帯塗1	130	6	打撿	サスカイト	直貫孔	抜り	4.8+	4.6	1.1	前期Ⅱ	c	/		下川津遺跡		
北口 下川津	下川津出 第2氏地帯塗1	130	7	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	5.1+	5.3+	1.0	前期Ⅱ	c	/		下川津遺跡		
北口 下川津	下川津出 第2氏地帯塗1	130	8	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	7.3+	5.3+	0.7	前期Ⅱ	c	/		下川津遺跡		
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 02	130	9	打撿	安山岩	直貫孔	2?	7.4+	6.2+	0.8	前期Ⅱ	c	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 02上層	34	159	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	7.2+	5.0	1.1	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 02上層	35	164	打撿	片岩	直貫孔	1+	5.2+	6.5	0.9	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 03上層	42	249	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	5.5+	5.0	1.3	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 01	66	409	打撿	片岩	直貫孔	1+	5.8+	5.0+	0.8	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 06	71	422	打撿	片岩	直貫孔	2?	11.1+	4.4	1.3	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 03	80	504	打撿	片岩	直貫孔	2?	12.7+	4.4	0.8	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 01	98	626	打撿	片岩	直貫孔	2?	6.7+	4.2	0.5	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 02	99	628	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	5.2+	4.6	0.6	前期Ⅱ	b?	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 06	107	676	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	5.5+	4.8	1.0	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SXⅢ 02	109	669	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	10.8+	6.0+	1.2	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SXⅢ 02	109	700	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	11.0	5.2	1.0	前期Ⅱ	b	完形		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SXⅢ 06	177	722	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	9.1+	4.1	1.1	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
平池塗 丸龜市	丸龜市	SRⅢ 02	218	1406	打撿	安山岩	直貫孔	2?	8.4+	4.4	0.8	前期Ⅱ	b	/		平池塗遺跡	
中の池 丸龜市	丸龜市	SD0804	20	18	打撿	安山岩	直貫孔	2?	不明	不明	不明	不明	b?	/		中の池遺跡	
中の池 丸龜市	丸龜市	SD0804	20	19	打撿	安山岩	直貫孔	2?	不明	不明	不明	不明	b?	/		中の池遺跡	
中の池 丸龜市	丸龜市	SD0804	20	20	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	不明	不明	不明	不明	b?	/		中の池遺跡	
中の池 丸龜市	丸龜市	SD0804	20	23	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	不明	不明	不明	不明	b?	/		中の池遺跡	
中の池 丸龜市	丸龜市	NSD-2	73	S42	打撿	サスカイト	直貫孔	2?	13.2	5.7	1.2	前期Ⅱ	b	完形		中の池遺跡	

道 漢	所在地	面	番号	断壁 / 打削	石 材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時 期	周 形	完 形	備 考	
中の池	丸亀市	NNSD-2	73	S43 打削	サスカイト	直角直角	抉り	128	4.5	1.0	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-2	73	S45 打削	サスカイト	直角直角	抉り	71+	3.7	0.7	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-2	73	S46 打削	サスカイト	直角直角	抉り	130	4.4	0.9	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NS 磁石遺跡	73	S122 打削	サスカイト	不規則	抉り	58	6.3+	0.9	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NS 磁石遺跡	77	S123 打削	サスカイト	不規則	抉り	63.2+	4.4+	0.9	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	82	S203 打削	サスカイト	直角直角	抉り	61+	4.9+	1.2	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	83	S204 打削	サスカイト	直角直角	抉り	8.9	5.5	1.3	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	83	S206 打削	サスカイト	直角直角	抉り	28.9	4.7+	(0.9)+	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	83	S207 打削	サスカイト	直角直角	抉り	82.5	5.0	1.1	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	83	S208 打削	サスカイト	直角直角	抉り	56+	5.1	0.9	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	83	S209 打削	サスカイト	直角直角	抉り	54+	5.4+	1.0	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	83	S210 打削	サスカイト	直角直角	抉り	9.5+	5.7	1.1	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	83	S211 打削	サスカイト	不定形	抉り	102.4+	6.4+	1.0	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	85	S212 打削	サスカイト	直角直角	抉り	101.4+	5.1	1.2	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	83	S213 打削	サスカイト	直角直角	抉り	11.4	4.4	1.2	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	83	S214 打削	サスカイト	直角直角	抉り	11.8	4.8	0.9	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	83	S215 打削	サスカイト	直角直角	抉り	10.4+	4.7	0.8	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	85	S227 剥離	泥岩?	不規則	1+	6.3+	5.0	0.8	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	85	S228 剥離	泥岩?	不明	1+	5.4+	5.0	0.9	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	85	S229 剥離	泥岩?	直角直角	不規則	5.2+	4.0+	0.8	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	85	S231 剥離	黒色頁岩	直角直角	2+	11.1	4.3+	0.6	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	85	S232 剥離	緑色頁岩	直角直角	2+	7.8+	4.9	0.8	前期 II c	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	85	S233 剥離	緑色頁岩	直角直角	2+	11.2	4.2	0.7	前期 II c?	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	93	S380 打削	サスカイト	直角直角	抉り	77.4	4.5	0.9	前期 II b - c?	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	93	S381 打削	サスカイト	直角直角	抉り	4.7+	4.1	1.1	前期 II b - c?	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	95	S411 打削	泥岩?	不明	1+	5.4+	4.5	0.8	前期 II b - c?	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	NNSD-1	77	S7 打削	サスカイト	直角直角	抉り	1+	5.7+	4.4+	0.5+	前期 II b - c?	中ノ池遺跡 I		
中の池	丸亀市	SLSD-1	77	S20 打削	片岩	直角直角	抉り	60.4	4.3+	0.8	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-1	77	S21 打削	サスカイト	直角直角	抉り	5.5+	4.6+	1.4	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-1	78	S223 剥離	直角	直角直角	2+	72+	5.4+	0.7	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-1	78	S226 剥離	泥岩	直角直角	抉り	6.8+	4.7+	1.1	前期 II b - c?	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-1	78	S227 剥離	泥岩	直角直角	2+	4.5+	3.3+	0.7	前期 II b - c?	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-2	80	S71 打削	サスカイト	直角直角	抉り	5.4+	5.4+	1.0	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-2	80	S72 打削	サスカイト	直角直角	抉り	73+	4.7	1.0	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-2	80	S73 打削	サスカイト	直角直角	抉り	30+	4.3+	0.8+	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-1	83	N6 剥離	頁岩	直角直角	1+	6.8+	4.7+	1.0	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-2	84	N21 剥離	頁岩	直角直角	1+	4.3+	3.5+	0.4+	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-2	84	N23 剥離	サスカイト	直角直角	抉り	9.0	5.0	1.3	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-1	85	N36 剥離	頁岩	直角直角	2+	4.7+	4.7	0.8	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-1	85	N38 剥離	サスカイト	直角直角	抉り	10.3	3.9	1.2	前期 II b	中ノ池遺跡 I			
中の池	丸亀市	SLSD-1	85	N42 打削	サスカイト	直角直角	抉り	6.5-	4.2	1.2	前期 II b	中ノ池遺跡 I			

遺跡名	所在地	遺構種別	番号	断面/打撿	石材	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時期	完形	備考	文、紙
中の池	丸龜市	道標外	96	N10	断層	直角直角	2	11.2	4.6	0.8	前期II b?	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	道標外	97	N28	断層	結晶片岩	2+	7.7+	4.6	0.6	前期II b?	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	NSS-D2	97	N328	打撿	直角直角	2	10+	5.0	0.8	前期II b?	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	NSS-D2	97	N3	打撿	直角直角	2	11.7	4.0	1.0	前期II b?	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	道標外	100	N33	打撿	直角直角	なし	7.9+	5.3	1.0	前期II b?	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU003	18	11	打撿	直角直角	2	9.9+	5.2	1.2	前期I c?	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU006	21	29	打撿	結晶片岩	2+	8.5+	4.5	0.7	前期II b	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU009	33	51	打撿	直角直角	2	8.5+	5.4	0.6	前期II b	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU009	33	52	打撿	直角直角	2	6.6+	4.4	0.6	前期II b	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU009	34	53	打撿	直角直角	2	4.9+	4.4+	0.7	前期II b	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU009	35	57	打撿	直角直角	2	7.4+	3.7	0.7	前期II b	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0091	41	39	打撿	直角直角	2	10+	4.5	1.2	前期II b	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0091	41	40	打撿	直角直角	2	5.1+	3.9	1.2	前期II b	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0091	43	74	打撿	安山岩?	2	15.6+	5.8	0.9	前期II a	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0091	44	75	打撿	直角直角	2	5.7+	4.8	0.7	前期II a	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0091	44	76	打撿	直角直角	2	8.5+	5.2	1.2	前期II a	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0091	44	77	打撿	直角直角	2	7.9+	4.9	1.2	前期II a	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0092	41	60	打撿	安山岩?	2+	5.0+	2.9	0.6	前期II b	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0092	42	63	打撿	安山岩	直角直角	2+	6.4+	4.6	0.6	前期II b	/	中の池道跡 II
中の池	丸龜市	SU0092	42	65	打撿	直角直角	2	4.6+	4.6	1.1	前期II b	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0092	44	72	打撿	安山岩?	直角直角	1+	6.0+	5.3	0.8	前期II b	/	中の池道跡 II
中の池	丸龜市	SU0093	74	191	打撿	直角直角	2	7.2	5.0	0.9	前期II b	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0093	77	209	打撿	板岩?	直角直角	3+	9.2+	4.7	0.8	前期II b	/	中の池道跡 II
中の池	丸龜市	SU0093	78	228	打撿	直角直角	2	10.2	5.0	1.2	前期II b?	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0093	103	251	打撿	直角直角	2	12.0	4.4	1.2	前期II c	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0093	103	253	打撿	直角直角	2	9.0+	4.6	1.0	前期II c	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0093	103	255	打撿	直角直角	2	10.9	5.0	1.4	前期II c	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0093	104	256	打撿	直角直角	2	8.8	4.8	1.4	前期II c	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0093	104	257	打撿	直角直角	2	9.8	4.8	1.2	前期II c	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0093	104	268	打撿	直角直角	2	7.8+	5.4	1.1	前期II c	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0093	106	262	打撿	直角直角	2+	8.9+	5.0	0.7	前期II c	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0093	106	263	打撿	結晶片岩	2	9.2+	4.6+	1.0	前期II c	/	中の池道跡 II	
中の池	丸龜市	SU0093	106	264	打撿	安山岩	直角直角	2	10.8	4.8	1.3	前期II c	/	中の池道跡 II

道 路	所在地	固 号	番 号	断面 / 打探	石 村	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時 間	完 形	備 考
中の池	丸亀市	SU0633 岩崎色多質土	109	279	断壁	結晶片岩	直貫孔	1+	6.4+	5.0	1.1	前期Ⅱ b	中の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SU0633 岩崎色多質土	112	292	断壁	安山岩	風化風化	1+	6.0+	5.0+	0.6	前期Ⅱ b	中の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SU0633 屋立小明	113	297	断壁	風化岩	直貫孔	1+	4.8+	5.0	0.8	前期Ⅱ b・Ⅱ c	次の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD134 黒灰色粘土	119	38	打探	安山岩?	風化風化	2+	100+	5.4	0.7	前期Ⅱ b	次の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD134 黑灰色粘土	119	39	打探	サスカイト	直貫直貫?	抉り	6.0+	5.5	0.8	前期Ⅱ b	中の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD134 黑灰色粘土	120	62	断壁	結晶片岩	直貫直貫	2+	28+	4.3	0.8	前期Ⅱ b	中の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD134 黑灰色粘土	120	64	断壁	安山岩	直貫直貫	2+	4.8+	5.0	0.6	前期Ⅱ b	中の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD167 黑褐色粘土質土	128	115	断壁	結晶片岩	直貫直貫	2+	6.1+	3.5	0.7	前期Ⅱ b	中の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD167 黑褐色粘土質土	128	116	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	8.9	4.6	0.9	前期Ⅱ b	中的池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD167 黑褐色粘土質土	128	117	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	8.3+	4.0	1.1	前期Ⅱ b	次の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD167 黑褐色粘土質土	128	118	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	6.6+	4.8	1.2	前期Ⅱ b	中の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD167 黑褐色粘土質土	128	119	打探	サスカイト	風化風化	なし	9.6	3.5	1.0	前期Ⅱ b	完形
中の池	丸亀市	SD167 黑褐色粘土質土	142	20	打探	サスカイト	直貫直貫	なし	128	5.2	1.2	前期Ⅱ b?	中の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD167 黑褐色粘土質土	142	21	断壁	安山岩	直貫直貫	2	9.2+	4.8	0.7	前期Ⅱ b?	中の池道路 9・10 次の池道路
中の池	丸亀市	SD142 黑灰色粘土	52	64	断壁	安山岩	直貫	2+	6.5+	3.4+	0.6	前期Ⅱ b	中の池道路 11~12 中の池道路
中の池	丸亀市	SD142 黑灰色粘土	52	65	打探	サスカイト	風化風化	抉り	11.1	4.4	1.0	前期Ⅱ b	完形
中の池	丸亀市	SD142 黑灰色粘土	53	73	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	128	5.9	1.2	前期Ⅱ b	中の池道路 11~12 中の池道路
中の池	丸亀市	SD142 黑灰色粘土	73	10	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	5.7+	4.4	1.0	前期Ⅱ b	中の池道路 11~12 中の池道路
中の池	丸亀市	SD146 黑褐色粘土	80	63	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	4.8+	5.0	1.2	前期Ⅱ b	中の池道路 11~12 中の池道路
中の池	丸亀市	SD146 黑褐色粘土	80	68	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	4.2+	5.0	1.2	前期Ⅱ b	中の池道路 11~12 中の池道路
中の池	丸亀市	SD146 黑褐色粘土	82	81	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	5.1+	4.4	0.9	前期Ⅱ b	中の池道路 11~12 中の池道路
中の池	丸亀市	SD146 黑褐色粘土	82	82	打探	サスカイト	直貫直貫	なし	106+	5.2	0.9	前期Ⅱ b	中の池道路 11~12 中の池道路
中の池	丸亀市	SD146 黑褐色粘土	93	6	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	6.2+	4.6	1.2	前期Ⅱ b	中の池道路 11~12 中の池道路
中の池	丸亀市	SD120 断面色シルト	48	10	断壁	鶴根岩系の直貫 斜材	直貫	2+	4.8+	3.3	1.0	前期Ⅱ b	中の池道路 12~13 中の池道路
中の池	丸亀市	SD120 断面色シルト	48	11	断壁	安山岩?	直貫直貫	2+	8.4+	4.0	0.7	前期Ⅱ b	中の池道路 12~13 中の池道路
中の池	丸亀市	SD120 断面色シルト	48	12	打探	サスカイト	風化風化	抉り	10.0	5.4	1.1	前期Ⅱ b	完形
中の池	丸亀市	SD293 岩崎色土	53	3	打探	サスカイト	風化風化	抉り	9.6	1.5	0.6	前期Ⅱ b	中の池道路 12~13 中の池道路
中の池	丸亀市	SD294 岩崎色土	56	3	打探	サスカイト	直貫直貫	なし	4.8+	4.2	0.7	前期Ⅱ b?	興津土留谷 1 中の池道路
中の池	丸亀市	SD303 岩崎色粘土	63	5	断壁	安山岩?	直貫直貫	2+	9.9+	5.6	0.8	前期Ⅱ b	中の池道路 12~13 中の池道路
中の池	丸亀市	SD306 岩崎色粘土	71	1	打探	鶴根岩?	直貫直貫	1+	5.0+	3.6	0.7	前期Ⅱ b	中の池道路 12~13 中の池道路
中の池	丸亀市	SD306 岩崎色粘土	71	6	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	4.4+	3.8	0.7	前期Ⅱ b	中の池道路 12~13 中の池道路
中の池	丸亀市	SD309 岩崎色粘土	72	8	打探	サスカイト	直貫直貫	抉り	5.8+	4.6+	1.2	中期Ⅰ	中の池道路 12~13 中の池道路
中の池	丸亀市	SD309 岩崎色粘土	81	14	打探	結晶片岩	直貫直貫	2+	8.8+	5.2	1.1	中期Ⅰ	中の池道路 12~13 中の池道路
中の池	丸亀市	SD306 岩崎色粘土	87	4	断壁	綠色岩?	不明	2	135	3.2+	1.2	前期Ⅱ b	中の池道路 12~13 中の池道路

遺跡名	所在地	遺構	面	番号	説明 / 打製	石 村	平面形	孔	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時 期	断 破	完 形	備 考
中の池	丸龜市 番浦寺町	SU338	89	打製	サスカイト 粘板岩	直貫直刃	2	16.7	5.2	1.4	前期Ⅱ-a	b	/	中の池遺跡：12次 編木	
熊川五条	番浦寺町	N78412など	14	1	打製	サスカイト 粘板岩	直貫直刃	2+	16.7	5.0	0.8	前期Ⅱ b	/	前中期Ⅱ-a開の土器 もあら	
熊川五条	番浦寺町	SU48	165	337	打製	粘晶片岩	直貫直刃	2+	14+	4.1	1.0	前期Ⅱ a	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SU48	166	338	打製	粘晶片岩	直貫直刃	2+	9.3+	5.9	1.0	前期Ⅱ a	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SU49	172	416	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	2+	6.8+	4.5+	0.7	前期Ⅱ a	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SU50	182	824	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	2+	9.9+	4.6	1.3	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SU50	182	825	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	2+	7.8+	7.6+	0.8	前期Ⅱ b	/	ホムのある宝山岩 熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SU50	182	826	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	4.4+	5.3+	0.5	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SU50	192	827	磨耗	粘板岩	直貫直刃	1+	4.6+	5.3+	0.5	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SU50	193	828	磨耗	粘板岩	直貫直刃	1+	5.9+	4.4+	0.8	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SU50	193	830	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	6.8+	4.5+	0.9	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SU50	193	831	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	5.5+	4.3+	0.7	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04下層	22	1102	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	6.3+	5.5+	0.6	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04下層	22	1103	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	5.3+	29+	0.4	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04下層	22	1104	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	4.4+	4.7+	1.0	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04下層	23	1105	打製	サスカイト	直貫直刃	1+	7.6+	5.5	1.2	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04下層	23	1107	打製	サスカイト	直貫直刃	1+	5.5+	4.3+	0.7	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04下層	23	1109	打製	粘晶片岩	直貫直刃	1+	5.5+	4.9+	0.6	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04中層	256	1685	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	6.3+	5.7+	0.6	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04中層	256	1487	打製	サスカイト	直貫直刃	1+	10.7	4.7	1.4	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04上層・支流	256	1488	打製	サスカイト	直貫直刃	1+	9.9+	4.7	1.4	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04上層・支流	256	1504	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	4.4+	5.5+	1.1	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04上層・支流	256	1505	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	8.6+	5.5	0.5	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04上層・支流	246	1506	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	7.0+	4.0+	1.0	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SB04上層・支流	247	1507	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	1+	6.7+	5.2+	0.5	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	II C区包含層	247	1508	磨耗	绿色岩	直貫直刃	不明	6.1+	4.5+	0.7	前期Ⅱ b	/	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	II C区包含層	360	2178	打製	サスカイト	直貫直刃	1+	7.7	4.0	1.9	前期Ⅱ b	? 完形	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	II A区包含層	366	2133	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	不明	4.8+	4.4+	1.0	前期Ⅱ b	? 完形	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	II A区包含層	366	2134	打製	サスカイト	直貫直刃	不明	5.6+	3.9+	1.0	前期Ⅱ b	? 完形	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	II A区包含層	366	2315	打製	サスカイト	直貫直刃	1+	8.1+	5.3	1.2	前期Ⅱ b	? 完形	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	II A区包含層	367	2316	打製	サスカイト	直貫直刃	1+	6.2+	4.2+	0.7	前期Ⅱ b	? 完形	熊川五条遺跡 1	
熊川五条	番浦寺町	SU49	34	2632	磨耗	粘板岩	直貫直刃	2+	6.9	6.3	0.7	前期Ⅱ a	/	熊野東山崎南遺跡	
熊川五条	番浦寺町	SB04	80	3145	磨耗	粘晶片岩	直貫直刃	不明	5.2+	5.0+	1.0	前期Ⅱ b	/	熊野東山崎南遺跡	
熊川五条	番浦寺町	SB05	93	3234	打製	サスカイト	直貫直刃	1+	4.75+	4.6+	0.9	前期Ⅱ b	/	熊野東山崎南遺跡	

第19表 北野遺跡出土土器観察表

番号	地区名	遺物名	種類	器形	外面	内面	調整		土質	法量(cm)	残存率	備考
							外部	内部				
1	1区北	SK07	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	ハケ、削付 サエ、ヘ ミガキ	51Y8.1灰白色 灰白色	51Y8.1灰白色 灰白色	石英・長石 赤色粒・多	-	-
2	0区	SK31	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	51Y8.1灰白色 灰白色	51Y8.2灰白色 灰白色	粗・多	-	-	(21.2) 206 (5.4)
3	0区	SK31	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	51Y8.2灰白色 灰白色	51Y8.2灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
4	0区	SK31	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	51Y8.2灰白色 灰白色	51Y8.2灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
5	0区	SK31	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	51Y8.2灰白色 灰白色	51Y8.2灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
6	0区	SK31	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	51Y8.2灰白色 灰白色	51Y8.3灰白色 灰白色	粗・多・粗・少	-	-	-
7	0区	SK31	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	51Y8.2灰白色 灰白色	51Y8.3灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
8	0区	SK31	弦生土器	縦	ヘラミガキ?	指サエ工	10Y8.2灰白色 灰白色	10Y8.2灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
9	0区	SK31	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	25Y8.1灰白色 灰白色	25Y8.1灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
10	0区	SK31	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	10Y8.2灰白色 灰白色	25Y8.1灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
11	0区	SK31	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	25Y8.2灰白色 灰白色	25Y8.2灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
12	1区北	SD05	弦生土器	縦	ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+	ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+	10Y8.7.3灰白色 灰白色	MYR8.1灰白色 灰白色	中・並・少・細・並・中・並	-	-	-
13	1区北	SD05	弦生土器	縦	ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+	ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+	10Y8.7.4灰白色 灰白色	MYR8.1灰白色 灰白色	中・並・少・細・並・中・並	-	-	-
14	1区北	SD05	弦生土器	縦	ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+	ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+	10Y8.7.4灰白色 灰白色	25Y8.3灰白色 灰白色	中・並・少・細・並・中・並	-	-	-
15	1区北	SD05	弦生土器	縦	ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+	ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+ ハケ+指ナデ+	10Y8.7.4灰白色 灰白色	10Y8.2灰白色 灰白色	中・並・少・細・並・中・並	-	-	-
16	2区東	SD05	弦生土器	縦	横ナデ	横ナデ	10Y8.4灰白色 灰白色	10Y8.4灰白色 灰白色	中・多	-	-	-
17	1区北	SD05	土瓶器	縦	横ナデ	横ナデ	10Y8.2灰白色 灰白色	25Y7.3灰白色 灰白色	細・並	-	-	-
18	1区北	SD05	縄文土器	深林	ヘラミガキ	(磨滅)	25Y7.3灰白色 灰白色	10Y8.2灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
19	2区東	SD05	弦生土器	縦	ヘラミガキ	板ナデ	10Y8.2灰白色 灰白色	10Y8.2灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
20	2区東	SD05	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	10Y8.2灰白色 灰白色	10Y8.2灰白色 灰白色	粗・多	-	-	(4.4) -
21	1区南	SD07	弦生土器	高杯	ヘラミガキ	(磨滅)	10Y8.2灰白色 灰白色	10Y8.3灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
22	1区南	SD07	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	10Y8.2灰白色 灰白色	10Y8.2灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
23	1区南	SD07	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	10Y8.2灰白色 灰白色	10Y8.3灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
24	1区南	SD07	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	10Y8.2灰白色 灰白色	10Y8.3灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
25	1区南	SD07	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	10Y8.2灰白色 灰白色	10Y8.3灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-
26	1区南	SD07	弦生土器	縦	ヘラミガキ	(磨滅)	10Y8.2灰白色 灰白色	10Y8.3灰白色 灰白色	粗・多	-	-	-

番号	地区名	遺傳名	種類	器種	調整			外部	内面	色調			胎土	法量(cm)	残存年	備考			
					外面	内面	表面			石英・赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口徑	器高	底径	長さ	幅	厚
27	1区南	SD07	弦生土器	盃	ヘラミガキ	板ナデ	10YR7.3/1 5.5, 黄褐色	MYR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
28	1区南	SD07	弦生土器	盃	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR7.3/1 5.5, 黄褐色	MYR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
29	1区南	SD07	弦生土器	盃	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR7.2/1 5.5, 黄褐色	MYR8/3	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8
30	1区南	SD07	弦生土器	盃	(摩城)	ヘラミガキ	10YR4.1/1 5.5, 黄褐色	MYR8/4	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8
31	1区北	SD07	弦生土器	盃	ヘラミガキ	ヘラミガキ	5Y4/1 黄褐色	MYR8/4	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8
32	1区北	SD07	弦生土器	甕	(摩城)	甕白	25Y8/2 5.5, 白色	MYR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8
33	1区南	SD07	弦生土器	甕	(摩城)	甕白	10YR7.2/1 5.5, 黄褐色	MYR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
34	1区南	SD07	弦生土器	甕	ヘラミガキ	甕白	10YR7.2/1 5.5, 黄褐色	MYR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
35	1区南	SD07	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ	10YR7.2/1 5.5, 黄褐色	MYR8/1	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
36	1区南	SD07	弦生土器	甕	(摩城)	ヘラミガキ	10YR8/1 5.5, 白色	MYR8/1	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
37	1区南	SD07	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR7.2/1 5.5, 黄褐色	MYR8/3	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
38	1区北	SD07	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR7.2/1 5.5, 黄褐色	25Y7/3	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8
39	1区南	SD07	弦生土器	甕	指オサニ	ヘラミガキ	25Y7/1 5.5, 白色	25Y6/1	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8
40	1区北	SD07	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR8/2 5.5, 白色	10YR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8
44	北野	SD41	弦生土器	盃	ヘラミガキ	指オサエ	10YR7.3/1 5.5, 黄褐色	MYR8/3	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
45	北野	SD41	弦生土器	盃	ヘラミガキ	指オサエ	10YR5/2 5.5, 黄褐色	MYR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
46	北野	SD41	弦生土器	盃	ヘラミガキ	指オサエ	10YR7/2 5.5, 黄褐色	7.5Y7/1 黑色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
47	北野	SD41	弦生土器	盃	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR8/2 5.5, 白色	25Y8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
48	2区西	SD24	弦生土器	盃	ヘラミガキ	指オサエ	10YR5/2 5.5, 黄褐色	MYR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
49	2区西	SD24	弦生土器	盃	指オサエ	指オサエ	10YR8/2 5.5, 白色	10YR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
50	3区南	SD24	弦生土器	盃	ヘラミガキ	ヘラミガキ	GYRS/6 明	7.5YK7/4	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
51	2区西	SD24	弦生土器	盃	ヘラミガキ	指オサエ	10YR7/2/1 5.5, 黄褐色	MYR8/2	粗・多	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8
52	2区西	SD24	弦生土器	盃	指オサエ	指オサエ	10YR7/2/1 5.5, 黄褐色	MYR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
53	3区南	SD24	弦生土器	盃	ヘラミガキ	指オサエ	10YR8/2 5.5, 黄褐色	MYR8/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
54	2区西	SD24	弦生土器	盃	ヘラミガキ	指オサエ	7.5YK7/6 5.5, 黄褐色	7.5YK7/6	粗・多	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8

番号	地区名	測地名	種類	層級	調整			色調	地質	法量(cm)					備考	
					外圓	内圓	外部			石英 長石 蛋白石	赤色粒 白	雲母 少	砂粒 少	口徑 少		
55	3区南	SD24	弥生土器	盃	ハケ	ハケ	ハケ	75YR7.3 ¹ 75YR8.3 ¹ 75YR8.3 ¹ 75YR8.3 ¹	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・細・少	-	-	(158)	-	-	1.8
56	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ 指ササエ ラミガキ	ハテミガキ ハテミガキ ハテミガキ	ハテミガキ ハテミガキ ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・細・少	-	-	(176)	-	-	4.8
57	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ	ハテミガキ	ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・細・少	-	-	(168)	-	-	6.8
58	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・細・少	-	-	-	-	-	1.8
59	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ	ハテミガキ	ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	-	-	-	2.8
60	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・細・少	-	-	(163)	-	-	2.8
61	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(131)	-	-	1.8
62	3区南	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	-	-	-	1.8未満
63	2区西	SD24	弥生土器	盃	(摩城)	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(136)	-	-	1.8未満
64	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ	ハテミガキ	ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・細・少	-	-	-	-	-	1.8
65	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ	ハテミガキ	ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(342)	-	-	1.8未満
66	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ	ハテミガキ	ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(145)	-	-	5.8
67	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ	ハテミガキ	ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中	-	-	136	-	-	6.8
68	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(146)	-	-	2.8
69	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(174)	-	-	1.8
70	2区西	SD24	弥生土器	盃	(摩城)	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(120)	-	-	2.8
71	3区南	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・細・少	-	-	(105)	-	-	3.8
72	3区南	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ	ハテミガキ	ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(156)	-	-	2.8
73	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・細・少	-	-	(181)	-	-	1.8
74	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(169)	-	-	1.8
75	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ	ハテミガキ	ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(176)	-	-	1.8
76	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ	ハテミガキ	ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(157)	-	-	2.8
77	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	ハテミガキ ラミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(158)	-	-	1.8
78	2区西	SD24	弥生土器	盃	ハテミガキ	ハテミガキ	ハテミガキ	75YR7.3 ¹ 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	75YR7.6 75YR8.2 75YR8.2 75YR8.2	粗・多・中・少	-	-	(136)	-	-	2.8

番号	地名	遺構名	性別	器種	調整			施土			法量(cm)			参考		
					外面	内面	外部	内面	外部	内部	石英・赤色粒 長石	角閃石 斜長石	砂粒	口径 器高	底径 厚	
79	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	2.5Y7/2 灰褐色	2.5Y7/2 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 赤褐色	粗・中・少	-	16.4	-	-	6.8
80	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	10YR8/1 灰褐色	10YR8/1 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多・少	-	-	-	-	1.8未満
81	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	7.5Y8/4に 5.5Y8/4に 灰褐色	10YR8/2 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多・少	-	(18.6)	-	-	1.8
82	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	5.5Y8/4に 5.5Y8/4に 灰褐色	10YR8/3 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多・少	-	(16.2)	-	-	2.8
83	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	5.5Y8/4に 5.5Y8/4に 灰褐色	10YR8/3 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多・少	-	(18.4)	-	-	1.8
84	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	7.5Y8/6 灰褐色	7.5Y8/6 灰褐色	10YR8/3 灰褐色	粗・多	-	(16.9)	-	-	6.8
85	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	7.5Y8/2 灰褐色	10YR8/3 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多・中・少	-	(18.4)	-	-	2.8
86	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	7.5Y8/4 灰褐色	10YR8/2 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多	-	(18.0)	-	-	1.8
87	3区南	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	7.5Y8/4 灰褐色	10YR8/3 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多	-	-	-	-	1.8未満
88	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	7.5Y8/6 灰褐色	7.5Y7/6 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多	-	-	-	-	1.8未満
89	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	2.5Y7/2 灰褐色	2.5Y7/2 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多	-	(16.6)	-	-	1.8
90	3区南	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	2.5Y7/1 灰褐色	2.5Y8/2 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多	-	(17.6)	-	-	1.8未満
91	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	10YR8/4 灰褐色	10YR8/4 灰褐色	10YR7/3に 10YR7/3に 灰褐色	粗・多	-	-	-	-	2.8
92	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	10YR8/3 灰褐色	10YR7/2に 10YR7/2に 灰褐色	10YR7/2に 10YR7/2に 灰褐色	粗・多	-	-	-	-	3.8
93	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	5YR8/3 灰褐色	5YR8/3 灰褐色	10YR7/2に 10YR7/2に 灰褐色	粗・多	-	-	-	-	1.8未満
94	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	2.5Y8/2 灰褐色	10YR8/3 灰褐色	10YR7/2に 10YR7/2に 灰褐色	粗・多	-	(10.8)	-	-	3.8
95	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	5YR8/8 灰褐色	5YR8/8 灰褐色	10YR8/2に 10YR8/2に 灰褐色	粗・多	-	(11.5)	-	-	3.8
96	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	5YR8/6 灰褐色	5YR8/6 灰褐色	10YR8/2に 10YR8/2に 灰褐色	粗・多	-	(24.4)	-	-	1.8
97	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	5YR8/6 灰褐色	5YR8/6 灰褐色	10YR8/2に 10YR8/2に 灰褐色	粗・多	-	(22.0)	-	-	1.8
98	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	2.5Y8/1 灰褐色	2.5Y8/2 灰褐色	10YR8/2に 10YR8/2に 灰褐色	粗・多	-	(19.2)	-	-	1.8
99	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	10YR8/2 灰褐色	10YR8/2 灰褐色	10YR8/2に 10YR8/2に 灰褐色	粗・多	-	(12.9)	-	-	1.8
100	2区西	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	7.5Y8/6 灰褐色	7.5Y8/6 灰褐色	10YR8/2に 10YR8/2に 灰褐色	粗・多	-	(13.6)	-	-	2.8
101	3区南	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	7.5Y8/4に 5.5Y8/4に 灰褐色	10YR8/2 灰褐色	10YR8/2に 10YR8/2に 灰褐色	粗・多	-	-	-	-	5.8
102	3区南	SD24	発生土器	液	ヘリミガキ キ、指ササ エ→板ナフ	ヘリミガキ (擦減)	ヘリミガキ (擦減)	2.5Y8/1 灰褐色	2.5Y8/2 灰褐色	10YR8/2に 10YR8/2に 灰褐色	粗・多	-	(23.8)	-	-	1.8未満

番号	地区名	通称名	種類	器種	調整			外部	内面	色調			黏土	法量(cm)	残存年	備考	
					外面	内面	石墨 鉱石			赤色粒 鉱石	雲母	砂粒	口径				
103	2区西	SD24	弦生土器	壺				101YR8.2	MYR8.3	51YR5.6明	粗・多	少	-	-	-	-	2.8
104	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	指すサエ→ ヘラミガキ	51YR5.6明	51YR5.6明	51YR5.6明	粗・多	中・多	-	-	-	-	-	1.8
105	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR5.6明	51YR7.3に 51YR7.3に 51YR7.3に 51YR7.3に	51YR7.1	粗・多	-	-	-	-	-	-	1.8	
106	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR5.6明	51YR5.6明	51YR5.6明	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	1.8
107	2区西	SD24	弦生土器	壺	(塵城)	指すサエ→ ハナケ	51YR7.1	51YR7.1	51YR7.1	粗・多	-	-	-	-	-	-	1.8未調
108	2区西	SD24	弦生土器	壺	指すサエ	51YR7.1に 51YR7.1に 51YR7.1に 51YR7.1に	51YR7.1	51YR7.1	51YR7.1	粗・多	細・少	-	-	-	-	-	1.8未調
109	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	指すサエ→ ヘラミガキ	101YR8.2	101YR8.2	101YR8.2	粗・多	-	-	-	-	-	-	1.8未調
110	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	ハケ→ヘ ヘラミガキ	51YR7.2	51YR7.2	51YR7.2	粗・多	中・少	-	-	-	-	-	1.8未調
111	3区南	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR7.1	51YR7.1	51YR7.1	粗・多	細・少	-	-	-	-	-	-	1.8未調
112	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR7.4	51YR7.4	51YR7.4	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	1.8
113	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR7.4	51YR7.4	51YR7.4	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	1.8未調
114	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR7.8	51YR7.8	51YR7.8	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	2.8
115	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR7.3に 51YR7.3に 51YR7.3に 51YR7.3に	51YR7.3	51YR7.3	51YR7.3	粗・多	少	-	-	-	-	-	3.8
116	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ→ヘ ヘラミガキ	51YR7.1	51YR7.1	51YR7.1	粗・多	-	-	-	-	96	-	-	3.8
117	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	指すサエ→ ハナケ	51YR8.1	51YR8.1	51YR8.1	粗・多	細・少	-	-	-	-	-	7.8
118	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ→ヘ ヘラミガキ	51YR7.1	51YR7.1	51YR7.1	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	1.8
119	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR7.2に 51YR7.2に 51YR7.2に 51YR7.2に	51YR7.2	51YR7.2	51YR7.2	粗・多	細・少	-	-	-	-	-	2.8
120	3区南	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR7.2	51YR7.2	51YR7.2	粗・多	中・少	-	-	-	-	82	-	6.8
121	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハナケ	51YR7.2	51YR7.2	51YR7.2	粗・多	-	-	-	-	80	-	-	6.8
122	3区南	SD24	弦生土器	壺	ハナケ	51YR7.4に 51YR7.4に 51YR7.4に 51YR7.4に	51YR7.4	51YR7.4	51YR7.4	粗・多	-	-	-	(122)	-	4.8	
123	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハナケ	51YR8.2	51YR8.2	51YR8.2	粗・多	-	-	-	-	76	-	-	7.8
124	2区西	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR7.3に 51YR7.3に 51YR7.3に 51YR7.3に	51YR7.3	51YR7.3	51YR7.3	粗・多	-	-	-	89	-	-	6.8
125	3区南	SD24	弦生土器	壺	ヘラミガキ	51YR8.2	51YR8.2	51YR8.2	粗・多	-	-	-	-	-	18.1	-	4.8
126	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハナケ	51YR7.3に 51YR7.3に 51YR7.3に 51YR7.3に	51YR7.3	51YR7.3	51YR7.3	粗・多	-	-	-	80	-	-	4.8
127	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハナケ	51YR7.3	51YR7.3	51YR7.3	粗・多	-	-	-	-	92	-	-	6.8

番号	地区名	通称名	種類	器種	調整			色調			黏土			法量(cm)			備考
					外面	内面	外縁	石英 長石	赤色粒 角閃石	雲母	砂粒	口径	器高	底径	長さ	幅	厚
128	3区南	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7.2/1 5YR8.2/1 5YR8.8/1 10YR8.8/1	粗・多 細・少	-	-	96	-	-	-	-	6.8
129	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7.8/1 5YR8.8/1 10YR8.8/1 10YR8.8/1	粗・多 細・少	-	-	82	-	-	-	-	2.8
130	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3	粗・多 細・少	-	-	91	-	-	-	-	6.8
131	3区南	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7.7/3 10YR7.7/3 10YR7.7/3 10YR7.7/3	粗・多 中・少	-	-	(10.4)	-	-	-	-	4.8
132	2区南	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7.5/2 10YR7.5/2 10YR7.5/2 10YR7.5/2	粗・多 細・少	-	-	114	-	-	-	-	6.8
133	3区南	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7.3/1 5YR7.3/1 5YR7.3/1 5YR7.3/1	粗・多 粗・少	-	-	103	-	-	-	-	2.8
134	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR8.1 10YR8.1 10YR8.1 10YR8.1	粗・多 粗・少	-	-	100	-	-	-	-	4.8
135	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7.2/1 5YR7.2/1 5YR7.2/1 5YR7.2/1	粗・多 細・少	-	-	(10.8)	-	-	-	-	1.8
136	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	粗・多 中・少	-	-	(12.0)	-	-	-	-	2.8
137	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	5YR6.6/6 5YR6.6/6 5YR6.6/6 5YR6.6/6	粗・多 細・少	-	-	130	-	-	-	-	7.8
138	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	粗・多 粗・少	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
139	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR8.4 10YR8.4 10YR8.4 10YR8.4	粗・多	-	-	(19.4)	-	-	-	-	1/8未満
140	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7.6/1 10YR7.6/1 10YR7.6/1 10YR7.6/1	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
141	3区南	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR6.6 10YR6.6 10YR6.6 10YR6.6	粗・多	-	-	(23.2)	-	-	-	-	1/8未満
142	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR5.2 10YR5.2 10YR5.2 10YR5.2	粗・多 粗・少	-	-	(17.6)	-	-	-	-	1.8
143	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR8.4 10YR8.4 10YR8.4 10YR8.4	粗・多 粗・少	-	-	(25.2)	-	-	-	-	1/8未満
144	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	粗・多	-	-	(20.0)	-	-	-	-	1.8
145	2区南	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7.3/1 5YR7.3/1 5YR7.3/1 5YR7.3/1	粗・多	-	-	(22.6)	-	-	-	-	1/8未満
146	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR8.1 10YR8.1 10YR8.1 10YR8.1	粗・多	-	-	(18.0)	-	-	-	-	1.8
147	3区南	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	2.5YR8.2 2.5YR8.2 2.5YR8.2 2.5YR8.2	粗・多	-	-	(17.4)	-	-	-	-	1.8
148	3区南	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7.3/1 5YR7.3/1 5YR7.3/1 5YR7.3/1	粗・多 粗・少	-	-	(18.3)	-	-	-	-	1.8
149	3区南	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR5.2 10YR5.2 10YR5.2 10YR5.2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
150	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
151	3区南	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	2.5YR8.2 2.5YR8.2 2.5YR8.2 2.5YR8.2	粗・多	-	-	(28.5)	-	-	-	-	1/8未満
152	2区西	SD24	弦生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	粗・多 中・少	-	-	(32.6)	-	-	-	-	1/8未満

番号	地区名	測地名	種類	器種	調整			外部	内面	色調			黏土	法量(cm)	残存年	備考			
					外圓	内圓	板ナデ			石英 長石	赤色粒 長石	雲母	砂粒	口径	器高	底径	長さ	幅	厚
153	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ		10YR8.2 灰白色	10YR7.6 灰白色	粗・多	中・少	-	(47.6)	-	-	-	-	-	1/8未満
154	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ		5.5YR7.4 灰白色	10YR8.2 灰白色	粗・多	粗・少	-	(33.8)	-	-	-	-	-	1/8未満
155	3区南	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ→ 指ササエ→ 板ナデ		10YR8.4 灰白色	10YR8.2 灰白色	粗・多	細・少	-	(20.4)	-	-	-	-	-	1/8
156	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ		10YR6.3 灰白色	10YR8.2 灰白色	粗・多	-	-	(48.2)	-	-	-	-	-	1/8未満
157	2区南	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ		10YR7.2 灰白色	10YR8.3 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
158	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハナ・指 オサエ	指ササエ→ ハナ・指 オサエ		10YR7.2 灰黄色	10YR8.2 灰黄色	粗・多	-	-	(14.6)	-	-	-	-	-	2/8
159	3区南	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ		10YR8.2 灰白色	10YR8.2 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
160	3区南	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ→ 指ササエ→ ヘラミガキ		10YR6.4 灰白色	10YR8.4 灰白色	粗・多	粗・少	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
161	3区南	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ		10YR5.1 灰白色	10YR8.2 灰白色	粗・多	細・少	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
162	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ (塵城)	板ナデ		10YR5.1 灰白色	10YR8.1 灰白色	粗・多	粗・少	-	(27.2)	-	-	-	-	-	1/8
163	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ		10YR7.4 灰白色	10YR8.1 灰白色	粗・多	粗・少	-	(21.0)	-	-	-	-	-	1/8
164	3区南	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ→ 指ササエ		10YR7.2 灰白色	10YR8.2 灰白色	粗・多	細・少	-	(30.6)	-	-	-	-	-	1/8未満
165	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ		10YR5.2 灰白色	10YR8.2 灰白色	粗・多	-	-	(17.0)	-	-	-	-	-	3/8
166	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ (塵城)	板ナデ		25YY1 灰白色	50YY1 灰白色	粗・多	-	-	(17.0)	-	-	-	-	-	2/8
167	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指ササエ→ ハナ・指 オサエ		10YR7.3 灰・黄白色	50YY6.6 灰白色	粗・多	中・少	-	(18.6)	-	-	-	-	-	1/8
168	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指ササエ→ ヘラミガキ		25YY1 灰白色	50YY6.6 灰白色	粗・多	-	細・少	(16.4)	-	-	-	-	-	1/8
169	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指ササエ→ ハナ・指 オサエ		10YR5.2 灰白色	25YY7.2 灰白色	粗・多	-	-	(18.2)	-	-	-	-	-	4/8
170	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指ササエ→ ヘラミガキ		10YR5.2 灰白色	25YY8.2 灰白色	粗・多	-	-	(18.2)	-	-	-	-	-	4/8
171	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指ササエ→ ヘラミガキ		10YR5.1 灰白色	10YR6.2 灰白色	粗・多	-	-	(24.6)	-	-	-	-	-	1/8未満
172	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ハナ・指 オサエ		10YR5.3 灰・黄白色	10YR6.2 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8
173	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指ササエ→ 板ナデ		10YR7.2 灰・黄白色	25YY8.2 灰白色	粗・多	-	-	(21.8)	-	-	-	-	-	1/8
174	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指ササエ→ 板ナデ		25YY1 灰白色	10YR7.1 灰白色	粗・多	-	-	(20.2)	-	-	-	-	-	2/8
175	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指ササエ 上		10YR5.2 灰白色	10YR8.2 灰白色	粗・多	-	細・少	(20.7)	-	-	-	-	-	1/8

地名	番号	遺跡名	種類	特徴	調査			内部	外観	色調	施土			法量(cm)	耕作年	参考
					外観	内面	指すサ工				口徑	器高	底径	長さ	幅	厚
175	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR7.2/1~ 10YR8.2	角四石 直白	多	-	(19.6)	-	-	-	-	1.8
177	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR7.2/1~ 10YR8.2	角四石 直白	多	-	(19.3)	-	-	-	-	1.8
178	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2	角四石 直白	多	-	(20.5)	-	-	-	-	1.8未調
179	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2	角四石 直白	多	-	(20.5)	-	-	-	-	5.8
179	3区南	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2	角四石 直白	多	-	(20.5)	-	-	-	-	5.8
179	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2	角四石 直白	多	-	(20.5)	-	-	-	-	5.8
179	3区南	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2	角四石 直白	多	-	(20.5)	-	-	-	-	5.8
180	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2	角四石 直白	多	-	(24.9)	-	-	-	-	1.8未調
181	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2	角四石 直白	多	-	(22.8)	-	-	-	-	1.8未調
182	0	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2	角四石 直白	多	-	-	-	-	-	-	1.8未調
183	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2/1~ 10YR8.2	角四石 直白	多	-	(25.6)	-	-	-	-	2.8
184	3区南	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2/1~ 10YR8.2	角四石 直白	多	-	(34.6)	-	-	-	-	3.8
184	3区南	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2/1~ 10YR8.2	角四石 直白	多	-	(34.6)	-	-	-	-	3.8
185	3区南	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR5.1	角四石 直白	多	-	(27.1)	-	-	-	-	1.8未調
186	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR7.6/1~ 10YR7.6	角四石 直白	多	-	(39.4)	-	-	-	-	1.8未調
187	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR7.6/1~ 10YR7.6	角四石 直白	多	-	(25.8)	-	-	-	-	1.8未調
188	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.3	角四石 直白	多	-	-	-	-	-	-	1.8未調
189	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR7.2/1~ 10YR7.2	角四石 直白	多	-	(24.8)	-	-	-	-	1.8
190	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR7.2/1~ 10YR8.2	角四石 直白	多	-	(16.4)	-	-	-	-	1.8未調
191	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.1	角四石 直白	多	-	(48.0)	-	-	-	-	1.8未調
192	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.1	角四石 直白	多	-	(18.6)	-	-	-	-	1.8
193	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.3/1~ 10YR8.2	角四石 直白	多	-	(23.4)	201	(6.0)	-	-	2.8
194	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR8.2	角四石 直白	多	-	(20.2)	-	-	-	-	1.8未調
195	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR7.2/1~ 10YR7.2	角四石 直白	多	-	(18.4)	-	-	-	-	1.8未調
196	2区西	SD24	発生土器	甕	指すサ工→ハサ	2.575±1 55~187黄褐色	10YR7.2/1~ 10YR7.2	角四石 直白	多	-	(20.0)	-	-	-	-	2.8

番号	地区名	通称名	種類	器種	調整		外部	内面	色調		黏土	法量(cm)	残存年	備考						
					外面	内面			指すサエ→ ヘラミガキ	赤色粒 石英	角閃石 石英	雲母	砂粒	口徑	器高	底径	長さ	幅	厚	
196	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハケ				MYR84-1 55.5×45.5 灰白色	粗・多	-	-	(20.0)	-	-	-	-	-	2.8	
197	2区西	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	指すサエ→ ナテ			MYR84-1 55.5×45.5 灰白色	粗・多	-	-	(25.6)	-	-	-	-	-	1.8	
198	3区南	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	指すサエ→ ナテ			SYR6-6 6.6×6.6 灰白色	粗・多	-	-	中・少	-	-	-	-	-	1.8	
199	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ			LYR6-2 6.6×6.6 灰白色	粗・多・細	少	-	-	(20.4)	-	-	-	-	1.8	
200	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指すサエ→ ナテ			MYR7-4 55.5×45.5 灰白色	粗・多・粗	少	-	-	(22.8)	-	-	-	-	1.8	
201	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指すサエ→ ナテ			SYR6-4 55.5×45.5 灰白色	粗・多・粗	少	-	-	(22.8)	-	-	-	-	1.8	
201	3区南	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	ハケ			MYR8-4 55.5×45.5 灰白色	粗・多・粗	少	-	-	(20.8)	-	-	-	-	1.8	
202	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指すサエ→ ナテ			SYR6-2 55.5×45.5 灰白色	粗・多・中	少	-	-	(22.2)	-	-	-	-	1.8	
203	2区西	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	指すサエ→ ナテ			MYR8-3 55.5×45.5 灰白色	粗・多・中	少	-	-	(18.4)	-	-	-	-	1.8	
204	2区西	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	指すサエ→ ナテ			SYR6-2 55.5×45.5 灰白色	粗・多・粗	少	-	-	(27.2)	-	-	-	-	1.8	
205	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指すサエ→ ナテ			SYR6-1 55.5×45.5 灰白色	粗・多	-	-	-	(21.4)	-	-	-	-	1.8	
206	3区南	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指すサエ→ ナテ			SYR5-2 55.5×45.5 灰白色	粗・多	-	-	-	-	(17.2)	-	-	-	-	1.8
207	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラハラ 一版ナテ	指すサエ→ ナテ			MYR8-3 55.5×45.5 灰白色	粗・多・細	少	-	-	(26.8)	-	-	-	-	2.8	
208	2区西	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	指すサエ→ ナテ			SYR6-6 6.6×6.6 灰白色	粗・多・中	少	-	-	-	-	-	-	-	1.8	
209	3区南	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	指すサエ→ ナテ			MYR7-4 55.5×45.5 灰白色	粗・多	-	-	-	(20.8)	-	-	-	-	2.8	
210	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指すサエ→ ナテ			SYR7-3 55.5×45.5 灰白色	粗・多	-	-	-	(20.4)	-	-	-	-	1.8	
211	2区西	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	ハケ			SYR7-3 55.5×45.5 灰白色	粗・多	中	少	-	-	-	-	-	-	1.8	
211	2区西	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	ハケ			SYR7-3 55.5×45.5 灰白色	粗・多	中	少	-	-	-	-	-	-	1.8	
212	2区西	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	板ナデ			MYR5-2 55.5×45.5 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	
213	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指すサエ→ ナテ			SYR7-1 55.5×45.5 灰白色	粗・多	中	少	-	(27.1)	-	-	-	-	2.8	
213	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指すサエ→ ナテ			SYR7-1 55.5×45.5 灰白色	粗・多	中	少	-	(27.1)	-	-	-	-	2.8	
214	2区西	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	指すサエ→ ナテ			SYR7-6 6.6×6.6 灰白色	粗・多	中	少	-	(42.4)	-	-	-	-	1.8	
215	2区西	SD24	弦生土器	甕	（廢城） 一版ナテ	指すサエ→ ナテ			SYR5-6 6.6×6.6 灰白色	粗・多	-	-	-	(25.4)	-	-	-	-	2.8	
216	2区西	SD24	弦生土器	甕	ヘラミガキ	指すサエ→ ナテ			SYR7-3 55.5×45.5 灰白色	粗・多	-	-	-	(21.4)	-	-	-	-	1.8	

番号	地区名	通称名	種類	器種	調整			色調	黏土	法量(cm)							備考	
					外面	内面	指オサエ 板ナフヘ リナフ			石英・ 長石	赤色粒 角閃石	雲母	砂粒	口径	器高	底径	長さ	幅
216	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・黄褐色	10YR5/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・中・少	-	-	-	-	(196)	-	-	-	-	1.8未満
217	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・黄褐色	10YR5/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・中・少	-	-	-	-	(332)	-	-	-	-	1.8未満
218	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・白	10YR5/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・中・少	-	-	-	-	(156)	-	-	-	-	1.8
219	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・白	10YR5/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・中・少	-	-	-	-	(130)	-	-	-	-	1.8未満
220	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/3 灰・黄褐色	10YR5/3 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/3 灰・中・少	-	-	-	-	(152)	-	-	-	-	1.8
221	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/3 灰・黄褐色	10YR5/3 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/3 灰・中・少	-	-	-	-	(152)	-	-	-	-	2.8
221	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/3 灰・黄褐色	10YR5/3 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/3 灰・中・少	-	-	-	-	(152)	-	-	-	-	2.8
222	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/3 灰・白	10YR5/3 灰・白	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/3 灰・白	-	-	-	-	(152)	-	-	-	-	2.8
222	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・白	10YR5/2 灰・白	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・白	-	-	-	-	(224)	-	-	-	-	1.8
223	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・白	10YR5/2 灰・白	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・白	-	-	-	-	(188)	-	-	-	-	2.8
223	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・白	10YR5/2 灰・白	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・白	-	-	-	-	(160)	-	-	-	-	2.8
223	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・白	10YR5/2 灰・白	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・白	-	-	-	-	(160)	-	-	-	-	2.8
223	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・白	10YR5/2 灰・白	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・白	-	-	-	-	(187)	-	-	-	-	2.8
224	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR7/2 灰・黄褐色	10YR7/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR7/2 灰・中・少	-	-	-	-	(182)	-	-	-	-	1.8未満
225	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR7/2 灰・黄褐色	10YR7/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR7/2 灰・中・少	-	-	-	-	(179)	-	-	-	-	1.8未満
225	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR7/2 灰・黄褐色	10YR7/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR7/2 灰・中・少	-	-	-	-	(144)	-	-	-	-	7.8
226	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・黄褐色	10YR5/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・中・少	-	-	-	-	(154)	-	-	-	-	1.8未満
227	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・黄褐色	10YR5/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・中・少	-	-	-	-	(102)	-	-	-	-	3.8
228	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・黄褐色	10YR5/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・中・少	-	-	-	-	(102)	-	-	-	-	3.8
228	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/2 灰・黄褐色	10YR5/2 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/2 灰・中・少	-	-	-	-	(168)	-	-	-	-	1.8未満
229	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/6 灰・黄褐色	10YR5/6 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/6 灰・中・少	-	-	-	-	(224)	-	-	-	-	1.8未満
230	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/3 灰・黄褐色	10YR5/3 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/3 灰・中・少	-	-	-	-	(152)	-	-	-	-	1.8
231	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/3 灰・黄褐色	10YR5/3 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/3 灰・中・少	-	-	-	-	(152)	-	-	-	-	1.8未満
232	2区西	SD24	弥生土器	甕	10YR5/3 灰・黄褐色	10YR5/3 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR5/3 灰・中・少	-	-	-	-	(152)	-	-	-	-	1.8未満
233	3区南	SD24	弥生土器	甕	10YR7/4 灰・黄褐色	10YR7/4 灰・中・少	指オサエ 板ナフヘ リナフ	10YR7/4 灰・中・少	-	-	-	-	(152)	-	-	-	-	1.8

番号	地区名	通称名	種類	器種	調整			外部	内部	色調	胎土	法量(cm)					残存年	備考			
					外面	内面	板ナデ					石英	赤色粒 角閃石	雲母	砂粒	口径	器高	底径	長さ	幅	厚
234	2区西	SD24	弦生土器	甕	板ナデ	板ナデ	板ナデ	10YR4/1 5.5y.黄褐色	10YR4/1 5.5y.黄褐色	10YR4/3 5.5y.黄褐色	板・多	少	-	-	(64)	-	-	-	-	4.8	
235	2区西	SD24	弦生土器	甕	板ナデ	板ナデ	板ナデ	10YR4/1 5.5y.黄褐色	10YR4/1 5.5y.黄褐色	10YR4/3 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(66)	-	-	-	-	8.8	
236	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハゲ	ハゲ	板ナデ	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR7/3 5.5y.黄褐色	板・多	少	-	-	(80)	-	-	-	-	6.8	
237	3区南	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR7/2 5.5y.黄褐色	板・多	中	少	-	(86)	-	-	-	-	5.8	
238	2区西	SD24	弦生土器	甕	板ナデ	板ナデ	板ナデ	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR7/3 5.5y.黄褐色	板・多	少	-	-	(95)	-	-	-	-	7.8	
239	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR7/3 5.5y.黄褐色	板・多	少	-	-	(68)	-	-	-	-	6.8	
240	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR5/1 5.5y.黄褐色	10YR5/1 5.5y.黄褐色	10YR6/2 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(64)	-	-	-	-	7.8	
241	2区西	SD24	弦生土器	甕	板ナデ	板ナデ	板ナデ	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR7/2 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(78)	-	-	-	-	6.8	
242	2区西	SD24	弦生土器	甕	板ナデ	板ナデ	板ナデ	10YR5/2 5.5y.黄褐色	10YR5/2 5.5y.黄褐色	10YR6/3 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(85)	-	-	-	-	5.8	
243	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR5/3 5.5y.黄褐色	10YR5/3 5.5y.黄褐色	10YR6/2 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(76)	-	-	-	-	5.8	
244	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハナツカ	ハナツカ	板ナデ	10YR5/2 5.5y.黄褐色	10YR5/2 5.5y.黄褐色	10YR6/2 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(71)	-	-	-	-	6.8	
245	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR5/2 5.5y.黄褐色	10YR5/2 5.5y.黄褐色	10YR6/3 5.5y.黄褐色	板・多	中	少	-	(68)	-	-	-	-	4.8	
246	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR5/2 5.5y.黄褐色	10YR5/2 5.5y.黄褐色	10YR6/2 5.5y.黄褐色	板・多	中	少	-	(68)	-	-	-	-	4.8	
247	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR6/2 5.5y.黄褐色	10YR7/2 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(73)	-	-	-	-	7.8	
248	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR6/8 5.5y.黄褐色	10YR6/8 5.5y.黄褐色	10YR7/2 5.5y.黄褐色	板・多	中	少	-	(64)	-	-	-	-	3.8	
249	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR7/2 5.5y.黄褐色	10YR7/2 5.5y.黄褐色	10YR8/2 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(87)	-	-	-	-	2.8	
250	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR8/2 5.5y.黄褐色	10YR8/2 5.5y.黄褐色	10YR9/2 5.5y.黄褐色	板・多	中	少	-	(73)	-	-	-	-	7.8	
251	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR9/2 5.5y.黄褐色	10YR9/2 5.5y.黄褐色	10YR10/2 5.5y.黄褐色	板・多	中	少	-	(86)	-	-	-	-	3.8	
252	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR10/2 5.5y.黄褐色	10YR10/2 5.5y.黄褐色	10YR11/2 5.5y.黄褐色	板・多	中	少	-	(82)	-	-	-	-	7.8	
253	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR7/6 5.5y.黄褐色	10YR7/6 5.5y.黄褐色	10YR8/3 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(82)	-	-	-	-	2.8	
254	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR7/2 5.5y.黄褐色	10YR7/2 5.5y.黄褐色	10YR8/4 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(71)	-	-	-	-	5.8	
255	2区西	SD24	弦生土器	甕	ハラミガキ	ハラミガキ	板ナデ	10YR7/2 5.5y.黄褐色	10YR7/2 5.5y.黄褐色	10YR7/2 5.5y.黄褐色	板・多	-	-	-	(72)	-	-	-	-	5.8	

番号	地区名	通称名	種類	器種	調整			色調			黏土			法量(cm)		
					外面	内面	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	
256	2区西	SD24	弥生土器	甕	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	101YR6/2 55YR6/4 灰黄褐色	75YR6/4 55YR6/4 灰黄褐色	粗・多・粗・少	少	-	-	(7.2)	-
257	2区西	SD24	弥生土器	甕	(無誠)	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	101YR5/1 55YR5/3 灰黄褐色	101YR7/3 55YR7/3 灰黄褐色	粗・多	-	-	-	(10.4)	-
258	2区西	SD24	弥生土器	鉢	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	101YR5/1 55YR5/3 灰黄褐色	101YR7/3 55YR7/3 灰黄褐色	粗・多・中・少	-	-	-	(20.1)	-
259	2区西	SD24	弥生土器	鉢	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	101YR7/6 55YR7/6 灰褐色	101YR7/6 55YR7/6 灰褐色	粗・多・中・少	-	-	-	(24.3)	-
260	3区南	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR7/6 55YR7/6 灰褐色	101YR7/2 55YR7/2 灰褐色	粗・多・中・少	-	-	-	(24.4)	-
261	2区西	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR6/4 55YR6/4 灰褐色	101YR7/2 55YR7/2 灰褐色	粗・多・粗・少	-	-	-	(23.0)	-
262	2区西	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR8/2 55YR8/2 灰褐色	101YR8/2 55YR8/2 灰褐色	粗・多・中・少	-	-	-	(23.0)	-
263	2区西	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR7/6 55YR7/6 灰褐色	101YR8/2 55YR8/2 灰褐色	粗・多	-	-	-	(25.2)	-
264	2区西	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR6/4 55YR6/4 灰褐色	101YR6/4 55YR6/4 灰褐色	粗・多	-	-	-	(26.0)	-
265	2区西	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR6/8 55YR6/8 灰褐色	101YR6/8 55YR6/8 灰褐色	粗・多	-	-	-	(60.0)	-
266	2区西	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR6/8 55YR6/8 灰褐色	101YR6/8 55YR6/8 灰褐色	粗・多	-	-	-	(50.0)	-
267	2区西	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR8/2 55YR8/2 灰褐色	101YR8/2 55YR8/2 灰褐色	粗・多・細・少	-	-	-	(12.0)	8.8
268	2区西	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR8/2 55YR8/2 灰褐色	101YR8/2 55YR8/2 灰褐色	粗・多	-	-	-	(7.2)	-
269	2区西	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR7/3 55YR7/3 灰褐色	101YR7/3 55YR7/3 灰褐色	粗・多・中・少	-	-	-	(15.2)	-
Z70	3区南	SD24	弥生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	101YR7/3 55YR7/3 灰褐色	101YR7/3 55YR7/3 灰褐色	粗・多・中・少	-	-	-	(15.2)	-
Z71	2区西	SD24	弥生土器	鉢	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	101YR8/2 55YR8/2 灰褐色	101YR8/2 55YR8/2 灰褐色	粗・多・粗・並	-	-	-	(48.2)	-
Z72	2区西	SD24	弥生土器	鉢	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	101YR7/3 55YR7/3 灰褐色	101YR7/3 55YR7/3 灰褐色	粗・多	-	-	-	(46.6)	-
Z73	2区西	SD24	弥生土器	鉢	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	101YR7/3 55YR7/3 灰褐色	101YR7/3 55YR7/3 灰褐色	粗・多・粗・少	-	-	-	(26.8)	-
Z74	2区西	SD24	弥生土器	鉢	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	101YR7/6 55YR7/6 灰褐色	101YR7/6 55YR7/6 灰褐色	粗・多・粗・少	-	-	-	(19.8)	-
Z75	2区西	SD24	弥生土器	鉢	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	51YR1灰 75YR7/6 灰褐色	51YR1灰 75YR7/6 灰褐色	粗・多	-	-	-	(7.2)	-
Z76	2区西	SD24	弥生土器	鉢	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	指サエ工 →ハナ	51YR1灰 75YR7/6 灰褐色	51YR1灰 75YR7/6 灰褐色	粗・多・細・少	-	-	-	(7.2)	-

番号	地区名	測地名	種類	器種	調整	内面	外部	色調	粘土		法量(cm)	残存率	備考						
									石墨 鉱石	赤色粒 鉱石	雲母	砂粒	口徑	器高	底径	長さ	幅	厚	
277	2区西	SD24	弦生土器	鉢	指オサエ	25Y8/2 灰白色	25Y8/3 灰白色	粗・多・細・少	-	-	6.3	-	-	-	-	-	-	-	2.8
278	2区西	SD24	弦生土器	高杯	ハケ→ハ ラミガキ	25Y8/2 灰白色	25Y8/3 灰白色	粗・多・細・少	-	-	(10.0)	-	-	-	-	-	-	-	3.8
279	3区南	SD24	弦生土器	不明	指オサエ	10YR6/2 灰白色	10YR7/2 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	34	-	-	-	6.8
280	2区西	SD24	弦生土器	蓋	ヘラミガキ	25Y8/2 灰白色	25Y8/3 灰白色	粗・多	-	-	(19.7)	-	-	-	-	-	-	-	6.3
281	2区南	SD24	弦生土器	蓋	ハケ	25Y8/6 灰白色	10YR7/3 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8
282	2区西	SD24	弦生土器	蓋	ヘラミガキ	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.6
283	2区西	SD24	弦生土器	蓋	指オサエ →瓶ナシ	10YR6/2 灰黄色	10YR7/2 灰黄色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8
284	2区西	SD24	弦生土器	蓋	瓶ナシガキ	10YR7/3 (磨滅)	10YR7/3 灰黄色	粗・多・中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.4
285	3区南	SD24	弦生土器	蓋	指オサエ	25Y8/2 灰白色	25Y8/3 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.8
286	2区西	SD24	弦生土器	蓋	指オサエ	25Y8/2 灰白色	25Y8/2 灰白色	粗・多・中・少	-	-	(10.7)	40	-	-	-	-	-	-	4.8
287	2区西	SD24	土製品	粘土質	ヘラミガキ	25Y7/2 灰白色	10YR7/3 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8
288	2区西	SD24	土製品	粘土質	ヘラミガキ	10YR6/1 灰白色	10YR6/3 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8
289	2区西	SD24	土製品	粘土質	ヘラミガキ	10YR8/2 (磨滅)	10YR8/3 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
290	2区西	SD24	土製品	粘土質	-	-	-	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8
438	3区南	SD25	弦生土器	蓋	ヘラミガキ	10YR7/3 灰白色	10YR7/2 灰白色	粗・多・中・並	-	-	(16.6)	-	-	-	-	-	-	-	2.8
439	3区南	SD25	弦生土器	蓋	ヘラミガキ	25Y8/1 灰白色	10YR7/3 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8
440	3区南	SD25	弦生土器	蓋	(磨滅)	25Y7/1 灰白色	25Y7/1 灰白色	粗・多・中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
441	3区南	SD25	弦生土器	蓋	ヘラミガキ	25Y8/2 灰白色	10YR7/2 灰白色	粗・多・細・少	-	-	-	-	-	-	(4.0)	-	-	-	6.8
442	3区南	SD25	弦生土器	蓋	(磨滅)	10YR5/2 灰白色	10YR5/3 灰白色	中・並	-	-	-	-	-	-	6.7	-	-	-	6.8
443	3区南	SD25	弦生土器	蓋	ナシ	5YR6/6 紅色	5YR6/6 紅色	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.6
444	3区南	SD25	弦生土器	蓋	ヘラミガキ	5YR6/6 紅色	10YR7/2 灰白色	粗・多	-	-	(16.2)	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
445	3区南	SD25	弦生土器	蓋	ヘラミガキ	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	粗・多・細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
446	3区南	SD25	弦生土器	蓋	ヘラミガキ	KN2/6 灰白色	10YR3/3 灰白色	粗・多・中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
447	3区南	SD25	弦生土器	蓋	ヘラミガキ	10YR6/2 灰白色	10YR7/3 灰白色	粗・多	-	-	(21.8)	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
448	3区南	SD25	弦生土器	蓋	ナシ	指オサエ →瓶ナシ	10YR7/2 灰白色	粗・多	-	-	-	-	-	-	8.8	-	-	-	5.8

番号	地区名	通称名	種類	断面	調査		外部	内面	色画		断土	石英	長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口徑	凹凸	底径	幅	厚	長さ	幅	厚	その他の特徴	備考
					外画	内面			指ササエ →板ナデ	指サエ →板ナデ																	
448	3区南	SD25	弦生土器	要	ハテ	ヘラミガキ	25YR7.3に 似る黄褐色	25YR7.2に 似る黄褐色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8
449	3区南	SD25	弦生土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	53YR6/2 灰褐色	53YR6/2 灰褐色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	(287)	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8米端
450	3区南	SD25	土製品	粘土質 ナデ	ナデ	ヘラミガキ	25YR7.3 浅黄色	25YR7.3 浅黄色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多・中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無
451	3区南	SD25	土製品	粘土質 ナデ	ナデ	ヘラミガキ	25YR6/6 橙色 灰白色	25YR6/6 橙色 灰白色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多・中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無
452	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	25YR7.3 浅黄色	25YR7.3 浅黄色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	(212)	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
453	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR8/3 浅黄色	10YR8/3 浅黄色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多・細・並	-	-	-	-	-	-	(206)	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8米端
454	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR8/4 灰白色	10YR8/4 灰白色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多・中・少	-	-	-	-	-	-	(192)	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
455	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多・細・並	-	-	-	-	-	-	(188)	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8
456	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR8/3 灰白色	10YR8/3 灰白色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	(146)	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
457	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR8/1 灰白色	10YR8/1 灰白色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多・細・並	-	-	-	-	-	-	(146)	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
458	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多・細・並	-	-	-	-	-	-	(146)	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8
459	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR6/3 灰白色	10YR6/3 灰白色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多・細・並	-	-	-	-	-	-	(146)	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
460	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR6/3 灰白色	10YR6/3 灰白色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多・細・並	-	-	-	-	-	-	(146)	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
461	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR7/3 灰白色	10YR7/3 灰白色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8米端
462	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR7/3 灰白色	10YR7/3 灰白色	DYR5/1	DYR5/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
463	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR7/6 灰白色	10YR7/6 灰白色	DYR5/4	DYR5/4	粗・多・中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8米端
464	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR6/8 灰白色	10YR6/8 灰白色	DYR5/6	DYR5/6	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
465	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR7/3 灰白色	10YR7/3 灰白色	DYR5/1	DYR5/1	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8
466	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR7/6 灰白色	10YR7/6 灰白色	DYR5/1	DYR5/1	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8
467	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR7/3 灰白色	10YR7/3 灰白色	DYR5/1	DYR5/1	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8米端
468	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR6/6 橙色 灰白色	10YR6/6 橙色 灰白色	DYR5/2	DYR5/2	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8米端
469	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR7/3 灰白色	10YR7/3 灰白色	DYR5/3	DYR5/3	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
470	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR7/4 灰白色	10YR7/4 灰白色	DYR5/1	DYR5/1	粗・多・細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
471	3区南	SD25	弦生土器	盃	盃	ヘラミガキ	10YR7/4 灰白色	10YR7/4 灰白色	DYR5/1	DYR5/1	粗・多・細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8

番号	地区名	通称名	種類	器種	調整		外部	内面	色調	黏土	法量(cm)						備考			
					外觀	内觀					石英 長石	赤色粒 角閃石	雲母	砂粒	口徑	器高	底径	長さ	幅	厚
472	3区南	SD26	弦生土器	鉢	指すサエ** ヘラミガキ	ヘラケ	25Y8/3 泥黄色	25Y8/3 泥黄色	赤	粗・多	-	-	(31.4)	-	-	-	-	-	-	1.8
473	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	25Y4/1 黒褐色	25Y4/1 黒褐色	赤	粗・多	-	-	(20.0)	-	-	-	-	-	-	1.8
474	3区南	SD26	弦生土器	甕	(攀城)	(攀城)	10Y3/2 灰白色	25Y8/2 泥黄色	赤	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
475	3区南	SD26	弦生土器	甕	(攀城)	(攀城)	10Y7/5.2 灰黄褐色	10Y7/5.2 灰黄褐色	赤	粗・多	-	-	(15.2)	-	-	-	-	-	-	3.8
476	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	25Y7/3 淡黄色	25Y7/3 淡黄色	赤	粗・多	-	-	15.5	-	-	-	-	-	-	1.8
477	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	10Y7/8.2 灰白色	10Y8/2 灰白色	赤	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
478	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	10Y8/3 灰白色	10Y8/3 灰白色	赤	粗・多	-	-	(17.6)	-	-	-	-	-	-	2.8
478	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	10Y8/3 灰白色	10Y8/3 灰白色	赤	粗・多	-	-	(17.6)	-	-	-	-	-	-	2.8
478	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	10Y8/3 灰白色	10Y8/3 灰白色	赤	粗・多	-	-	(17.6)	-	-	-	-	-	-	2.8
479	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	10Y8/6.2 灰黄褐色	10Y8/6.2 灰黄褐色	赤	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8
479	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	10Y8/6.2 灰黄褐色	10Y8/6.2 灰黄褐色	赤	粗・多	-	-	(20.8)	-	-	-	-	-	-	3.8
479	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	10Y8/6.2 灰黄褐色	10Y8/6.2 灰黄褐色	赤	粗・多	-	-	(20.8)	-	-	-	-	-	-	3.8
480	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	25Y6/2 淡黄色	25Y7/3 淡黄色	赤	粗・多	-	-	(21.6)	-	-	-	-	-	-	2.8
480	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	25Y6/2 淡黄色	25Y7/3 淡黄色	赤	粗・多	-	-	(21.6)	-	-	-	-	-	-	2.8
481	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケ	10Y7/4.1 灰白色	10Y8/2 灰白色	赤	粗・多・細・少	-	-	(20.8)	-	-	-	-	-	-	1.8未満
482	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	(攀城)	10Y7/4.2 灰白色	10Y8/2 灰白色	赤	粗・多	-	-	(22.0)	-	-	-	-	-	-	1.8
483	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	板ナデ	10Y7/6.3 灰白色	7.5YR6/1 灰白色	赤	粗・多	-	-	(19.0)	-	-	-	-	-	-	1.8未満
484	3区南	SD26	弦生土器	甕	ヘラミガキ	(攀城)	10Y7/6.2 灰白色	10Y8/2 灰白色	赤	粗・多・中・少	-	-	(18.3)	-	-	-	-	-	-	1.8
485	3区南	SD26	弦生土器	甕	ナデ	ナデ	10Y7/8.2 灰白色	10Y8/2 灰白色	赤	粗・多・細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
486	3区南	SD26	弦生土器	直口甕	ヘラミガキ	ハケ	10Y1/8.2 灰白色	7.5YR7/6 灰白色	赤	粗・並・細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8
487	3区南	SD26	弦生土器	甕	糊ナデ	糊ナデ	10Y7/8.4 灰白色	5YR6/6 紅褐色	赤	粗・並・細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
488	3区南	SD26	弦生土器	直口甕	(攀城)	ハケ	10Y7/3.1 灰白色	10Y7/3.1 灰白色	赤	中・少・細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
489	3区南	SD26	弦生土器	高杯	糊ナデ	糊ナデ	10Y7/4.1 灰白色	10Y7/4.1 灰白色	赤	粗・少・細・並・細・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	香東川 下流域
507	0区	SR31	繩文土器	深杯	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10Y7/5.2 灰白色	10Y7/5.2 灰白色	赤	粗・多	-	-	(18.5)	-	-	-	-	-	-	1.8未満
508	0区	SR31	繩文土器	浅杯	ヘラミガキ	ヘラミガキ	5Y2/1 黑色	5Y2/1 黑色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満

番号	地区名	測線名	種類	断面	調査		地質	断土	法量(cm)	残存率	備考
					外因	内因					
509	0区	SR31	縄文土器	深鉢	ヘラミガキ?	ヘラミガキ	25Y6'31:	25Y7'3	-	-	-
510	0区	SR31	縄文土器	深鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	25Y7'2	N2' 塗色	粗・多	-	-
512	0区	SR31	不明	(摩城)	ハケ	25Y7'3	25Y6'2	粗・多	-	-	1/8未満
513	0区	SR31	縄文土器	深鉢	ハケ	10YR7'2	10YR6'3	粗・多	-	56	1/8未満
515	1区南	SR01	縄文土器	深鉢	ヘラミガキ	10YR5'6	10YR5'3	粗・多	-	-	1/8未満
516	1区南	SR02	弦生土器	高杯	ヘタケズ ナダ	10YR5'3	10YR5'2	粗・少	-	-	1/8未満
517	3区南	SR04	弦生土器	甕	ハケ+横ナダ	10YR7'3	10YR5'2	中・少	-	-	1/8未満
518	3区南	SR04	弦生土器	甕	横ナダ	10YR5'2	10YR5'1	粗・少	-	-	1/8未満
519	3区南	SR04	弦生土器	甕	横ナダ	10YR7'2	10YR7'2	中・少	-	-	1/8未満
520	2区西	SR04	弦生土器	高杯	ヘタケズ ナダ+横ナダ	25Y7'3	25Y7'3	中・少	-	-	3.8
521	3区南	SR04	弦生土器	高杯	ハケ	10YR8'2	10YR8'2	中・少	-	-	1/8未満
522	3区南	SR04	弦生土器	高杯	ハケ+ハベ	10YR7'3	10YR7'3	粗・多・少	-	-	1/8未満
523	2区西	SR04	縦型器	杯	別輪ナダ+側 輪ナダ	NS' 黄色	NS' 黄色	-	-	細・少	6.8
523	2区西	SR04	縦型器	杯	別輪ナダ+側 輪ナダ	NS' 黄色	NS' 黄色	-	-	細・少	6.8
524	3区南	SR04	弦生土器	甕	ヘラミガキ	25Y7'2	25Y8'2	粗・多	-	-	2.8
525	3区南	SR04	弦生土器	甕	ヘラミガキ	25Y6'2	25Y6'2	粗・多	-	-	2.8
526	3区南	SR04	弦生土器	甕	ヘラミガキ	10YR5'4	10YR5'4	粗・少	-	-	1/8
527	3区南	SR04	弦生土器	甕	ヘラミガキ	10YR6'6	10YR7'6	粗・多	-	-	1/8
528	3区南	SR04	弦生土器	甕	ヘラミガキ	25Y8'2	25Y7'3	粗・少	-	-	1/8未満
529	2区西	SR04	弦生土器	甕	ヘラミガキ	25Y8'2	25Y8'2	粗・多	-	-	1/8未満
530	3区南	SR04	弦生土器	鉢	指ナダ+エテ ナダ?	25Y8'2	25Y8'2	粗・多	-	34.6	1/8未満
531	3区南	SR04	弦生土器	鉢	ヘラミガキ	25Y7'4	10YR7'4	粗・少	-	-	1/8未満
532	3区南	SR04	弦生土器	甕	指ナダ+エテ ナダ?	10YR6'3	10YR6'3	粗・少	-	-	1/8
533	3区南	SR04	弦生土器	甕	ヘラミガキ	25Y7'3	25Y7'3	粗・少	-	-	2.8
534	2区西	SR04	弦生土器	甕	ヘラミガキ	10YR7'3	10YR7'3	粗・少	-	-	1/8未満

第20表 北野遺跡出土土製品觀察表

番号	地区名	遺物名	種類	備考
565	2区西	SD24	粘土塊	
566	2区西	SD24	粘土塊	分析試料
567	2区西	SD24	粘土塊	分析試料
607	3区南	SD25	粘土塊	写真のみ
608	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
609	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
610	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
611	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
612	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
613	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
614	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
615	1区南	SD07	粘土塊	写真のみ
616	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
617	1区南	SD07	粘土塊	写真のみ
618	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
619	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
620	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ
621	2区西	SD24	粘土塊	写真のみ

第21表 北野遺跡出土石器觀察表

番号	地区名	遺物名	石材	圓盤	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
21	1区北	SD05	サスカイト	石板	5.2	11.4	1.1	73.88	
22	1区南	SD07	サスカイト	砂岩	9.1	7.5	1.1	303.9	
41	1区南	SD09	サスカイト	石板	17.6	6.8	2.3	261.7	
42	1区南	SD09	サスカイト	石板	1.8	1.5	0.3	0.7	
43	1区南	SD09	サスカイト	石板	4.3	3.4	1.2	18.6	
291	3区南	SD24	サスカイト	石板	7.45	4.5	1	40.18	
292	2区西	SD24	サスカイト	石板	6.5	5.6	0.9	37.54	
293	3区南	SD24	サスカイト	石板	8	4.3	0.7	24.29	
294	3区南	SD24	サスカイト	石板	5.4	4.5	0.8	1.24	
295	2区西	SD24	サスカイト	石板	4	4	0.75	11.13	
296	2区西	SD24	サスカイト	石板	3.7	3.9	0.7	10.66	
297	2区西	SD24	サスカイト	石板	8.2	3.3	0.8	30.02	
298	2区西	SD24	サスカイト	石板	7.8	3.6	0.7	15.58	
299	2区西	SD24	サスカイト	石板	7.4	3.2	1	21.33	
300	2区西	SD24	サスカイト	石板	8.4	2.3	0.9	10.99	
301	2区西	SD24	サスカイト	石板	4.5	4.5	1.2	22.26	
302	3区南	SD24	サスカイト	石板	5.8	3.9	1.05	25.03	

番号	地区名	通称名	石材	断面	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
303	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	4.7	5.1	0.9	24.81
304	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	6.7	5.8	1.3	49.73
305	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	6.1	3.5	1	16.49
306	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	6.3	3.9	0.9	23.99
307	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	4.9	4	0.6	11.93
308	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	2.1	1.65	0.4	1.36
309	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	2.3	2.5	0.5	2.83
310	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	2.9	1.6	0.4	2.16
311	3区南	SD24	サスカイト	スクレイバー	2.5	3.3	0.8	4.9
312	2区西・3区南	SD24	サスカイト	スクレイバー	3.3	3.2	0.4	5.45
313	2区西・3区南	SD24	サスカイト	スクレイバー	3.7	1.9	0.3	3.05
314	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	3.8	3	0.8	7.08
315	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	3.8	2.9	0.5	5.69
316	3区南	SD24	サスカイト	スクレイバー	4.1	2.6	0.4	5.1
317	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	4.1	3.4	0.7	8.51
318	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	4.2	3.7	0.9	11.18
319	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	4.35	2.8	0.5	5.94
320	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	4.3	4.25	0.7	15.72
321	2区西・3区南	SD24	サスカイト	スクレイバー	4.7	3.4	0.5	7.12
322	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	3.3	4.6	0.8	11.89
323	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	4.2	1.5	0.6	3.26
324	2区西	SD24	サスカイト	スクレイバー	3.8	2.2	0.4	4.7
325	2区西	SD24	結晶片岩	スクレイバー	8.7	5.3	0.5	38.59
326	2区西	SD24	サスカイト	加工板のぶる	5.9	3.6	0.9	17.35
327	2区西	SD24	サスカイト	加工板のぶる	4.2	2.9	1	11.35
328	2区西	SD24	サスカイト	加工板のぶる	2.5	1.6	0.3	1.13
329	2区西	SD24	サスカイト	加工板のぶる	2.15	2.7	0.5	3.09
330	3区南	SD24	サスカイト	加工板のぶる	2.5	2.8	0.55	5.21
331	2区西	SD24	サスカイト	加工板のぶる	2.9	1.9	0.4	2.68
332	2区西	SD24	サスカイト	使用板のぶる	6.6	4.6	0.6	20.28
333	2区西	SD24	サスカイト	使用板のぶる	4.4	3.6	0.6	7.83
334	2区西・3区南	SD24	サスカイト	使用板のぶる	4.8	3.4	0.6	10.57
335	2区西	SD24	サスカイト	石巻	1.4	1.3	0.4	0.55
336	2区西	SD24	サスカイト	石巻	1.85	1.25	0.2	0.42
337	2区西	SD24	サスカイト	石巻	1.6	1.1	0.35	0.47
338	2区西	SD24	サスカイト	石巻	1.5	1.1	0.25	0.27
339	2区西	SD24	サスカイト	石巻	2.1	1.2	0.3	0.44
340	2区西	SD24	サスカイト	石巻	2.15	1.5	0.3	0.79

番号	地区名	通称名	石材	断面	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
341	2区西	SD24	サスカイト	石織	2	14	0.2	0.36	
342	2区西	SD24	サスカイト	石織	1.3	16	0.3	0.52	
343	2区西	SD24	サスカイト	石織	1.4	18	0.3	0.62	
344	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.2	12	0.3	0.66	
345	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.1	1.25	0.3	0.84	
346	2区西	SD24	サスカイト	石織	1.8	16	0.35	0.74	
347	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.1	16	0.3	0.87	
348	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.2	15	0.35	0.7	
349	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.35	1.3	0.5	1.31	
350	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.05	1.5	0.25	0.75	
351	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.4	1.7	0.3	0.77	
352	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.05	1.6	0.3	0.81	
353	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.1	1.3	0.25	0.63	
354	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.2	1.5	0.3	0.94	
355	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.3	1.45	0.35	1.3	
356	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.1	1.65	0.3	0.75	
357	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.5	1.6	0.3	1.03	
358	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.4	1.7	0.4	1.41	
359	2区西	SD24	サスカイト	石織	3	1.8	0.4	1.09	
360	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.1	1.9	0.4	1.68	
361	3区南	SD24	サスカイト	石織	2.15	1.75	0.4	1.74	
362	3区南	SD24	サスカイト	石織	2.4	1.95	0.4	1.01	
363	3区南	SD24	サスカイト	石織	3	1.8	0.4	1.26	
364	2区西	SD24	サスカイト	石織	3.25	1.9	0.4	2.04	
365	2区西	SD24	サスカイト	石織	3.2	2	0.25	2.67	
366	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.9	21	0.4	1.83	
367	2区西	SD24	サスカイト	石織	3.15	2.25	0.4	1.7	
368	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.7	1.8	0.45	1.89	
369	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.2	1.9	0.2	0.81	
370	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.2	1.8	0.4	1.14	
371	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.2	1.15	0.4	1.15	
372	2区西	SD24	サスカイト	石織	3.2	1.5	0.5	1.33	
373	2区西	SD24	サスカイト	石織	3.3	1.65	0.3	1.25	
374	2区西	SD24	サスカイト	石織	3.4	2.1	0.5	1.87	
375	2区西	SD24	サスカイト	石織	2.7	0.95	0.4	1.24	
376	2区西	SD24	サスカイト	石織	3.1	1.7	0.6	2.88	
377	3区南	SD24	サスカイト	石織	2.9	1.3	0.65	2.94	
378	2区西	SD24	結晶片岩	石織	3.1	1.1	0.5	1.36	
379	2区西	SD24	結晶片岩	扁平片岩	5.7	24	1.25	34.21	
380	2区西	SD24	結晶片岩?	扁平片岩	7.5	34	1.1	42.76	
381	2区西	SD24	結晶片岩	石織	5.3	34	1.3	99.35	
382	2区西	SD24	結灰岩	板岩	2.9	19	0.65	4.83	
383	2区西・3区南	SD24	安山岩	明石	8.7	71	2.3	195.99	
384	3区南	SD24	砂岩	明石	8.8	11.3	4	40.73	

番号	地区名	通称名	石材	岩種	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
385	2区西	SD24	砂岩	卵石	-	-	-	498.62	
386	2区西	SD24	サスカイト	卵片	3	32	0.8	4.01	
387	2区西	SD24	サスカイト	卵片	3.5	19	0.5	2.21	
388	2区西	SD24	サスカイト	卵片	4.8	2	0.5	6.48	
389	2区西	SD24	サスカイト	卵片	3.7	3.3	0.7	5.94	
390	2区西	SD24	サスカイト	卵片	4	3.5	0.5	6.79	
391	2区西	SD24	サスカイト	卵片	4.4	3.6	0.5	7.34	
392	2区西	SD24	サスカイト	卵片	4.1	3.4	0.8	14.98	
393	2区西・3区南	SD24	サスカイト	卵片	4.6	2	0.5	5.83	
394	2区西	SD24	サスカイト	卵片	5	2.8	0.5	6.88	
395	2区西	SD24	サスカイト	卵片	5.8	2.6	0.6	8.73	
396	2区西	SD24	サスカイト	卵片	5	4.8	1.1	30.7	
397	2区西・3区南	SD24	サスカイト	卵片	5.1	3.1	0.6	8.18	
398	3区南	SD24	サスカイト	卵片	5.6	3.6	1.1	25.72	
399	2区西	SD24	サスカイト	石核	4.3	1.8	0.7	6.56	
400	2区西	SD24	サスカイト	石核	5.9	2.2	1.5	17.77	
401	2区西・3区南	SD24	サスカイト	石核	2.4	2.8	0.6	3.14	
402	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.9	2.3	1.7	19.73	
403	2区西	SD24	サスカイト	石核	4.9	2.9	0.8	12.47	
404	3区南	SD24	サスカイト	石核	3.9	2.6	1.4	20.83	
405	2区西	SD24	サスカイト	石核	4.9	2.8	1.15	10.47	
406	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.1	3.1	1.05	7.74	
407	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.3	3	1.25	11.54	
408	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.4	3	1	10.65	
409	3区南	SD24	サスカイト	石核	5.8	3.1	1.1	24.68	
410	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.6	3.1	1.4	17.74	
411	2区西	SD24	サスカイト	石核	2.5	3.5	0.6	5.22	
412	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.6	3.2	1.4	12.12	
413	2区西	SD24	サスカイト	石核	4	3.6	0.9	13.44	
414	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.5	4	1	14.33	
415	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.1	3.5	1.7	20.97	
416	3区南	SD24	サスカイト	石核	4.4	4.1	0.9	21.75	
417	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.3	4	1.2	21.11	
418	2区西	SD24	サスカイト	石核	4.25	4.5	0.9	22.36	
419	2区西	SD24	サスカイト	石核	4.7	4.65	1	19.98	
420	2区西	SD24	サスカイト	石核	7.9	3.5	2.1	62.38	
421	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.7	4.7	0.65	15.97	
422	2区西	SD24	サスカイト	石核	4.1	4.8	0.6	15.05	
423	3区南	SD24	サスカイト	石核	4.5	1.25	33.53		
424	2区西	SD24	サスカイト	石核	4.3	3.2	1.8	32.22	
425	2区西	SD24	サスカイト	石核	4.7	3.5	1.1	21.76	
426	2区西	SD24	サスカイト	石核	6.2	4.8	1.3	40.36	
427	2区西	SD24	サスカイト	石核	3.8	5.1	1.05	25.11	
428	2区西	SD24	サスカイト	石核	4.4	4.9	1.5	41.2	

番号	地区名	通称名	石材	断面	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
429	2区西	SD24	サスカイト	石板	5.1	4.8	1.2	3.01	
430	2区東・3区南	SD24	サスカイト	石板	5.1	4.9	1.6	3.67	
431	2区西	SD24	サスカイト	石板	4.2	5.2	1.2	3.31	
432	2区西・3区南	SD24	サスカイト	石板	5.7	5.6	1.3	5.98	
433	2区西	SD24	サスカイト	石板	5.4	4.3	1.9	5.24	
434	2区西	SD24	サスカイト	石板	3.9	6.3	0.8	20.73	
435	2区西	SD24	サスカイト	石板	7.2	3.7	0.9	24.74	
436	2区西	SD24	サスカイト	石板	7.1	3.8	2.3	63.54	
437	3区南	SD24	サスカイト	石板	12.7	5.9	2.1	214.2	
452	3区南	SD25	サスカイト	スクレイバー	5.3	3.6	1	18.26	
453	3区南	SD25	サスカイト	調片	3.9	3	0.4	4.66	
454	3区南	SD25・SD26	安山岩	砥石?	7.3	4.5	0.9	53.94	
490	3区南	SD26	安山岩	石面?	8.5	5.1	0.8	44.91	
491	3区南	SD26	サスカイト	石板	2.3	1.8	0.3	1.29	
492	3区南	SD26	サスカイト	石板	1.8	1.8	0.4	1.13	
493	3区南	SD26	サスカイト	石板	1.95	1.6	0.45	1.18	
494	3区南	SD26	サスカイト	石板	2.2	1.9	0.3	1.26	
495	3区南	SD26	サスカイト	スクレイバー	8.7	4.8	0.9	38.63	
496	3区南	SD26	サスカイト	スクレイバー	6.1	4.6	1.3	45.38	
497	3区南	SD26	サスカイト	スクレイバー	4.2	2.5	0.7	5.64	
498	3区南	SD26	サスカイト	スクレイバー	5.6	4.3	0.8	24.21	
499	3区南	SD26	サスカイト	石板	3.9	4.2	1.6	30.44	
500	3区南	SD26	サスカイト	石板	5.9	3.2	1.4	24.44	
501	3区南	SD26	サスカイト	石板	4.1	4.3	1.6	43.47	
502	3区南	SD26	サスカイト	石板	11.3	6.4	3	211.83	
503	3区南	SD26	サスカイト	石板	5.6	6.2	2.6	126.14	
504	3区南	SD26	サスカイト	石板	6.8	3.7	0.9	28.59	
505	3区南	SD26	サスカイト	石板	5.2	1.3	1	8.29	
506	3区南	SD26	安山岩	砥石?	14.4	5.7	1.9	237.53	
511	0区	SR31	サスカイト	スクレイバー	5.7	7.8	0.7	29.99	
514	1区南	SR31	サスカイト	スクレイバー	3.5	6	7	15.85	
537	3区南	SR04	サスカイト	石板	2	1.6	0.35	0.99	
538	3区南	SR04	サスカイト	石板	3.3	2.4	0.7	5.76	
539	3区南	SR04	サスカイト	石面?	9.2	3.6	0.9	49.95	
544	2区西	SR03	サスカイト	石板	2.9	1.4	0.3	0.71	
546	1区南	SX04	サスカイト	石板	3	1.5	0.4	1.78	
568	1区南	通称料	サスカイト	スクレイバー	4.1	8.65	0.6	22.25	
568	2区西	SD24	サスカイト	調片?	3.2	2.2	0.5	3.36	
569	2区西	SD24	サスカイト	調片	2.4	1.9	0.25	1.65	
570	2区西	SD24	サスカイト	調片	4.05	4	0.6	9.56	
571	2区西	SD24	サスカイト	調片	2.5	2.4	0.5	2.68	
572	2区西	SD24	サスカイト	調片	2.2	2.8	0.5	3.24	
573	2区西	SD24	サスカイト	調片	2	2.5	0.3	1.31	
574	3区南	SD24	サスカイト	石板	3.2	2	0.8	4.25	

番号	地区名	漁場名	石材	断面	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
575	2区西	SD24	サスカイト	断片	3	2.25	0.2	2.11	
576	2区西・3区南	SD24	サスカイト	断片	37	4.2	1.4	15.29	
577	2区西	SD24	サスカイト	断片	215	24	0.35	1.37	
578	2区西	SD24	サスカイト	断片	23	26	0.2	1.65	
579	2区西	SD24	サスカイト	石板	4	25	0.7	6.55	
580	2区西	SD24	サスカイト	断片	35	34	1	9.82	
581	2区西	SD24	サスカイト	断片	34	4.5	1	10.64	
582	3区南	SD24	サスカイト	断片	2.25	29	0.3	1.97	
583	2区西	SD24	サスカイト	断片	22	25	0.2	1.65	
584	2区西	SD24	サスカイト	断片	4.2	4.2	0.8	12.18	
585	2区西	SD24	サスカイト	断片	2.7	23	0.4	2.29	
586	2区西	SD24	サスカイト	石板	23	2	0.5	2.94	
587	2区西	SD24	サスカイト	断片	2.25	3.35	0.5	3.47	
588	2区西	SD24	サスカイト	断片	2.7	0.6	4.29		
589	2区西	SD24	サスカイト	断片	32	21	0.3	1.81	
590	2区西	SD24	サスカイト	断片	23	32	0.45	2.69	
591	2区西	SD24	サスカイト	断片	1.8	31	0.5	2.23	
592	2区西	SD24	サスカイト	断片	3.6	2.75	0.3	2.74	
593	2区西	SD24	サスカイト	断片	4.6	22	0.8	7.67	
594	2区西	SD24	サスカイト	断片	1.75	32	0.7	4.4	
595	2区西	SD24	サスカイト	断片	2.3	26	0.6	3.06	
596	2区西	SD24	サスカイト	石板	3.4	24	1.2	9.89	
597	2区西	SD24	サスカイト	断片	3.2	16	0.5	2.47	
598	2区西	SD24	サスカイト	石板	1.7	16	0.4	0.73	写真のみ
599	2区西	SD24	サスカイト	石板	1.8	14	0.3	0.61	写真のみ
600	2区西	SD24	サスカイト	石板	1.5	15	0.5	0.78	写真のみ
601	2区西	SD24	サスカイト	石板	1.9	1.3	0.4	0.78	写真のみ
602	2区西	SD24	サスカイト	石板	1.6	13	0.2	0.41	写真のみ
603	2区西	SD24	サスカイト	石板	2.7	16	0.5	1.32	写真のみ
604	2区西	SD24	サスカイト	石板	1.6	12	0.2	0.38	写真のみ
605	2区西	SD24	サスカイト	石板	2.9	12	0.3	1.24	写真のみ
606	2区西	SD24	サスカイト	石板	2.1	15	0.4	1.42	写真のみ

第22表 講野西遺跡出土土器觀察表

番号	地区名	遺物名	種類	器形	調整		内面	外縁	色調		石英・赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口絞	胎面	底径	長さ	内存体	備考
					内縁	外縁			2.5Y4/1 黄灰 1.5-5.5 黄	中・多										
1 A 区	S001	縄文土器	深鉢	-	-	-	10YR7/3 1.5-5.5 黄	10YR7/2 1.5-5.5 黄	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	系縄	
2 A 区	S001	弦生土器	甕	-	-	-	10YR7/3 1.5-5.5 黄	10YR7/2 1.5-5.5 黄	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8	-	
4 A 区	S003	弦生土器	高环	-	-	-	10YR7/4 1.5-5.5 黄	10YR8/4 1.5-5.5 白	中・少	粗・少	中・並	-	-	-	-	-	(10.2)	-	6.8	
5 A 区	S003	弦生土器	鉢	-	-	-	5YR6.6 粗	5YR6.6 粗	中・並	-	粗・少	細・多	-	-	-	-	-	-	1.8	
6 A 区	S003	弦生土器	台付鉢	楕ナデ	-	-	N2 黒	N2 黒	粗・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	
16 C2 区	SD201	弦生土器	盃	楕ナデ	10YR7/3 1.5-5.5 黄	10YR7/3 1.5-5.5 黄	中・並	-	細・少	-	(14.1)	-	-	-	-	-	-	-	2.8	
17 C2 区	SD201	弦生土器	盃	ハケ→楕ナデ	2.5Y7.3 白灰	2.5Y8.3 淡黄	細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	
18 C2 区	SD201	弦生土器	盃?	タタキ	ハケ	2.5Y8.2 白灰	1.5-5.5 黄	細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.7	-	
19 C2 区	SD201	弦生土器	甕	ハケ→楕ナデ	10YR5.2 1.5-5.5 黄	10YR6.3 1.5-5.5 黄	中・少	-	細・並	中・多	-	(14.9)	-	-	-	-	-	-	2.8	
20 C2 区	SD201	弦生土器	甕	タタキ→ ハケ→楕ナデ	2.5Y2.1 黒	10YR5.1 1.5-5.5 黄	中・並	-	細・少	中・多	-	(15.4)	-	-	-	-	-	-	3.8	
21 C2 区	SD201	弦生土器	甕	ハケ→楕ナデ	10YR6.3 1.5-5.5 黄	10YR5.3 1.5-5.5 黄	中・少	-	粗・少	細・多	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	
22 C2 区	SD201	弦生土器	甕	ハタキ→ ハケ→楕ナデ	2.5Y7.2 白灰	2.5Y7.3 淡黄	中・並	-	細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	12.5	4.2	
23 C2 区	SD201	弦生土器	甕	タタキ→ ハケ→楕ナデ	2.5Y7.3 淡黄	2.5Y7.3 淡黄	中・並	-	細・少	-	(9.6)	10.7	1.8	-	-	-	-	6.8		
24 C2 区	SD201	弦生土器	甕	ハケ→楕ナデ	10YR7/2 1.5-5.5 黄	10YR7/3 1.5-5.5 黄	中・少	-	-	-	(14.6)	-	-	-	-	-	-	-	1.8	
25 C2 区	SD201	弦生土器	甕	タタキ→ ハケ→楕ナデ	2.5Y8.2 白灰	2.5Y8.1 白灰	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	
26 C2 区	SD201	弦生土器	高环	楕ナデ	2.5Y6.2 白灰	2.5Y6.2 白灰	細・少	粗・並	-	-	(14.8)	-	-	-	-	-	-	-	1.8	
27 C2 区	SD201	弦生土器	鉢	タタキ→ タタキ→楕ナデ	2.5Y7.2 白灰	2.5Y7.2 白灰	中・並	-	細・少	-	(10.9)	5.9	-	-	-	-	-	-	8.8	
28 C2 区	SD201	弦生土器	鉢	タタキ→ タタキ→楕ナデ	2.5Y7.3 淡黄	2.5Y8.3 淡黄	細・少	中・並	-	-	(9.4)	6.9	3.5	-	-	-	-	4.8		
29 C2 区	SD201	弦生土器	鉢	ハケ?	2.5Y7.3 淡黄	2.5Y7.3 淡黄	粗・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8		
30 C2 区	SD201	弦生土器	盃	指サエ	ハケ	7.5YR5.1 1.5-5.5 黄	10YR5.1 1.5-5.5 黄	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	10.4	-	6.8	
33 C2 区	SD203	縄文土器	深鉢	ハケ	2.5Y7.3 淡黄	2.5Y7.3 淡黄	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8		
34 C2 区	SD203	弦生土器	盃	指サエ →ナデ	10YR5.3 1.5-5.5 黄	10YR8.2 1.5-5.5 黄	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	-	5.8	

第23表 錦野西遺跡出土石器觀察表

番号	地区名	遺跡名	材質	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
3	C-2区	SD001	サヌカイト	刃片	3.25	2.45	0.75	6.69	
7	C-2区	SD007	サヌカイト	石礫	3.5	1.45	0.45	2.05	
31	A区	SD020	サヌカイト	加工板のある断片	-	-	0.4	4.42	
32	A区	SD020	砂岩	砾石	11.15	9.2	3.9	415.38	

第24表 錦野西遺跡出土木器觀察表

番号	地区名	遺跡名	種類	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
8	C-2区	SD020			27.8	10.4	0.7	
9	C-2区	SD020			15.4	10.3	0.9	
10	C-2区	SD020			7	4.7	0.7	
12	C-2区	SD020			5.5	8.7	0.9	
13	C-2区	SD020			11.7	5.7	1.7	
14	C-2区	SD020			6.8	4.8	-	
11-1	C-2区	SD020			7.8	10	0.8	
11-2	C-2区	SD020			6.7	10.2	0.8	
15-1	C-2区	SD020			11.7	4.7	1.1	
15-2	C-2区	SD020			9	7	-	
15-3	C-2区	SD020			5.9	6.9	-	
15-4	C-2区	SD020			16.7	8.6	0.9	



写真5 鎌野西遺跡北野遺跡 遠景（南から）



写真6 鎌野西遺跡北野遺跡 遠景（北から）

写真 7
北野遺跡
調査前状況
2001年4月
(南西から)



写真 8
北野遺跡
調査前状況
2001年4月
(北から)



写真 9
北野遺跡
3区東 作業状況
(南から)



写真 10
北野遺跡
3区東 SD41
(西から)



写真 11
北野遺跡
3区東 SD41
弥生土器出土状況
(西から)



写真 12
北野遺跡
3区南 1面全景
(南から)



写真 13
北野遺跡
3区南 SD19-SR03
(南東から)



写真 14
北野遺跡
2区西 1面完掘状況
(北東から)



写真 15
北野遺跡
2区・3区南 2面全景
(南から)



写真 16
北野遺跡
2区西・3区南 2面全景
(北から)



写真 17
北野遺跡
2区西・3区南 2面全景
(東から)



写真 18
北野遺跡
3区南 SD24
弥生土器出土状況
(南西から)

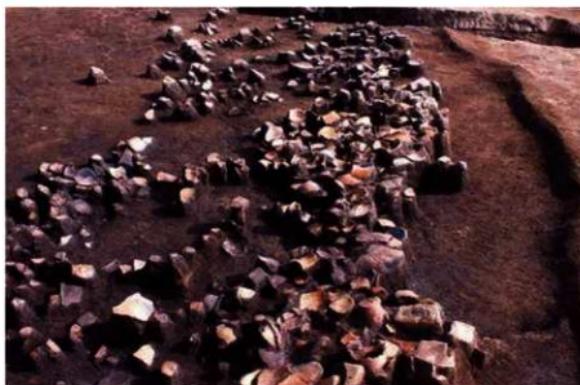


写真 19
北野遺跡
3区南 SD24
遺物出土状況



写真 20
北野遺跡
3区南
SD24、SR03・04 断面
(南から)



写真 21
北野遺跡
3区南
SD24、SR03・04 断面
(南から)



写真 22
北野遺跡
3区南 SD26
調査状況
(北から)



写真 23
北野遺跡
3区南 SD26 断面
(北から)



写真 24
北野遺跡
2区西 SX02 断面
(南から)



写真 25
北野遺跡
2区西 SX02 完掘
(南から)



写真 26
北野遺跡
2区西 調査区西壁
SR03・04 断面
(東から)



写真 27
北野遺跡
2区東 全景
(北から)



写真 28
北野遺跡
2区東 SK12-13 断面
(北から)



写真 29
北野遺跡
1区南 1面全景
(北西から)



写真 30
北野遺跡
1区南 SB群
(東から)



写真 31
北野遺跡
1区南 SD03-04
(東から)



写真 32
北野遺跡
1区南 2面全景
(北から)



写真 33
北野遺跡
1区北 全景
(西から)



写真 34
北野遺跡
1区南 SD07
(西から)



写真 35
北野遺跡
1区北 SD07
弥生土器出土状況
(北から)



写真 36
北野遺跡
1区南 SD07 断面
西から



写真 37
北野遺跡
1区北 SD05 断面
(南から)



写真 38
北野遺跡
1区南 SD08 断面
(南から)

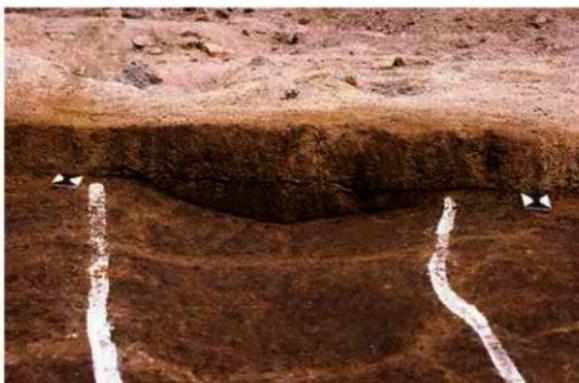


写真 39
北野遺跡
1区南 SD11 断面
(北から)



写真 40
北野遺跡
1 区北 SK07
(西から)



写真 41
北野遺跡
1 区南 SR01 断面
(西から)

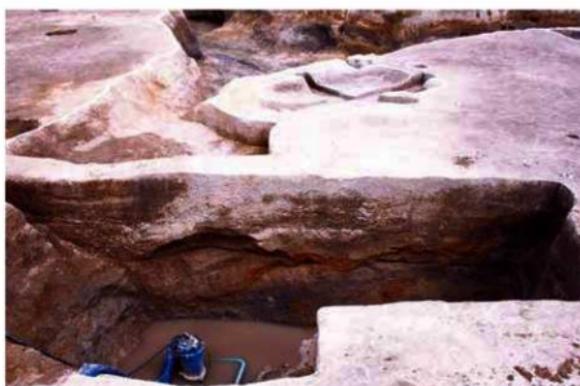


写真 42
北野遺跡
1 区南 調査区南壁
(北から)



写真 43
北野遺跡
0区 SB群
(東から)

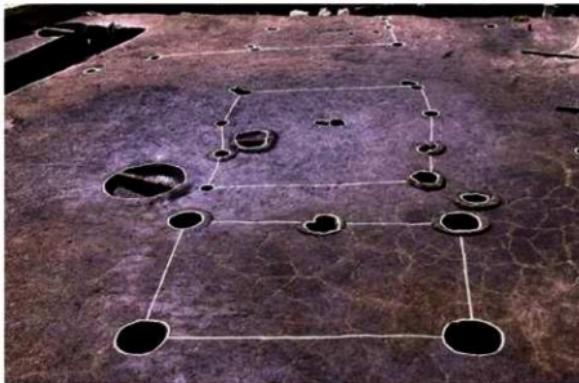


写真 44
北野遺跡
0区 全景
(東から)



写真 45
北野遺跡
0区 全景
(南から)



写真 46
北野遺跡
0 区 SK31 断面
(東から)

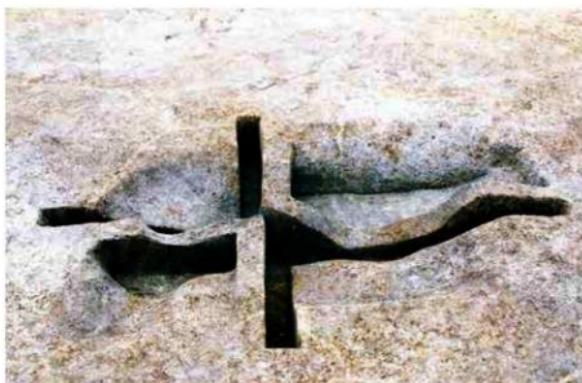


写真 47
北野遺跡
0 区 SK31
(南から)



写真 48
北野遺跡
0 区 畦畔検出状況



写真 49
北野遺跡
0区 SN01 畦畔
(西から)



写真 50
北野遺跡
0区 SN01 畦畔
(北から)



写真 51
北野遺跡
0区 SN01 畦畔断面
(南から)



写真 52
北野遺跡
0 区 畦畔 断面
(南から)



写真 53
北野遺跡
0 区 南東部
SN01 検出状況
(東から)



写真 54
北野遺跡
0 区 南東部 SN01 畦畔
(南西から)



写真 55
北野遺跡
0区 SR01 断面
(南から)

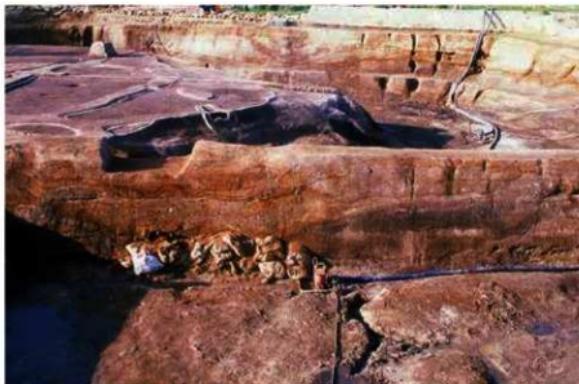


写真 56
北野遺跡
0区 SR01 断面
(南から)



写真 57
北野遺跡
0区 SR01 断面
調査区北壁
(南から)





2



20



3



23



12



47



14



53

写真 58 北野遺跡出土遺物 1



56



57



65



71



60



66



79



94

写真 59 北野遺跡出土遺物 2



95



117



101



126



102



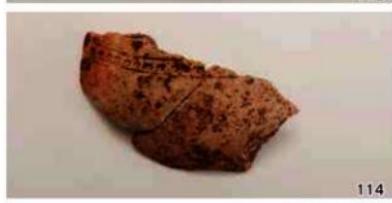
134



112



144



114



165

写真 60 北野遺跡出土遺物 3



169



170



179



184



192



183



193



189



221

写真 61 北野遺跡出土遺物 4



209



266



271



223



273



228



278



258



280

写真 62 北野遺跡出土遺物 5

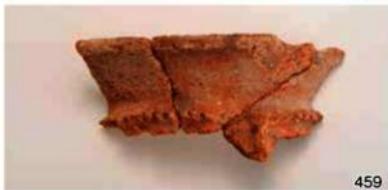
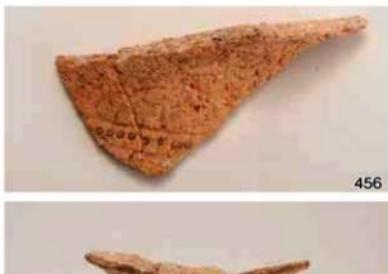


写真 63 北野遺跡出土遺物 6

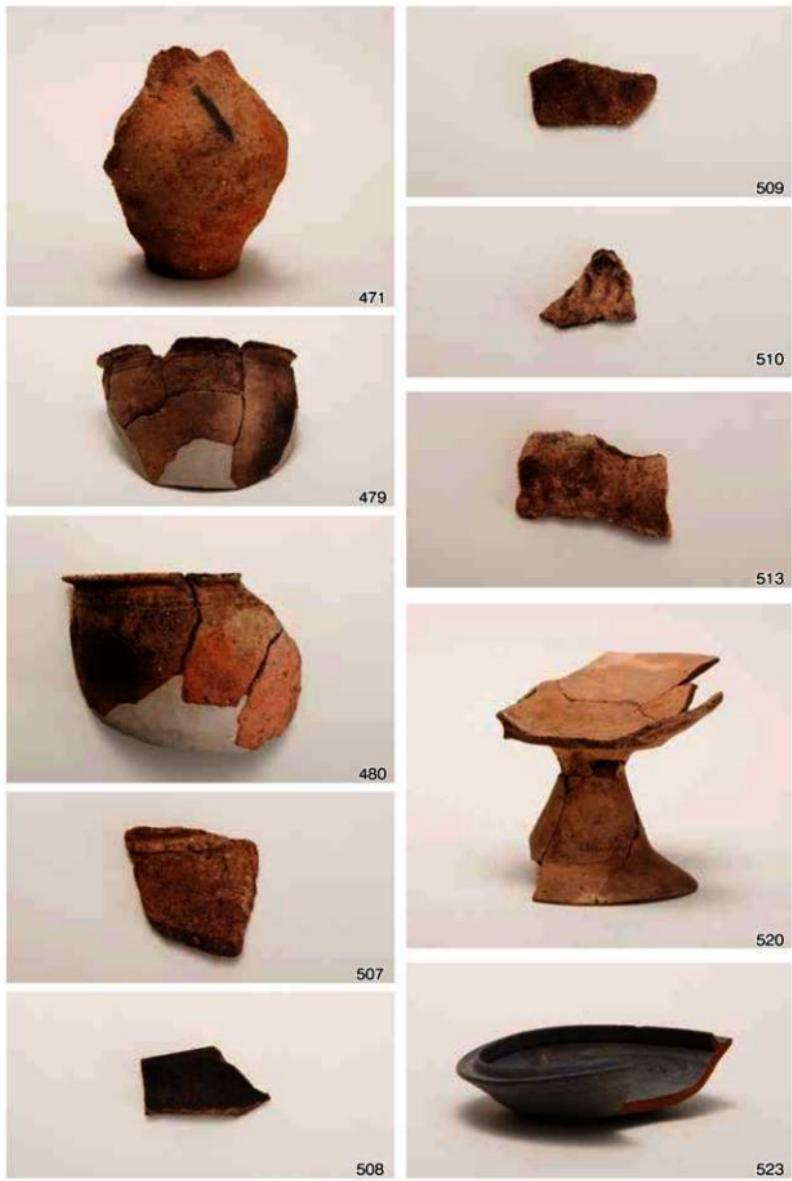


写真 64 北野遺跡出土遺物 7

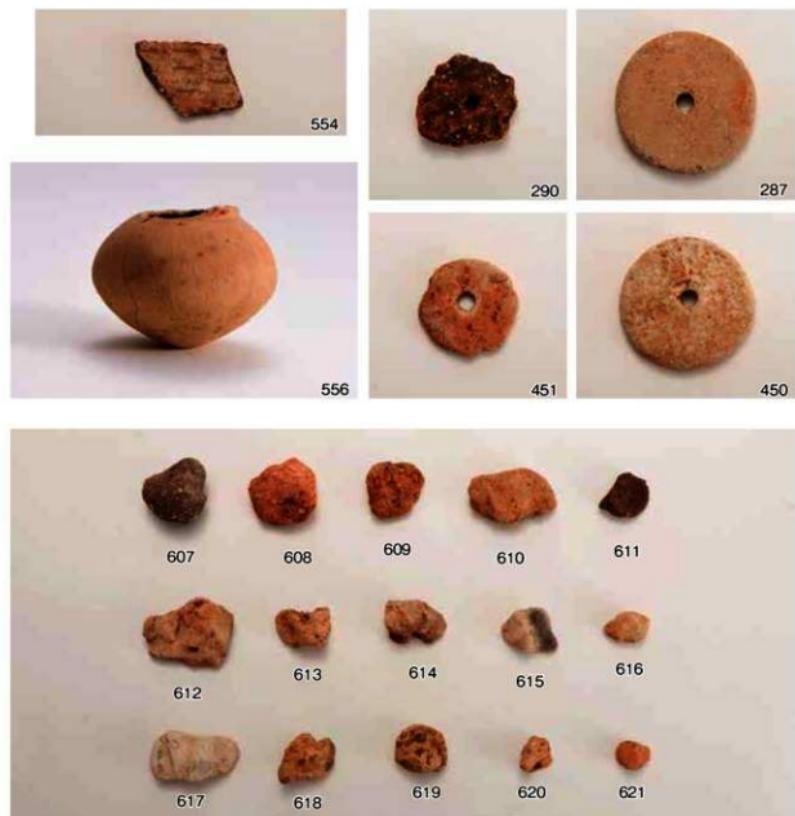


写真 65 北野遺跡出土遺物 8

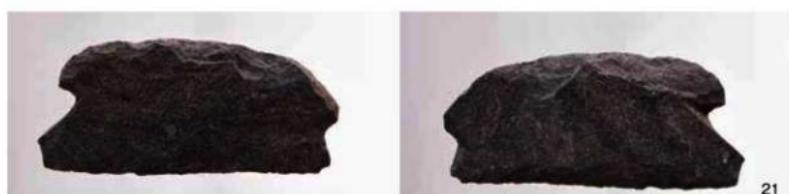


写真 66 北野遺跡出土遺物 9



写真 67 北野遺跡出土遺物 10



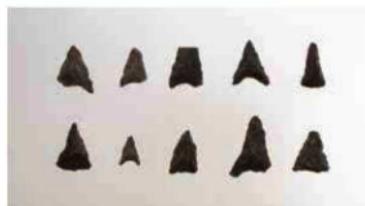
490



539



341 343 356 369 358
348 368 354 353 340



359 345 361 362 349
363 338 355 367 360



373 372 378
376 374 371 375

写真 68 北野遺跡出土遺物 11



写真 69 北野遺跡出土遺物 12

写真 70
鎌野西遺跡
A 区 全景 (南から)



写真 71
鎌野西遺跡
A 区 SK001 断面
(南から)



写真 72
鎌野西遺跡
A 区 SD001 断面
(北東から)

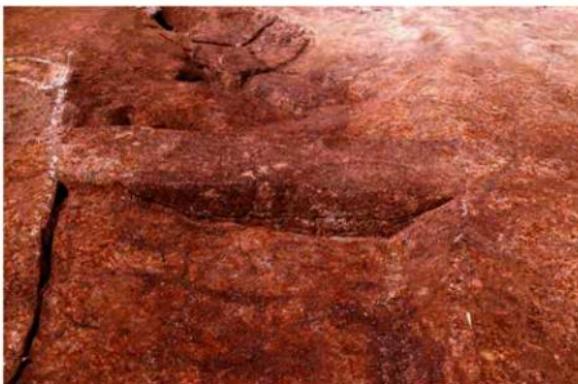


写真 73
鎌野西遺跡
A区 SD001 断面
(北西から)



写真 74
鎌野西遺跡
A区 SD001,002 断面
(北から)



写真 75
鎌野西遺跡
A区 SD002 断面
(北から)



写真 76
鎌野西遺跡
A区 SD003 断面
(東から)



写真 77
鎌野西遺跡
A区 SD006 断面
(東から)

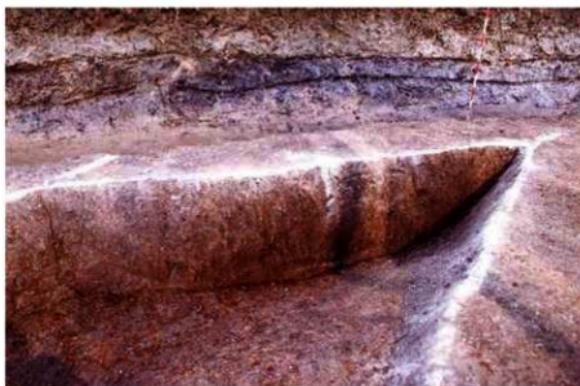


写真 78
鎌野西遺跡
A区 SD007 断面
(東から)



写真 79
鎌野西遺跡
A区 東壁断面（西から）



写真 80
鎌野西遺跡
B区 全景（南西から）



写真 81
鎌野西遺跡
B区 SA101 断面



写真 82
鎌野西遺跡
B 区 SD104 断面
(北から)



写真 83
鎌野西遺跡
B 区 SD105 断面
(北から)



写真 84
鎌野西遺跡
B 区 西壁断面 (東から)



写真 85
鎌野西遺跡
C区 全景 (北から)



写真 86
鎌野西遺跡
C区 SD201 (東から)

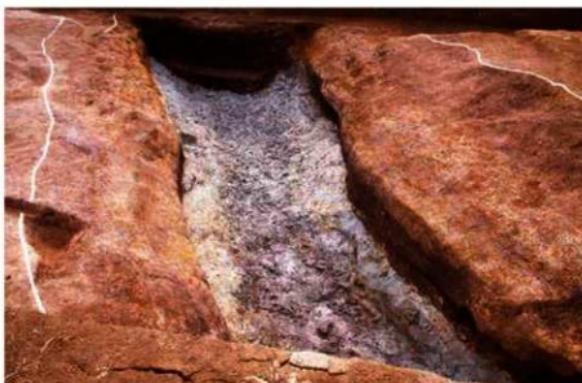


写真 87
鎌野西遺跡
C区 SD201 断面
(東から)



写真 88
鎌野西遺跡
C 区 SD201 断面
(北東から)



写真 89
鎌野西遺跡
C 区 SD201
木器出土状況



写真 90
鎌野西遺跡
C 区 SD202・203
(北西から)



写真 91
鎌野西遺跡
C 区 SD202 断面
(北から)



写真 92
鎌野西遺跡
C 区 北壁断面 (南から)



写真 93
鎌野西遺跡
C 区 SX201 断面
(北から)

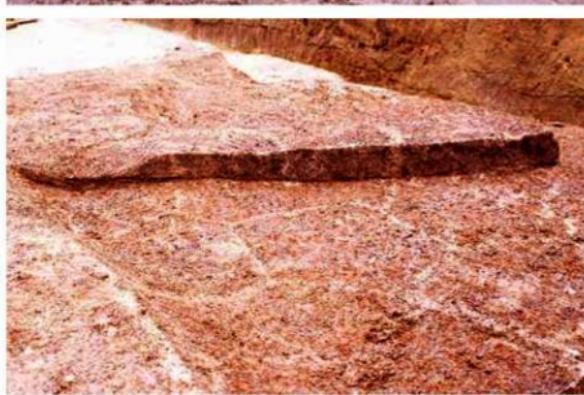


写真 94
鎌野西遺跡
C 区 西壁断面 (東から)



写真 95
鎌野西遺跡
C 区 東壁断面
(北西から)



写真 96
鎌野西遺跡
D 区 東壁断面 (南から)



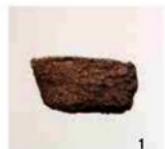
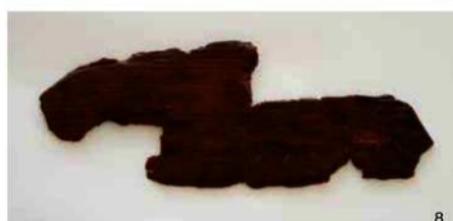


写真 97 錐野西遺跡出土遺物 1



13



15

写真 98 鎌野西遺跡出土遺物 2

報告書抄録

ふりがな	きたのいせき かまのにしいせき						
書名	北野遺跡 錬野西遺跡						
副書名	県道中徳三谷高松線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告						
巻次	第3冊						
編著者名	乗松真也（編）、辻 康男、辻本裕也、金井慎司、馬場健司、藤根 久、米田恭子、渡辺正巳						
編集機関	香川県埋蔵文化財センター						
所在地	〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4 Tel 0877-48-2191 Mail maibun@prefkagawa.lg.jp						
発行機関名	香川県教育委員会						
発行年月日	2020年3月19日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	
	市町	遺跡番号				調査原因	
きたのいせき 北野遺跡	香川県高松市 みたにこうまつ 三谷町	37201	34° 16' 58"	134° 04' 27"	2001年4月1日 ～9月30日 2003年4月1日 ～7月31日	3,712m ²	道路改修
かまのにしいせき 錬野西遺跡	香川県高松市 みたにこうまつ 三谷町	37201	34° 16' 55"	134° 16' 55"	2001年5月1日 ～11月30日 2002年4月1日 ～1月31日 2003年4月1日 ～7月31日	2,888m ²	道路改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
北野遺跡	集落 水田	縄文時代	自然河川	縄文土器			
		弥生時代	水田 自然河川 溝	弥生土器、石器、焼成土塊			
		中世	水田？	須恵器、瓦器			
		近世	掘立柱建物 溝	陶器			
錬野西遺跡	集落	縄文時代～ 弥生時代	自然河川 溝	縄文土器、 弥生土器、石器、木器			
		近世～	橋	なし			
要約		北野遺跡、錬野西遺跡は高松平野南部の扇状地上に立地する。 北野遺跡では弥生時代前期前半の水田が確認された。水田は縄文時代晩期から継続する自然河川屈曲部の両岸に形成され、畦畔の形状は屈曲に影響を受けている。また、水路とみられる溝の肩部には弥生時代前期前半から後半の土器、石器が多く量に廃棄されていた。このなかには土器焼成に伴う可能性のある焼成土塊も含まれる。 錬野西遺跡では弥生時代後期後半の水路と考えられる流路が検出された。水路廃絶後の堆積層からは動とみられる木器が出土した。					

県道中徳三谷高松線建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
第3冊
北野遺跡
鎌野西遺跡

2020年3月19日

編集 香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4
Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249
発行 香川県教育委員会
印刷 ワールド印刷株式会社